

令和２年度 山梨地方最低賃金審議会
第１回 山梨県最低賃金専門部会

と き：令和２年７月１６日
ところ：山梨労働局大会議室

次 第

- １ 開 会
- ２ 労働基準部長あいさつ
- ３ 部会長及び部会長代理選出
- ４ 議 事
 - （１） 山梨県最低賃金改正の審議日程について
 - （２） 最低賃金の状況等について
 - （３） 労使からの意見聴取結果について
 - （４） 今後の審議の進め方について
- ５ 閉 会

山 梨 地 方 最 低 賃 金 審 議 会
山 梨 県 最 低 賃 金 専 門 部 会 委 員 名 簿

令和2年7月16日任命

委員 定数 9人	公益を代表する委員 労働者を代表する委員 使用者を代表する委員	3名 3名 3名	任期	専門部会が 廃止される までの間
			部会長：	部会長代理：○
氏名 職名等				
【公益を代表する委員】				
伊藤 一 帆		山梨大学生命環境学部 教授		
反田 一 富		弁護士		
鷹野 正 則		山梨県納税貯蓄組合総連合会 専務理事		
【労働者を代表する委員】				
大 森 ひさし		電機連合・山梨地方協議会 事務局長		
佐々木 琢 郎		U A ゼンセン山梨県支部 支部長		
白 倉 のりひと		連合山梨 副事務局長		
【使用者を代表する委員】				
一 之瀬 しげき		山梨県経営者協会 専務理事		
川 島 英 一		(株)山梨オーバル 代表取締役		
長谷川 正一郎		長谷川醸造(株) 代表取締役社長		
50音順・敬称略				

山梨地方最低賃金審議会
審 議 資 料

（第1回山梨県最低賃金専門部会）

令和2年7月16日

令和２年度 山梨県最低賃金第１回専門部会（７/１６）

配 布 資 料 目 次

1	山梨県最低賃金推移一覧表（平成元年～令和元年）	1
2	令和元年度地域別最低賃金改定状況	3
3	地域別最低賃金と目安額との関係の推移（平成21～令和元年度）	5
4	地域別最低賃金の発効状況の推移（平成21～令和元年度）	7
5	地域別最低賃金の異議申出状況の推移（平成21～令和元年度）	9
6	山梨県金融経済概観（2020年６月10日）	11
7	企業短期経済観測調査（2020年７月１日、日本銀行甲府支店）	21
8	山梨の賃金・労働時間及び雇用の動き（令和２年４月分、速報）（山梨県 県民生活部統計調査課 毎月勤労統計調査地方調査結果）	33
9	山梨県の石油製品価格調査結果（資源エネルギー庁「石油製品価格調査 結果」から）	51
10	地域経済報告 - さくらレポート（2020年７月９日）	53
11	労使からの意見聴取結果について	83

山梨県最低賃金推移一覧表(平成元年～令和元年)

年	最低賃金額		引上額			引上率		日額の1/8と 時間額の関係	採決 状況
	日額	時間額	目安	目安と の比較	時間額	日額	時間額		
平/元	3,843	481	150	± 0	19	4.06	4.11	1 / 8	○
2	4,028	504	185	± 0	23	4.81	4.78	1 / 8	○
3	4,224	528	196	± 0	24	4.87	4.76	1 / 8	○
4	4,401	551	177	+ 1	23	4.19	4.36	1 / 8	○
5	4,537	568	136	+ 1	17	3.09	3.09	1 / 8	○
6	4,646	582	109	+ 1	14	2.40	2.46	1/8 + 1	○
7	4,752	595	106	± 0	13	2.28	2.23	1/8 + 1	○
8	4,851	608	99	± 0	13	2.08	2.18	1/8 + 1	○
9	4,957	622	106	± 0	14	2.19	2.30	1/8 + 2	●
10	5,046	632	89	± 0	10	1.80	1.61	1/8 + 1	○
11	5,091	638	45	± 0	6	0.89	0.95	1/8 + 1	○
12	5,131	643	40	± 0	5	0.79	0.78	1/8 + 1	○
13	5,166	647	35	± 0	4	0.68	0.62	1/8 + 1	●
14		647	-	-	± 0		0.00		○
15		647	0	± 0	± 0		0.00		○
16		648	-	-	1		0.15		○
17		651	3	± 0	3		0.46		○
18		655	3	+ 1	4		0.61		○
19		665	9～10	± 0	10		1.53		●
20		676	10	+ 1	11		1.65		●
21		677	-	-	1		0.15		●
22		689	10	+ 2	12		1.77		●
23		690	1	± 0	1		0.15		● ▲
24		695	4	+ 1	5		0.72		○
25		706	10	+ 1	11		1.58		○
26		721	14	+ 1	15		2.12		○
27		737	16	± 0	16		2.22		○
28		759	22	± 0	22		2.99		○
29		784	25	± 0	25		3.29		● ▲
30		810	26	± 0	26		3.32		○
令/元		837	27	± 0	27		3.33		●

採決状況 ○全会一致 ●使側反対 使側一部反対 ▲労使とも一部反対

平成14年、16年及び21年については目安額は示されなかった。

また、平成15年の目安額は0円であった。

令和元年度 地域別最低賃金 改定状況

ランク	都道府県名	前年度決定金額 (円)	改定金額	引上げ額 (円)	目安額	発効年月日
A	東 京	985	1,013	28	28	2019年 10月1日
A	神奈川	983	1,011	28	28	2019年 10月1日
A	大 阪	936	964	28	28	2019年 10月1日
A	愛 知	898	926	28	28	2019年 10月1日
A	埼 玉	898	926	28	28	2019年 10月1日
A	千 葉	895	923	28	28	2019年 10月1日
B	京 都	882	909	27	27	2019年 10月1日
B	兵 庫	871	899	28	27	2019年 10月1日
B	静 岡	858	885	27	27	2019年 10月4日
B	滋 賀	839	866	27	27	2019年 10月3日
B	茨 城	822	849	27	27	2019年 10月1日
B	栃 木	826	853	27	27	2019年 10月1日
B	広 島	844	871	27	27	2019年 10月1日
B	長 野	821	848	27	27	2019年 10月4日
B	富 山	821	848	27	27	2019年 10月1日
B	三 重	846	873	27	27	2019年 10月1日
B	山 梨	810	837	27	27	2019年 10月1日
C	群 馬	809	835	26	26	2019年 10月6日
C	岡 山	807	833	26	26	2019年 10月2日
C	石 川	806	832	26	26	2019年 10月2日
C	香 川	792	818	26	26	2019年 10月1日
C	奈 良	811	837	26	26	2019年 10月5日
C	宮 城	798	824	26	26	2019年 10月1日
C	福 岡	814	841	27	26	2019年 10月1日
C	山 口	802	829	27	26	2019年 10月5日
C	岐 阜	825	851	26	26	2019年 10月1日
C	福 井	803	829	26	26	2019年 10月4日
C	和歌山	803	830	27	26	2019年 10月1日
C	北海道	835	861	26	26	2019年 10月3日
C	新 潟	803	830	27	26	2019年 10月6日
C	徳 島	766	793	27	26	2019年 10月1日
D	福 島	772	798	26	26	2019年 10月1日
D	大 分	762	790	28	26	2019年 10月1日
D	山 形	763	790	27	26	2019年 10月1日
D	愛 媛	764	790	26	26	2019年 10月1日
D	島 根	764	790	26	26	2019年 10月1日
D	鳥 取	762	790	28	26	2019年 10月5日
D	熊 本	762	790	28	26	2019年 10月1日
D	長 崎	762	790	28	26	2019年 10月3日
D	高 知	762	790	28	26	2019年 10月5日
D	岩 手	762	790	28	26	2019年 10月4日
D	鹿児島	761	790	29	26	2019年 10月3日
D	佐 賀	762	790	28	26	2019年 10月4日
D	青 森	762	790	28	26	2019年 10月4日
D	秋 田	762	790	28	26	2019年 10月3日
D	宮 崎	762	790	28	26	2019年 10月4日
D	沖 縄	762	790	28	26	2019年 10月3日

地域別最低賃金額と目安額との関係の推移（平成21～令和元年度）

（単位：円）

年度													都道府県名
都道府県名		2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	R 1	
A ラ ン ク	東 京												東 京
	神奈川	+ 1						- 1					神奈川
	大 阪	+ 1						+ 1					大 阪
	愛 知	+ 1	+ 3	+ 1	+ 3	+ 3	+ 1	+ 1					愛 知
	埼 玉	+ 1 ～ 2	+ 1			+ 2	+ 2		+ 1				埼 玉
B ラ ン ク	千 葉		+ 6		+ 2	+ 2	+ 2						千 葉
	京 都			+ 1		+ 2	+ 1						京 都
	兵 庫	+ 1		+ 2					+ 1		+ 1	+ 1	兵 庫
	静 岡	+ 2	+ 2	+ 2	+ 3	+ 2	+ 1						静 岡
	滋 賀	+ 2	+ 3	+ 2	+ 3	+ 2	+ 1						滋 賀
	茨 城	+ 2	+ 2	+ 1	+ 3	+ 2	+ 1						茨 城
	栃 木	+ 2	+ 2	+ 2	+ 1	+ 1							栃 木
	広 島	+ 1				+ 2	+ 2	+ 1					広 島
	長 野	+ 1	+ 2		+ 2	+ 1							長 野
	富 山	+ 2	+ 2		+ 4		+ 1						富 山
C ラ ン ク	三 重	+ 1	+ 2	+ 2	+ 3	+ 1	+ 1						三 重
	山 梨	+ 1	+ 2		+ 1	+ 1	+ 1						山 梨
	群 馬	+ 1	+ 2	+ 1	+ 2	+ 1					+ 1		群 馬
	岡 山	+ 1	+ 3	+ 1	+ 2	+ 2	+ 2				+ 1		岡 山
	石 川	+ 1	+ 2		+ 2	+ 1		+ 1					石 川
	香 川	+ 1	+ 2	+ 2	+ 3	+ 2	+ 2	+ 1	+ 1		+ 1		香 川
	奈 良	+ 1	+ 2	+ 1	+ 2	+ 1							奈 良
	宮 城	- 1	+ 2	*		+ 1					+ 1		宮 城
	福 岡	+ 5	+ 2	+ 2	+ 2	+ 1	+ 1					+ 1	福 岡
	山 口	+ 1	+ 2	+ 2	+ 2	+ 1						+ 1	山 口
	岐 阜				+ 2	+ 1							岐 阜
	福 井	+ 1	+ 2		+ 2	+ 1	+ 1						福 井
	和歌山	+ 1			+ 1	+ 1					+ 1	+ 1	和歌山
D ラ ン ク	北海道	+ 1 ～ 2											北海道
	新 潟		+ 2	+ 1	+ 2	+ 2				+ 1		+ 1	新 潟
	徳 島	+ 1	+ 2	+ 1	+ 3	+ 2					+ 1	+ 1	徳 島
	福 島	+ 3	+ 3	*	+ 2	+ 1	+ 1				+ 1		福 島
	大 分	+ 1	+ 2	+ 3	+ 2	+ 1		+ 1			+ 2	+ 2	大 分
	山 形	+ 2	+ 4	+ 1	+ 3	+ 1	+ 2				+ 1	+ 1	山 形
	愛 媛	+ 1	+ 2	+ 2	+ 3	+ 2	+ 1				+ 2		愛 媛
	島 根	+ 1	+ 2	+ 3	+ 2	+ 2	+ 2	+ 1	+ 1		+ 1		島 根
	鳥 取	+ 1	+ 2	+ 3	+ 3	+ 1			+ 1	+ 1	+ 1	+ 2	鳥 取
	熊 本	+ 2	+ 3	+ 3	+ 2	+ 1		+ 1		+ 1	+ 2	+ 2	熊 本
	長 崎	+ 1	+ 3	+ 3	+ 3	+ 1		+ 1			+ 2	+ 2	長 崎
	高 知	+ 1	+ 1	+ 2	+ 3	+ 2			+ 1		+ 2	+ 2	高 知
	岩 手	+ 3	+ 3	*	+ 4	+ 2		+ 1			+ 1	+ 2	岩 手
	鹿児島	+ 3	+ 2	+ 4	+ 3	+ 1					+ 1	+ 3	鹿児島
ク	佐 賀	+ 1	+ 3	+ 3	+ 3	+ 1	+ 1				+ 2	+ 2	佐 賀
	青 森		+ 2	+ 1	+ 2	+ 1	+ 1				+ 1	+ 2	青 森
	秋 田		+ 3	+ 1	+ 3	+ 1	+ 1				+ 1	+ 2	秋 田
	宮 崎	+ 2	+ 3	+ 3	+ 3	+ 1				+ 1	+ 2	+ 2	宮 崎
	沖 縄	+ 2	+ 3	+ 2	+ 4	+ 1				+ 1	+ 2	+ 2	沖 縄

*平成23年度の岩手、宮城及び福島県の3県については、同年度の目安が、「各県ごとの被害状況等に十分に配慮」等した審議を求めた経緯を踏まえ、目安と改定額との差額を記載していない。

地域別最低賃金の発効状況の推移（平成21～令和元年度）

年度		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	都道府県
都道府県名													
A ラ ン ク	東 京	10.1	10.24	10.1	10.1	10.19	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	東 京
	神奈川	10.25	10.21	10.1	10.1	10.20	10.1	10.18	10.1	10.1	10.1	10.1	神奈川
	大 阪	9.30	10.15	9.30	9.30	10.18	10.5	10.1	10.1	9.30	10.1	10.1	大 阪
	愛 知	10.11	10.24	10.7	10.1	10.26	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	愛 知
	埼 玉	10.17	10.16	10.1	10.1	10.20	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	埼 玉
	千 葉	10.3	10.24	10.1	10.1	10.18	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	千 葉
B ラ ン ク	京 都	10.17	10.17	10.16	10.14	10.24	10.22	10.7	10.2	10.1	10.1	10.1	京 都
	兵 庫	10.8	10.17	10.1	10.1	10.19	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	兵 庫
	静 岡	10.26	10.14	10.14	10.12	10.12	10.5	10.3	10.5	10.4	10.3	10.4	静 岡
	滋 賀	10.1	10.21	10.20	10.6	10.25	10.9	10.8	10.6	10.5	10.1	10.3	滋 賀
	茨 城	10.8	10.16	10.8	10.6	10.19	10.4	10.4	10.1	10.1	10.1	10.1	茨 城
	栃 木	10.1	10.7	10.1	10.1	10.19	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	栃 木
	広 島	10.8	10.30	10.1	10.1	10.24	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	広 島
	長 野	10.1	10.29	10.1	10.1	10.20	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.4	長 野
	富 山	10.18	10.27	10.1	11.4	10.6	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	富 山
	三 重	10.1	10.22	10.1	9.30	10.19	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	三 重
	山 梨	10.1	10.17	10.20	10.1	10.18	10.1	10.1	10.1	10.14	10.3	10.1	山 梨
C ラ ン ク	群 馬	10.4	10.9	10.7	10.10	10.13	10.5	10.8	10.6	10.7	10.6	10.6	群 馬
	岡 山	10.8	11.5	10.27	10.24	10.30	10.5	10.2	10.1	10.1	10.3	10.2	岡 山
	石 川	10.10	10.30	10.20	10.6	10.19	10.5	10.1	10.1	10.1	10.1	10.2	石 川
	香 川	10.1	10.16	10.5	10.5	10.24	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	香 川
	奈 良	10.17	10.24	10.7	10.6	10.20	10.3	10.7	10.6	10.1	10.4	10.5	奈 良
	宮 城	10.24	10.24	10.29	10.19	10.31	10.16	10.3	10.5	10.1	10.1	10.1	宮 城
	福 岡	10.16	10.22	10.15	10.13	10.18	10.5	10.4	10.1	10.1	10.1	10.1	福 岡
	山 口	10.4	10.29	10.6	10.1	10.10	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.5	山 口
	岐 阜	10.19	10.17	10.1	10.1	10.19	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	10.1	岐 阜
	福 井	10.1	10.21	10.1	10.6	10.13	10.4	10.1	10.1	10.1	10.1	10.4	福 井
	和歌山	10.31	10.29	10.13	10.1	10.19	10.17	10.2	10.1	10.1	10.1	10.1	和歌山
	北海道	10.10	10.15	10.6	10.18	10.18	10.8	10.8	10.1	10.1	10.1	10.3	北海道
	新 潟	10.26	10.21	10.7	10.5	10.26	10.4	10.3	10.1	10.1	10.1	10.6	新 潟
	徳 島	10.1	10.16	10.15	10.19	10.30	10.1	10.4	10.1	10.5	10.1	10.1	徳 島
D ラ ン ク	福 島	10.18	10.24	11.2	10.1	10.6	10.4	10.3	10.1	10.1	10.1	10.1	福 島
	大 分	10.1	10.24	10.20	10.4	10.20	10.4	10.17	10.1	10.1	10.1	10.1	大 分
	山 形	10.18	10.29	10.29	10.24	10.24	10.17	10.16	10.7	10.6	10.1	10.1	山 形
	愛 媛	10.1	10.27	10.20	10.24	10.31	10.12	10.3	10.1	10.1	10.1	10.1	愛 媛
	島 根	10.4	10.24	11.6	10.14	11.6	10.5	10.4	10.1	10.1	10.1	10.1	島 根
	鳥 取	10.8	10.31	10.29	10.20	10.25	10.8	10.4	10.12	10.6	10.5	10.5	鳥 取
	熊 本	10.18	11.5	10.20	10.1	10.30	10.1	10.17	10.1	10.1	10.1	10.1	熊 本
	長 崎	10.10	11.4	10.12	10.24	10.20	10.1	10.7	10.6	10.6	10.6	10.3	長 崎
	高 知	10.1	10.27	10.26	10.26	10.26	10.26	10.18	10.16	10.13	10.5	10.5	高 知
	岩 手	10.4	10.30	11.11	10.20	10.27	10.4	10.16	10.5	10.1	10.1	10.4	岩 手
	鹿児島	10.14	10.28	10.29	10.13	10.27	10.19	10.8	10.1	10.1	10.1	10.3	鹿児島
	佐 賀	10.1	10.29	10.6	10.21	10.26	10.4	10.4	10.2	10.6	10.4	10.4	佐 賀
	青 森	10.1	10.29	10.16	10.12	10.24	10.24	10.18	10.20	10.6	10.4	10.4	青 森
	秋 田	10.1	11.3	10.30	10.13	10.26	10.5	10.7	10.6	10.1	10.1	10.3	秋 田
	宮 崎	10.14	11.4	11.2	10.26	11.2	10.16	10.16	10.1	10.6	10.5	10.4	宮 崎
	沖 縄	10.18	11.5	11.6	10.25	10.26	10.24	10.9	10.1	10.1	10.3	10.3	沖 縄

地域別最低賃金の異議申出状況の推移（平成21～令和元年度）

年度		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	都道府県
都道府県													
A ラ ン ク	東 京						○					○	東 京
	神奈川						○					○	神奈川
	大 阪						○					○	大 阪
	愛 知						○					○	愛 知
	埼 玉											○	埼 玉
B ラ ン ク	千 葉						○					○	千 葉
	京 都						○					○	京 都
	兵 庫						○					○	兵 庫
	静 岡						○					○	静 岡
	滋 賀						○					○	滋 賀
	茨 城						○					○	茨 城
	栃 木						○					○	栃 木
	広 島						○					○	広 島
	長 野						○					○	長 野
	富 山						○					○	富 山
C ラ ン ク	三 重						○					○	三 重
	山 梨						○					○	山 梨
	群 馬						○					○	群 馬
	岡 山						○					○	岡 山
	石 川						○						石 川
	香 川						○					○	香 川
	奈 良						○					○	奈 良
	宮 城						○					○	宮 城
	福 岡						○					○	福 岡
	山 口						○					○	山 口
	岐 阜						○					○	岐 阜
	福 井											○	福 井
D ラ ン ク	和歌山						○					○	和歌山
	北 海 道						○					○	北 海 道
	新 潟						○					○	新 潟
	徳 島						○					○	徳 島
	福 島						○					○	福 島
	大 分						○					○	大 分
	山 形											○	山 形
	愛 媛						○					○	愛 媛
	島 根						○					○	島 根
	鳥 取						○					○	鳥 取
	熊 本						○					○	熊 本
	長 崎						○					○	長 崎
E ラ ン ク	高 知						○					○	高 知
	岩 手						○					○	岩 手
	鹿 児 島		○	○	○	○	○	○				○	鹿 児 島
	佐 賀						○					○	佐 賀
	青 森						○					○	青 森
	秋 田						○					○	秋 田
	宮 崎						○					○	宮 崎
F ラ ン ク	沖 縄											○	沖 縄

山梨県金融経済概観

2020年6月

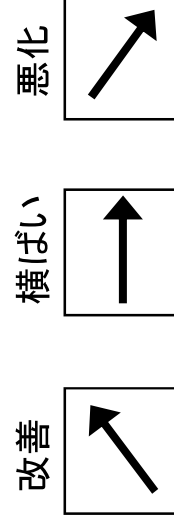
県内景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一段と悪化した状態が続いている。

<目次>

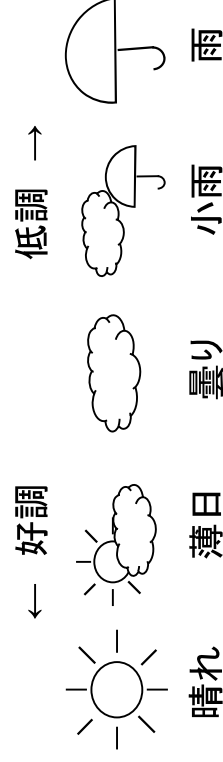
1. 個人消費
2. 設備投資
3. 住宅投資
4. 公共投資
- 5-1. 生産
- 5-2. 生産（業種別）
6. 雇用・所得
7. 物価・倒産
8. 金融
- （付） 山梨県内金融経済指標

<凡例>

～前回からの変化～



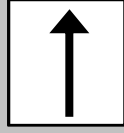
～基調判断～



* この資料は、公表日前営業日時点で利用可能であった情報をもとに作成しています。

1. 個人消費

前回からの
変化



基調判断
(不変)



足もと下げ止まりの動きもみられるものの、新型コロナウイルス感染症による深刻な影響が続く、大幅に減少した状態となっている。

前年比

大型小売店

(百貨店・スーパー)

20/3月 4月

▲4.0% ⇒ ▲1.6%

20/4月の売上高は、食料品が好調であったものの、衣料品の不調や休業の影響などから、前年を下回った。

コンビニエンス
ストア

20/3月 4月

▲7.2% ⇒ ▲12.7%

20/4月の売上高は、来店客数の減少などから、前年を下回った。

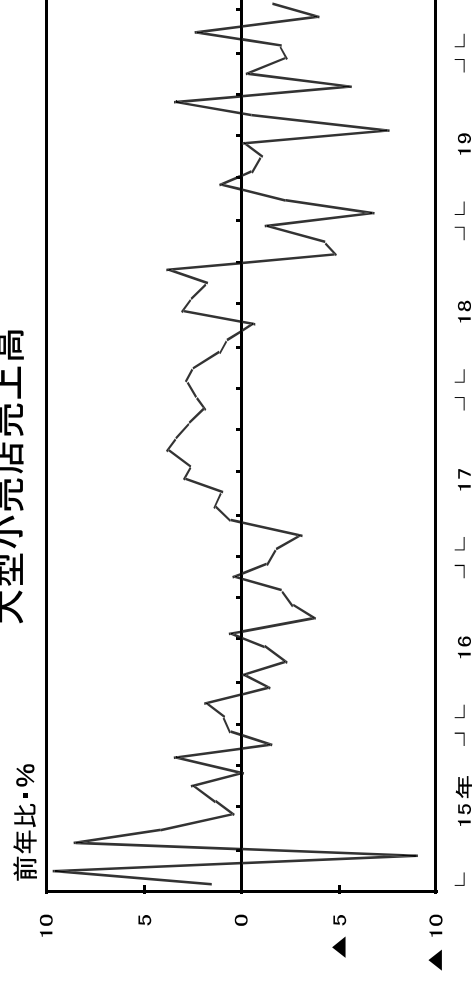
乗用車(含む軽)

20/3月 4月

▲7.8% ⇒ ▲28.8%

20/4月の乗用車登録・届出台数は、普通車・小型車、軽乗用車ともに前年を下回り、前年比▲28.8%となった。

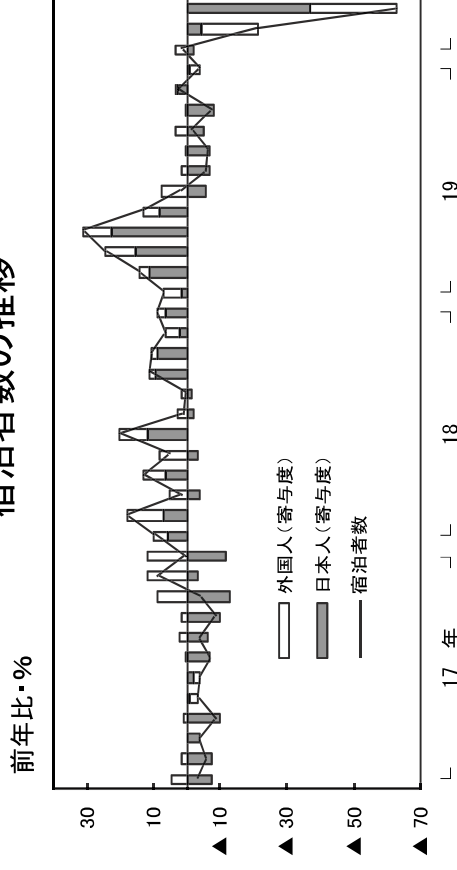
大型小売店売上高



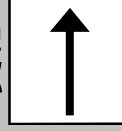
観光

20/3月の延べ宿泊者数は、日本人、外国人ともに前年を下回ったことから、前年比▲63.1%となった。

宿泊者数の推移

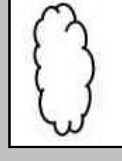


前回からの
変化



2. 設備投資

基調判断
(不変)

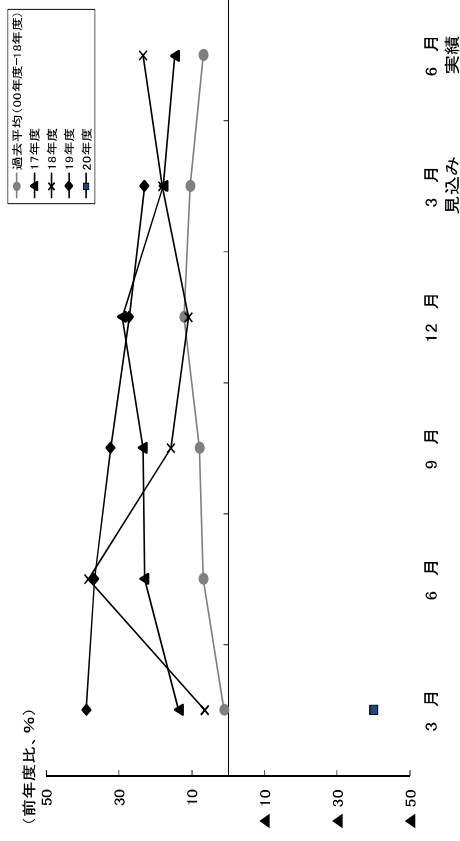


減少している。

設備投資計画

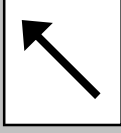
19年度は前年度比+23.0%の増加の見込み。
20年度は同▲40.0%の減少となる計画(短観調査)。

設備投資計画の修正状況(全産業)



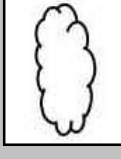
出所:観光庁、日本銀行甲府支店

前回からの変化



3. 住宅投資

基調判断(改善)



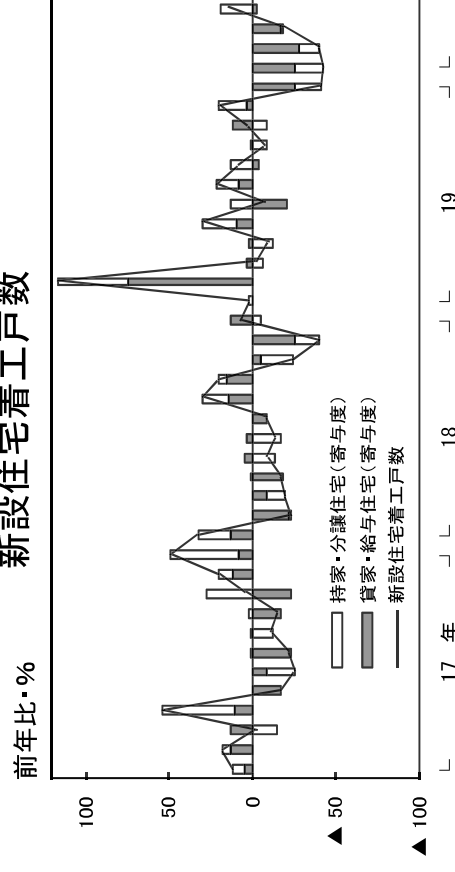
持ち直しの動きがみられる。



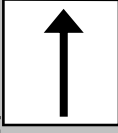
住宅投資

20/4月の新設住宅着工戸数は、持家、分譲、貸家で前年を上回ったことから、前年比+15.9%となった。

新設住宅着工戸数

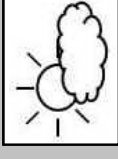


前回からの変化



4. 公共投資

基調判断(不変)

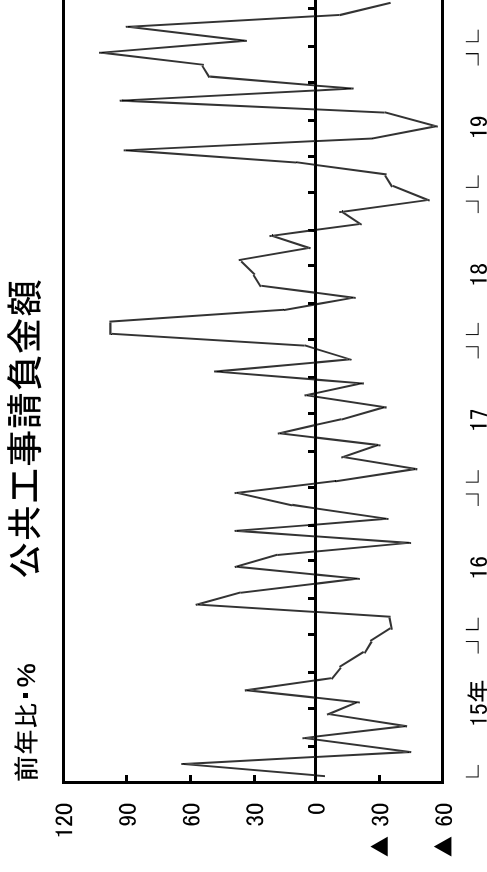


横ばい圏内で推移している。

公共投資

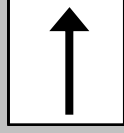
20/4月の公共工事請負金額は、県や国などで前年を下回ったことから、前年比▲35.7%となった。

公共工事請負金額

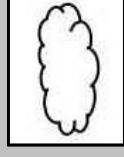


5-1. 生産

前回からの
変化



基調判断
(不変)



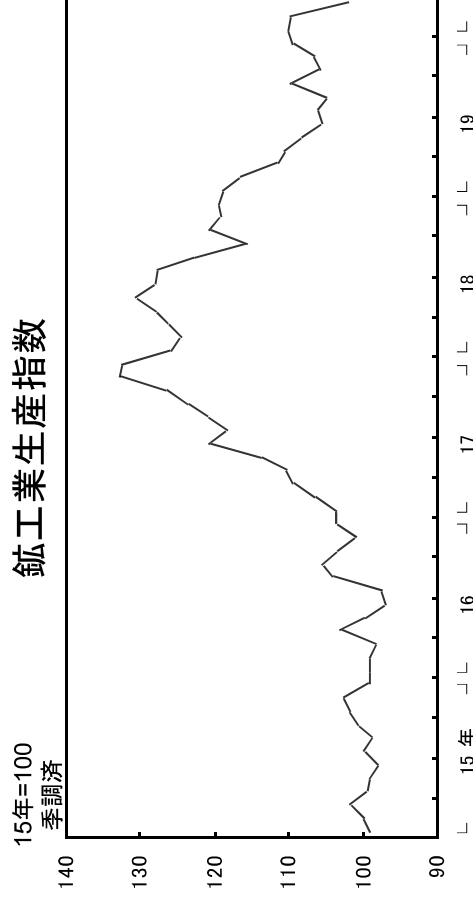
新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きが続いている。



鉱工業生産

20/3月は、季調済前月比では▲7.3%の101.7となった(原指数前年比では▲7.5%)。

鉱工業生産指数



所定外労働時間 (製造業)

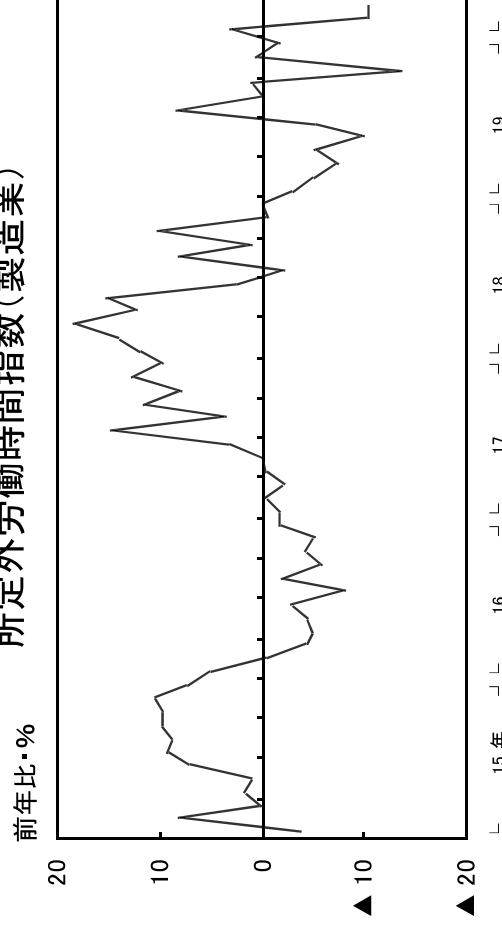
20/3月は、前年を下回った。

前年比

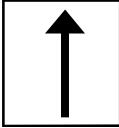
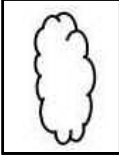
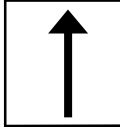
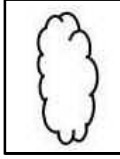
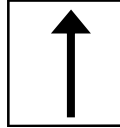
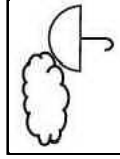
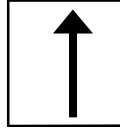
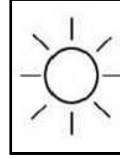
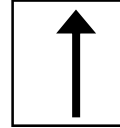
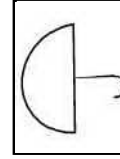
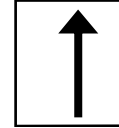
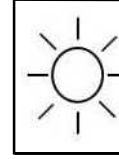
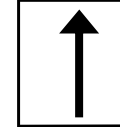
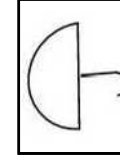
20/2月 3月

▲10.4% ⇒ ▲10.3%

所定外労働時間指数(製造業)



5-2. 生産(業種別)

前回からの変化		基調判断
生産用機械		横ばい圏内で推移している。  (不変)
汎用・業務用機械		弱めの動きとなっている。  (不変)
電気機械		弱めの動きとなっている。  (不変)
電子部品・デバイス		高水準横ばい圏内で推移している。  (不変)
輸送機械		悪化している。  (不変)
食料品		高水準横ばい圏内で推移している。  (不変)
宝飾		悪化している。  (不変)

前回からの
変化



6. 雇用・所得

新型コロナウイルス感染症の影響により、
労働需給、雇用者所得とも弱さが増してい
る。

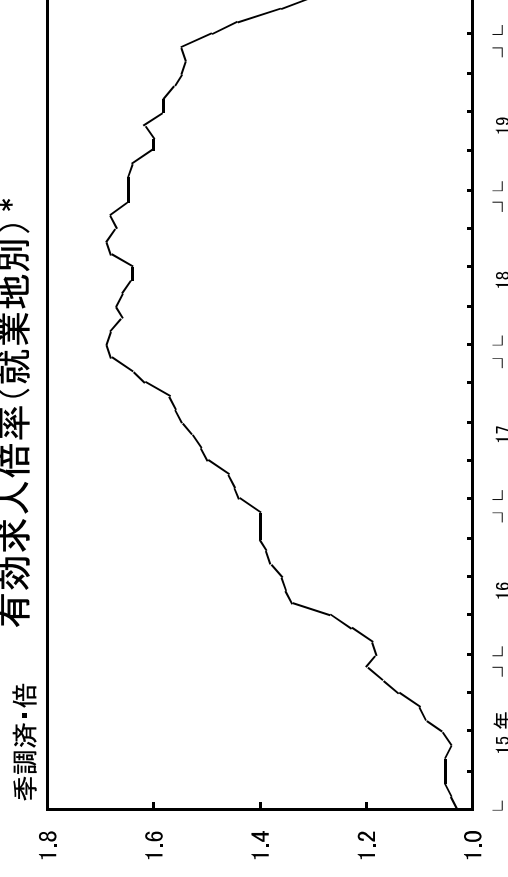


有効求人倍率 (就業地別)*

20/3月 4月
1.36倍 ⇒ 1.29倍

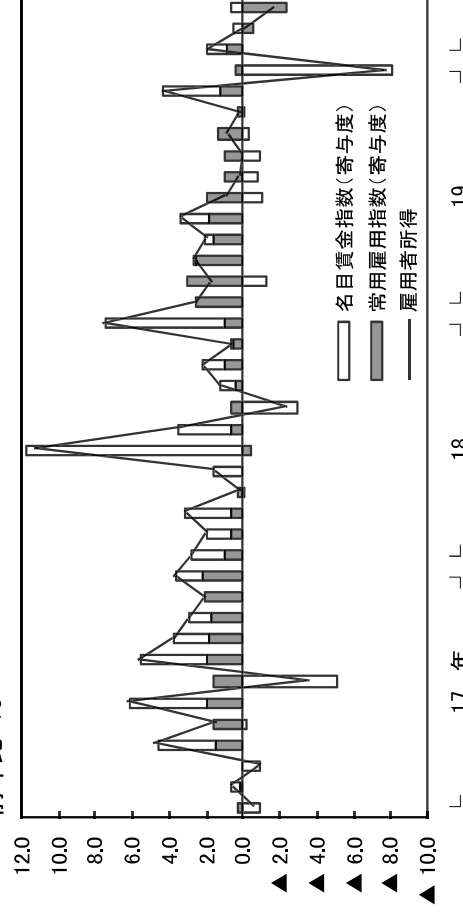
20/4月は、前月比▲0.07
ポイントの低下。

有効求人倍率(就業地別)*



雇用者所得

前年比・%



雇用者所得

前年比
20/1月 2月 3月
+1.9% ⇒ ▲0.1% ⇒ ▲1.8%

20/3月は、前年を下回った。

* 季節求人については受理所を就業地とみなしている。就業地として複数の市区町村が
挙げられている求人については、求人数を該当の市区町村に割り当てることにより集計している。

7. 物価・倒産



消費者物価* (除く生鮮食品)

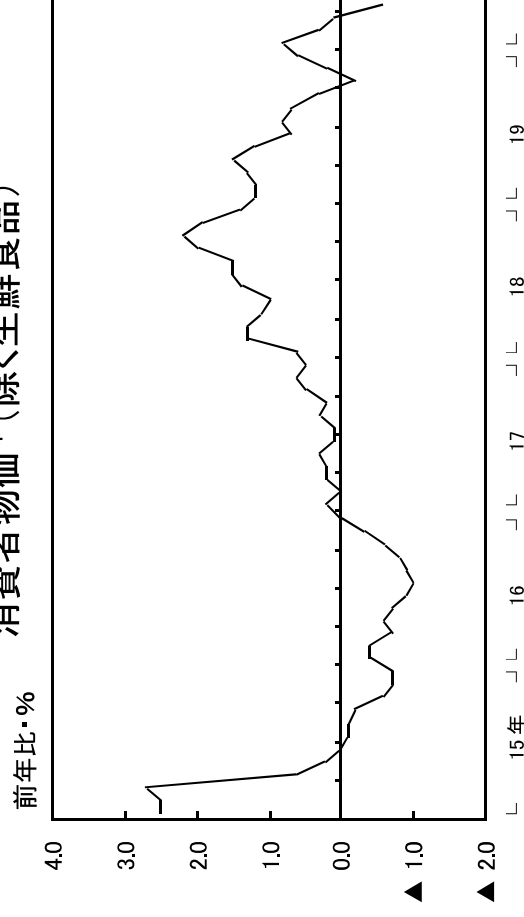
前年比

20/3月 4月
+0.1% ⇒ ▲0.6%

20/4月は、前年比▲0.6%と
なった。

* 甲府市

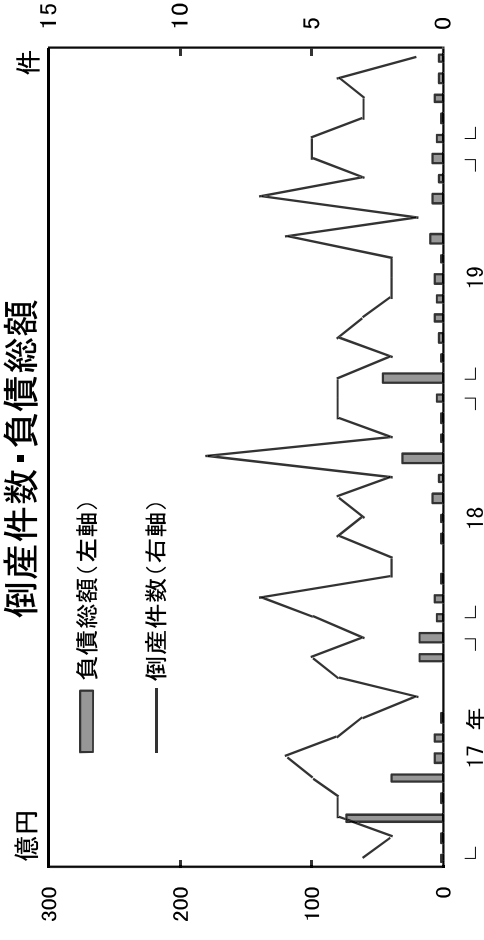
消費者物価* (除く生鮮食品)



倒産

20/5月は、倒産件数(1件<前年2件>)、負債総額(3億円<同4億円>)ともに前年を下回った。

倒産件数・負債総額



8. 金融



預金残高

20/4月は前年比+1.8%。

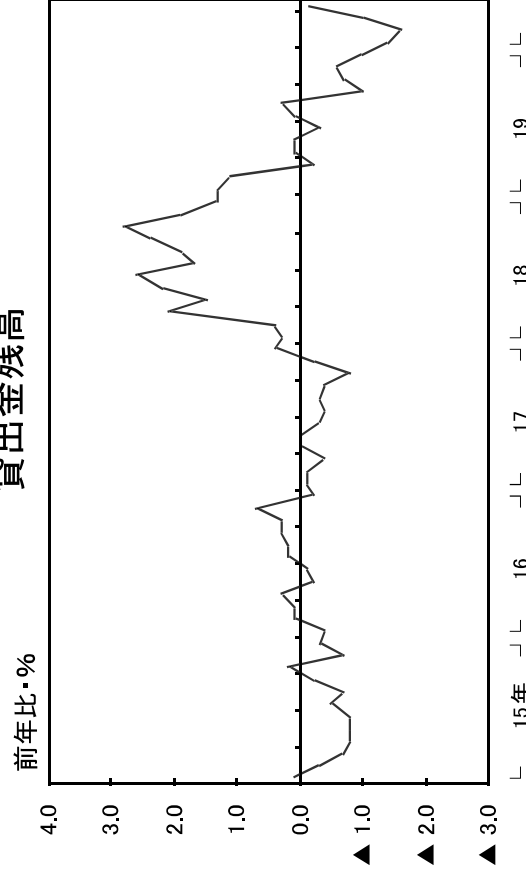
貸出金残高

20/4月は前年比▲0.1%。

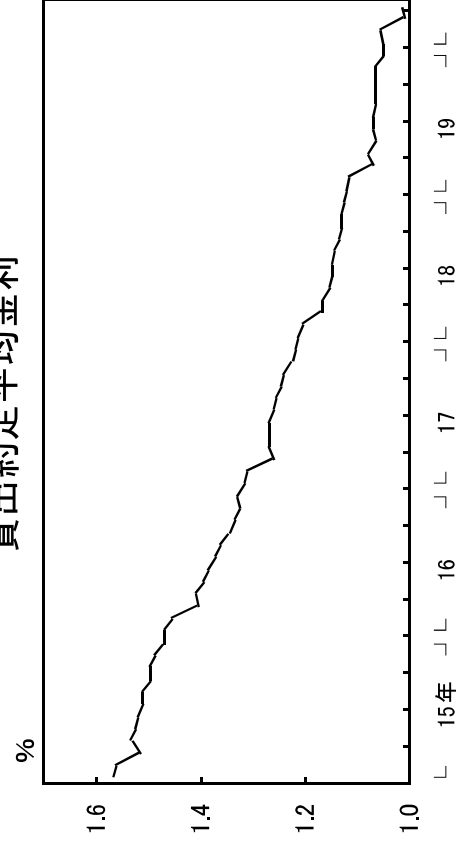
貸出約定 平均金利

20/4月は1.016%(前月比+0.005%p)。

貸出金残高



貸出約定平均金利



出所: 日本銀行甲府支店

山梨県内金融経済指標



- ・特に表示がない限り、単位未満四捨五入。
- ・pは速報値、rは訂正値(季調改訂等に伴う修正を含む)。
- ・資料出所に四半期計数が掲載されていない場合は、月次計数を用いて日本銀行甲府支店が算出。
- ・大型小売店売上高、コンビニエンスストア売上高は、全て店舗調整前ベース。
- ・乗用車のうち普通車・小型車は新車登録台数、軽乗用車は届出台数。
- ・公共工事請負金額(県内)の出所は、東日本建設業保証。
- ・雇用者所得は、毎月勤労統計の常用労働者数と名目賃金を基に、日本銀行甲府支店が算出。
- ・消費者物価指数の県内は、甲府市の計数。
- ・預金残高、貸出金残高(末残)
 - <県内>
 - 1.国内銀行(ゆうちよ銀行を除く)、信用金庫、信用組合の県内店舗の合計。
 - 2.預金残高は、銀行勘定と信託勘定を累計(オフショア勘定を除く)。実質預金(預金から切手手形を控除したもの)に、譲渡性預金を加えたもの。
 - 3.貸出金残高は、銀行勘定と信託勘定を累計(オフショア勘定を除く)。中央政府向け貸出を除く。
 - 4.合併、新規出店、撤退等による残高調整は行っていない。
 - <全国>
 - 1.国内銀行(ゆうちよ銀行等を除く)、信用金庫の合計。
 - 2.預金残高は、銀行勘定を累計(オフショア勘定を除く)。実質預金(預金から切手手形を控除したもの)に、譲渡性預金を加えたもの。
 - 3.貸出金残高は、銀行勘定と信託勘定を累計(オフショア勘定を除く)。中央政府向け貸出を除く。
 - 4.合併、新規出店、撤退等による残高調整は行っていない。
- ・貸出約定平均金利(ストックベース)
 - 国内銀行(ゆうちよ銀行等を除く)の県内店舗の貸出金利を貸出金残高で加重平均したもの。合併、新規出店、撤退等による残高等の調整は行っていない。
 - なお、全国は、日本銀行「貸出約定平均金利の推移」(日本銀行ホームページ掲載)の国内銀行の計数。詳しくは、「『貸出約定平均金利の推移』の解説」(同)をご参照下さい。
- ・資料出所が日本銀行甲府支店となつていて過去の計数については、日本銀行甲府支店ホームページにてご確認いただくか、直接当店までお問い合わせ下さい。
- ・公表日前営業日時点で利用可能であった情報をもとに作成。

		19/7-9月	10-12月	20/1-3月	20/2月	3月	4月	5月	直近実数	資料出所
大型小売店売上高 (前年比・%)	県内	▲ 1.7	▲ 2.7	r ▲ 1.4	2.3	r ▲ 4.0	p ▲ 1.6	n.a.	p 97億円	経済産業省
	全国	2.0	▲ 4.1	r ▲ 3.5	0.3	▲ 8.8	p ▲ 18.6	n.a.	p 13,445億円	
コンビニエンスストア売上高 (前年比・%)	県内	▲ 1.5	0.1	▲ 1.3	3.0	▲ 7.2	p ▲ 12.7	n.a.	p 66億円	経済産業省
	全国	0.1	2.0	▲ 0.3	3.4	▲ 5.4	p ▲ 10.7	n.a.	p 8,914億円	
乗用車新車登録・届出台数 (前年比・%)	県内	10.7	▲ 17.3	▲ 10.3	▲ 8.8	▲ 7.8	▲ 28.8	n.a.	1,706台	日本自動車販売協会連合会 山梨県軽自動車協会 全国軽自動車協会連合会
	全国	7.5	▲ 16.0	▲ 10.0	▲ 9.8	▲ 8.9	▲ 30.4	p ▲ 48.7	p 174,404台	
<うち普通車・小型車> (前年比・%)	県内	11.5	▲ 17.0	▲ 10.5	▲ 10.0	▲ 10.2	▲ 25.0	n.a.	1,055台	日本自動車販売協会連合会 山梨県軽自動車協会 全国軽自動車協会連合会
	全国	7.0	▲ 17.3	▲ 10.5	▲ 10.7	▲ 9.9	▲ 27.5	▲ 41.8	123,781台	
<うち軽乗用車> (前年比・%)	県内	9.5	▲ 17.8	▲ 10.1	▲ 7.1	▲ 3.7	▲ 34.1	▲ 57.7	393台	日本自動車販売協会連合会 山梨県軽自動車協会 全国軽自動車協会連合会
	全国	8.3	▲ 13.5	▲ 9.0	▲ 8.2	▲ 6.8	p ▲ 35.4	p ▲ 55.9	p 50,623台	
延べ宿泊者数 (前年比・%)	県内	▲ 4.9	▲ 2.7	▲ 33.1	▲ 21.6	▲ 63.1	n.a.	n.a.	292千人	観光庁
	全国	▲ 1.3	▲ 2.8	r ▲ 17.1	▲ 6.0	r ▲ 48.9	p ▲ 76.8	n.a.	p 10,795千人	
<うち外国人> (前年比・%)	県内	8.6	▲ 2.4	▲ 54.1	▲ 57.7	▲ 95.5	n.a.	n.a.	10千人	観光庁
	全国	1.8	2.2	r ▲ 54.1	▲ 41.3	r ▲ 86.5	p ▲ 97.4	n.a.	p 262千人	
新設住宅着工戸数 (前年比・%)	県内	8.1	▲ 10.2	▲ 35.1	▲ 39.4	▲ 18.0	15.9	n.a.	314戸	国土交通省
	全国	▲ 5.4	▲ 9.4	▲ 9.9	▲ 12.3	▲ 7.6	▲ 12.9	n.a.	69,162戸	
公共工事請負金額 (前年比・%)	県内	2.9	63.3	17.0	89.7	▲ 11.7	▲ 35.7	n.a.	111億円	東日本建設業保証 西日本建設業保証 北海道建設業信用保証
	全国	12.2	4.4	7.1	▲ 5.4	12.9	3.2	n.a.	23,054億円	
鉱工業生産指数 (15年=100、季調済前月(期)比・%)	県内	▲ 1.0	0.3	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 7.3	n.a.	n.a.	101.7	山梨県
	全国	▲ 1.1	▲ 3.6	0.4	▲ 0.3	▲ 3.7	p ▲ 9.1	n.a.	p 87.1	
所定外労働時間指数(製造業) (15年=100、5人以上、前年比・%)	県内	3.2	▲ 4.9	p ▲ 6.3	r ▲ 10.4	p ▲ 10.3	n.a.	n.a.	p 98.2	山梨県
	全国	▲ 7.6	▲ 13.3	▲ 10.7	▲ 10.5	▲ 12.4	p ▲ 25.0	n.a.	p 75.0	
有効求人倍率(就業地別) (季調済・倍)	県内	1.57	1.55	1.43	1.44	1.36	1.29	n.a.	-	山梨労働局
	県内	1.40	1.37	1.26	1.28	1.20	1.11	n.a.	-	
有効求人倍率 (季調済・倍)	県内	1.59	1.57	1.44	1.45	1.39	1.32	n.a.	-	厚生労働省
	全国	0.4	▲ 3.0	p ▲ 0.0	r ▲ 0.1	p ▲ 1.8	n.a.	n.a.	-	
雇用者所得(全産業) (5人以上、前年比・%)	県内	1.7	2.1	2.5	2.6	2.0	p 0.9	n.a.	-	山梨県・日本銀行甲府支店 厚生労働省・日本銀行甲府支店
	全国	0.6	0.3	0.4	0.3	0.1	▲ 0.6	n.a.	101.6	
消費者物価指数(除く生鮮食品) (15年=100、前年比・%)	県内	0.5	0.6	0.6	0.6	0.4	▲ 0.2	n.a.	101.6	山梨県 総務省
	全国	9	15	11	3	3	4	1	-	
企業倒産件数 (件)	県内	2,182	2,211	2,164	651	740	743	314	-	東京商工リサーチ
	全国	12	19	14	2	7	4	3	-	
同負債額 (億円)	県内	2,935	3,679	3,020	713	1,059	1,450	813	-	山梨県
	全国	0.8	1.5	0.9	2.0	0.9	1.8	n.a.	45,787億円	
預金残高 (末残、前年比・%)	県内	2.1	2.4	2.6	2.9	2.6	n.a.	n.a.	9,857,434億円	日本銀行甲府支店
	全国	▲ 1.0	▲ 1.0	▲ 1.0	▲ 1.6	▲ 1.0	▲ 0.1	n.a.	18,749億円	
貸出金残高 (末残、前年比・%)	県内	▲ 1.0	1.7	2.0	▲ 1.6	2.0	n.a.	n.a.	5,916,153億円	日本銀行甲府支店
	全国	▲ 0.006	▲ 0.012	▲ 0.042	0.004	▲ 0.045	0.005	n.a.	1,016%	
貸出約定平均金利 (前月(期)差・%ポイント)	県内	▲ 0.011	▲ 0.010	▲ 0.011	▲ 0.001	▲ 0.007	n.a.	n.a.	0.850%	日本銀行甲府支店
	全国									

企業短期経済観測調査(山梨県)

2020年6月

業況判断DI(全産業): ▲43(前回調査比▲37ポイント悪化)

目次

業況判断	2 ページ	製商品・サービス需給、在庫、価格	7 ページ
売上高	3 "	雇用	8 "
経常利益	4 "	企業金融	9 "
設備投資(1)	5 "	業況判断 長期時系列データ	10 "
設備投資(2)	6 "	参考データ	11 "

回答期間 20年5月28日～6月30日
対象企業 製造業54社 非製造業65社 計119社
有効回答率 100.0%

「良い」－「悪い」、社数構成比：%ポイント

業況判断DI	19年12月	20年3月		6月(今回調査)	
		最近	先行き	最近	先行き
県内計	4	▲6	▲25	▲43	▲45
製造業	4	▲4	▲21	▲37	▲42
非製造業	4	▲8	▲29	▲48	▲47

全国計	4	▲4	▲18	▲31	▲34
製造業	▲4	▲12	▲22	▲39	▲40
非製造業	11	1	▲14	▲25	▲28

前年度(前年同期)比: %

売上高	18年度実績	19年度実績		前回比修正率		20年度計画		前回比修正率	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
県内計	3.4	▲4.1	▲8.9	0.9	▲0.5	▲0.2	▲1.6	▲2.3	▲5.8
製造業	4.1	▲5.8	▲14.2	3.7	▲0.2	2.7	2.6	▲0.6	▲5.2
非製造業	2.2	▲1.0	1.7	▲3.5	▲0.9	▲5.0	▲8.9	▲5.2	▲7.1
全国計	2.5	▲1.4	0.8	▲3.4	▲0.6	▲3.9	▲6.4	▲4.6	▲5.8
製造業	2.9	▲2.8	▲0.7	▲4.7	▲0.9	▲3.9	▲7.0	▲5.1	▲6.6
非製造業	2.3	▲0.6	1.6	▲2.8	▲0.5	▲3.9	▲6.1	▲4.3	▲5.3

県内は社数調整後単純集計(欠測値補完ベース)、全国は母集団推計(欠測値補完ベース)

経常利益



前年度(前年同期)比: %

経常利益	18年度 実績	19年度実績			前回比修正率		20年度計画				前回比修正率		
			上 期	下 期		下 期		上 期	下 期		上 期	下 期	
県内計	▲17.4	▲23.7	▲47.0	25.1	0.0	1.8	▲6.3	▲3.2	▲9.0	2.1	▲14.0	24.1	
製造業	▲24.7	▲28.7	▲63.0	64.1	6.1	10.7	3.2	26.6	▲11.0	23.4	▲0.5	55.9	
非製造業	13.4	▲10.1	13.3	▲36.4	▲11.2	▲23.1	▲26.9	▲39.8	▲0.9	▲33.2	▲36.3	▲28.9	

全国計	0.4	▲9.6	▲5.1	▲14.6	▲2.1	▲4.2	▲19.8	▲29.6	▲7.7	▲19.5	▲24.5	▲14.1
製造業	▲0.3	▲15.9	▲14.1	▲18.2	▲3.6	▲8.2	▲21.9	▲31.3	▲9.5	▲22.5	▲25.7	▲19.1
非製造業	0.9	▲5.1	2.0	▲12.3	▲1.2	▲1.7	▲18.5	▲28.5	▲6.7	▲17.5	▲23.7	▲11.0

県内は社数調整後単純集計(欠測値補完ベース)、全国は母集団推計(欠測値補完ベース)

設備投資(1)

前年度比：％

設備投資	18年度実績
県内計	23.5
製造業	25.8
非製造業	16.7

19年度実績	前回比修正率
16.7	▲6.5
29.8	▲6.3
▲23.4	▲7.3

20年度計画	前回比修正率
▲42.3	▲10.1
▲45.8	▲6.7
▲24.1	▲20.6

全国計	6.6
製造業	8.6
非製造業	5.4

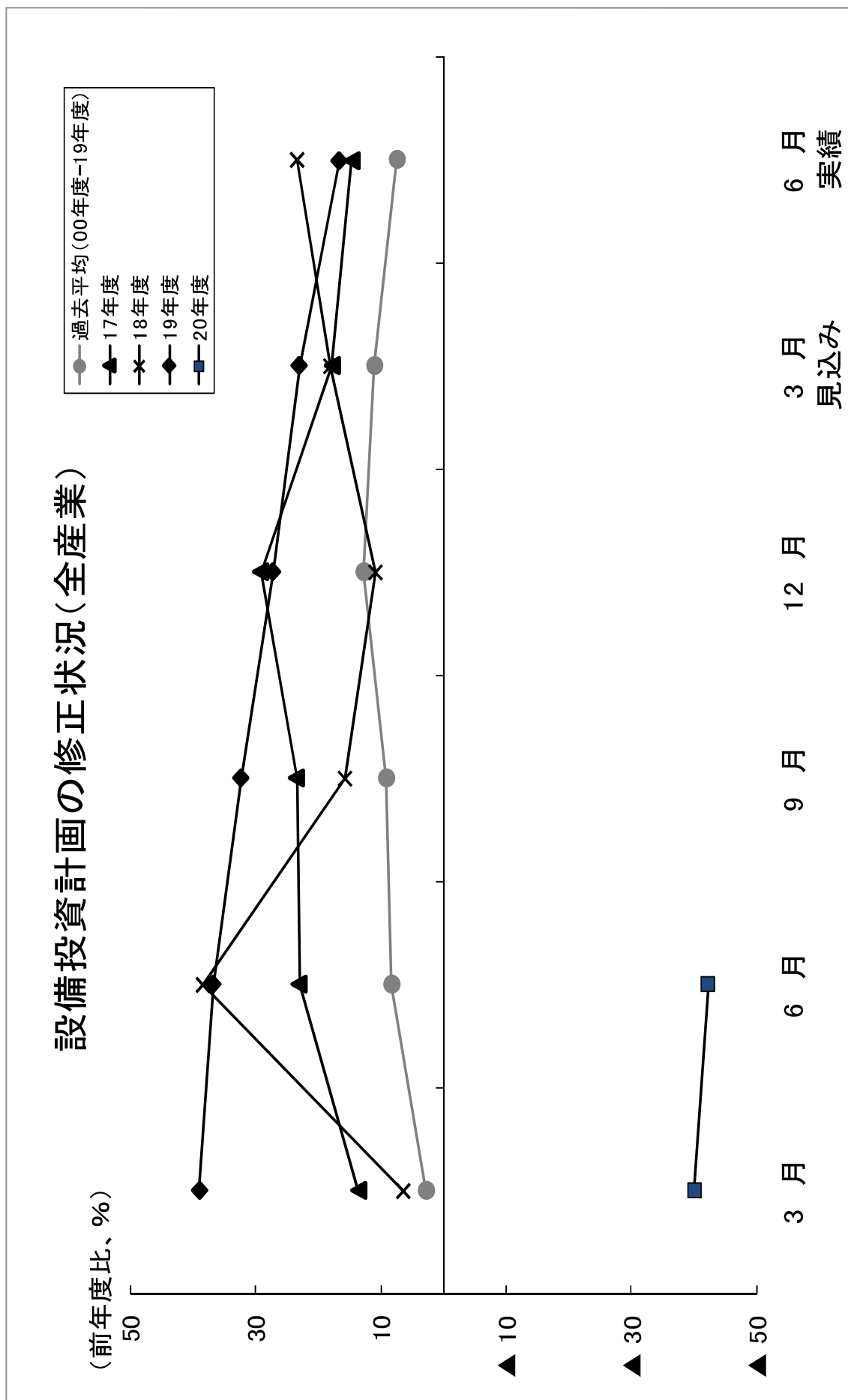
▲0.6	▲3.2
0.9	▲3.0
▲1.5	▲3.4

▲0.8	▲3.6
3.1	▲2.3
▲3.1	▲4.5

「過剰」ー「不足」、社数構成比：％ポイント

生産・営業用設備 判断DI	19年12月	20年3月		6月(今回調査)	
		最近	先行き	最近	先行き
県内計	0	3	6	15	11
製造業	18	13	18	31	20
非製造業	▲15	▲5	▲4	1	3
全国計	▲3	▲1	▲1	8	6

設備投資：県内は社数調整後単純集計(欠測値補完ベース)、全国は母集団推計(欠測値補完ベース)



社数構成比：%ポイント

	19年12月	20年3月		6月(今回調査)	
		最近	先行き	最近	先行き
製商品・サービス需給判断DI 「需要超過」ー「供給超過」	製造業	▲20	▲28	▲35	▲51
	非製造業	▲21	▲21	▲30	▲34
製商品在庫水準判断DI 「過大」ー「不足」	製造業	22	21	—	—
販売価格判断DI 「上昇」ー「下落」	製造業	▲9	▲3	▲22	▲9
	非製造業	3	▲4	▲7	▲8
仕入価格判断DI 「上昇」ー「下落」	製造業	8	6	15	18
	非製造業	22	12	16	11

「過剩」―「不足」、社数構成比：%ポイント

雇用人員判断DI	19年12月	20年3月		6月（今回調査）	
		最近	先行き	最近	先行き
県内計	▲20	▲12	▲21	16	2
製造業	4	9	▲5	33	18
非製造業	▲39	▲29	▲34	2	▲11

全国計	▲31	▲28	▲29	▲6	▲9
製造業	▲17	▲15	▲14	11	7
非製造業	▲40	▲37	▲39	▲17	▲21

「楽である」ー「苦しい」、社数構成比：%ポイント

資金繰り判断DI	19年12月	20年3月	6月 (今回調査)
県内計	5	3	▲8
製造業	13	10	▲2
非製造業	▲1	▲1	▲12
全国計	16	13	3

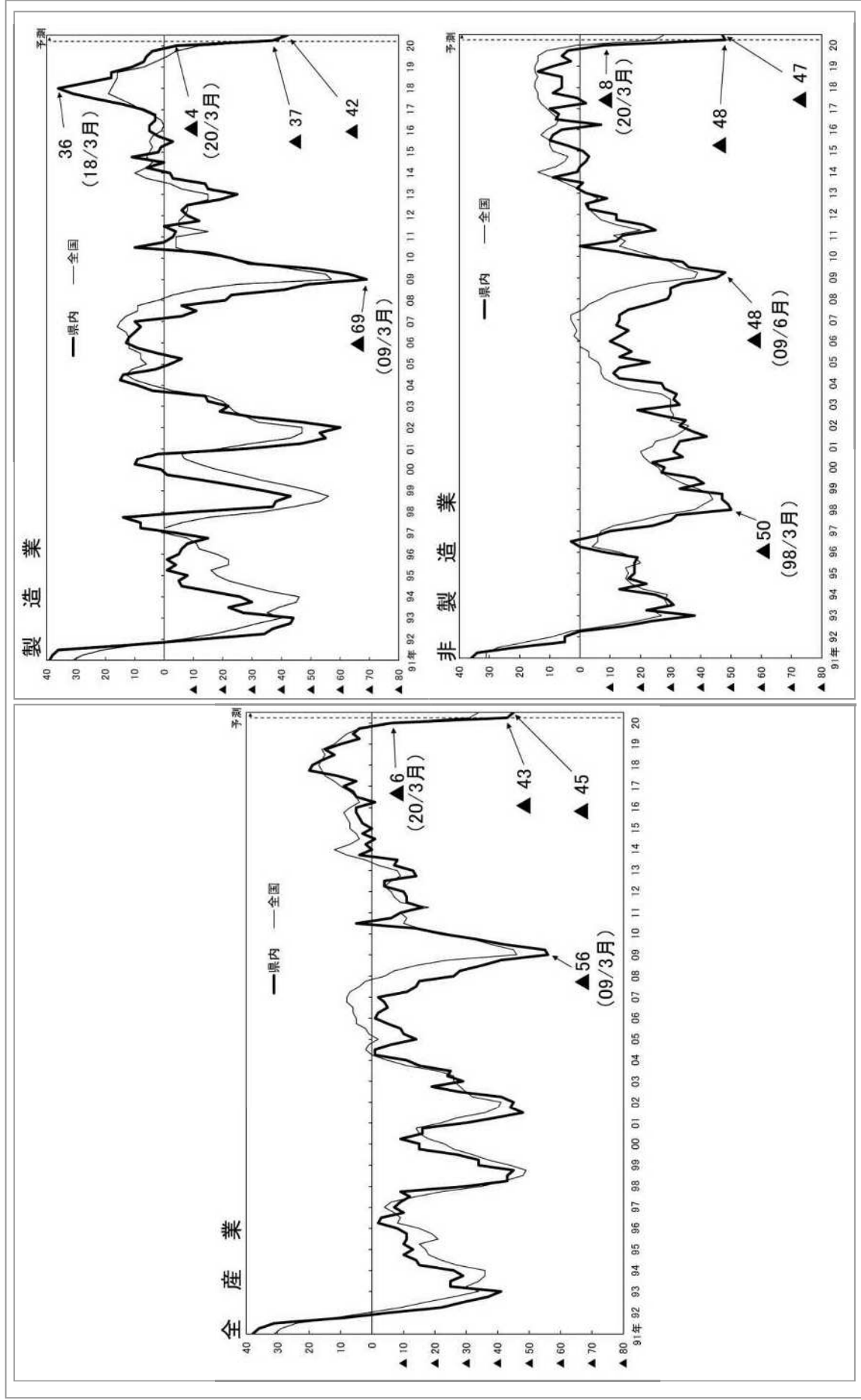
「緩い」ー「厳しい」、社数構成比：%ポイント

金融機関の 貸出態度判断DI	19年12月	20年3月	6月 (今回調査)
県内計	10	11	16
製造業	17	12	12
非製造業	7	11	19
全国計	23	20	19

「上昇」ー「低下」、社数構成比：%ポイント

借入金利水準判断DI	19年12月	20年3月		6月(今回調査)	
		最近	先行き	最近	先行き
県内	▲1	3	▲3	▲6	▲1
全国	▲1	▲1	2	▲3	1

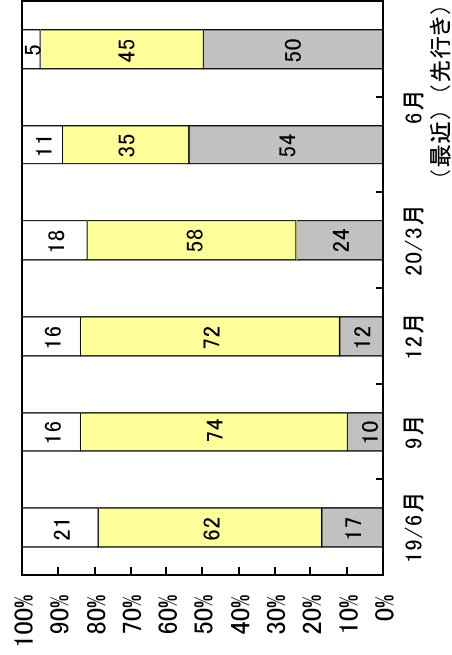
「良い」-「悪い」、社数構成比：%ポイント



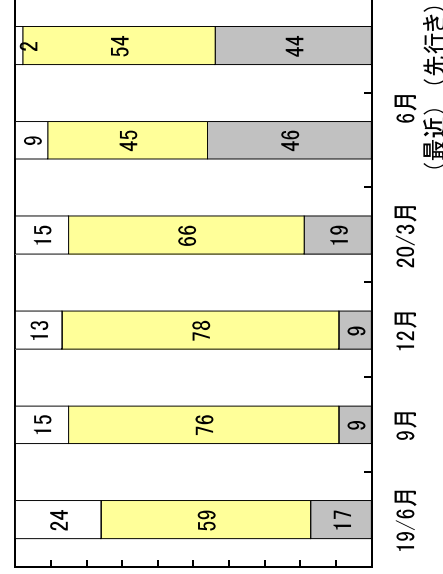
(参考) 県内業況判断DIの選択肢別構成比(%)

□ 良い ■ さほど良くない ■ 悪い

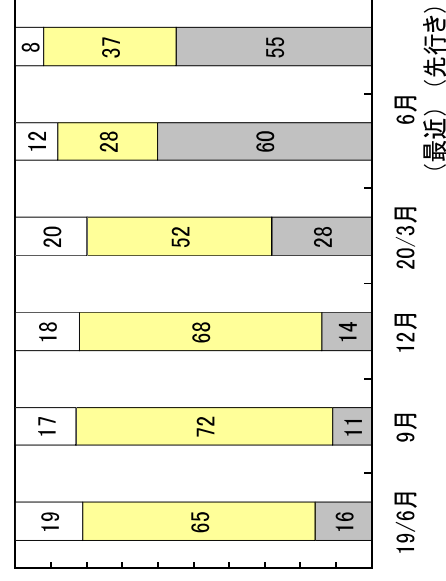
県内計



製造業



非製造業



* 判断項目の集計方法

各項目毎に3つの選択肢のそれぞれに対する回答社数を単純集計し、全社数に対する百分比(回答社数構成比)を算出。
上記計数をもとに、DI(デフュージョン・インデックス)を、以下により算出。

(例) 業況判断DI=「良い」と回答した企業の構成比(%)－「悪い」と回答した企業の構成比(%)

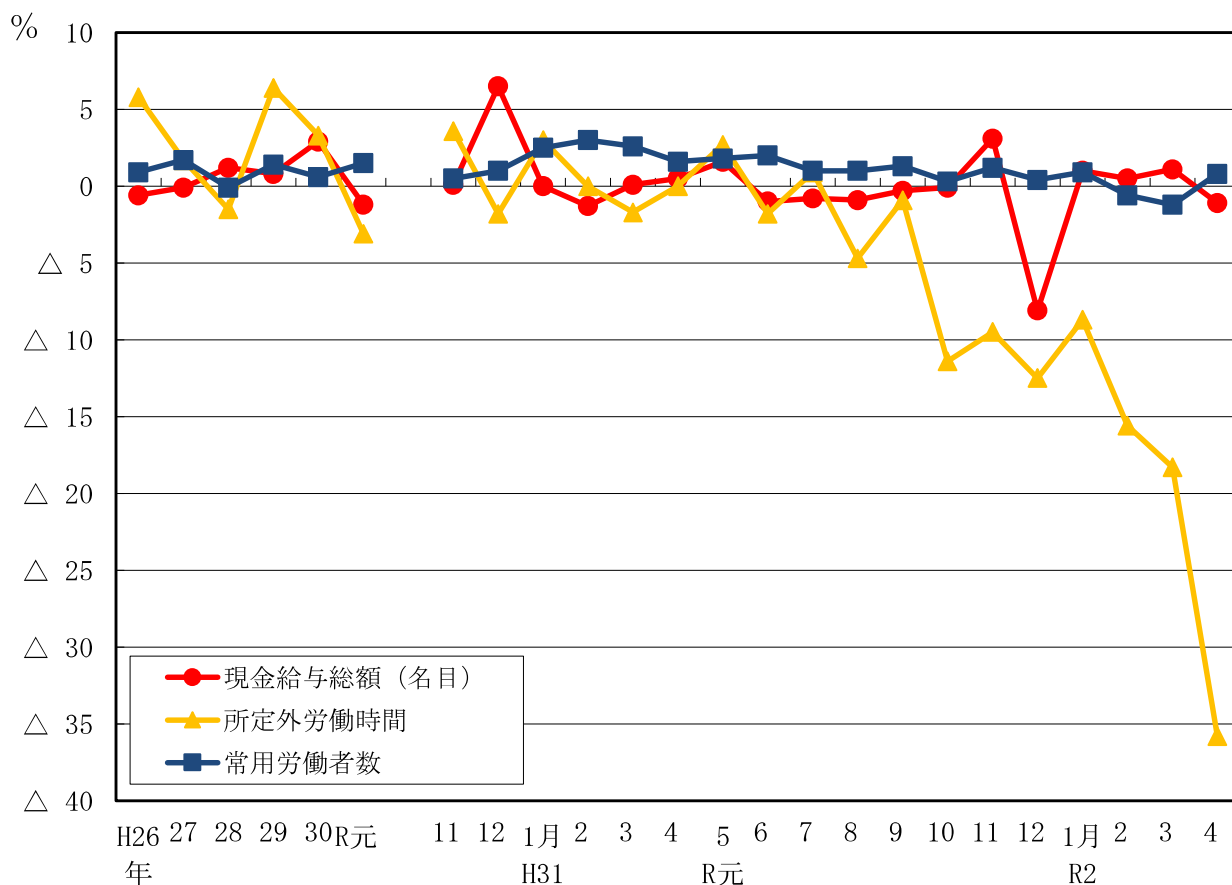


山梨の賃金・労働時間及び雇用の動き

（毎月勤労統計調査地方調査結果）

令和2年4月分（速報）

現金給与総額等の前年比及び前年同月比の推移
（規模5人以上・調査産業計）



県民生活部 統計調査課

1. 結果概要	～賃金・労働時間・雇用の動き～	1
2. 統計表	～賃金・労働時間・雇用の動きの詳細～	5
3. 毎月勤労統計調査地方調査の説明		14
4. 利用上の注意	～指数、増減率、産業分類～	15

(注意)

- ①特に断りのない限り、本書に掲載する調査結果は、「調査産業計、事業所規模5人以上、性・就業形態計」のものである。
- ②本書に掲載する調査結果は、本県における数値である。
- ③本書に掲載する「前年比（又は前年差）」とは、前の年の同じ月（又は時期）と比べた場合の数値である。
- ④統計表中の符号は、次のとおり用いられている。
「△」…マイナス 「x」…秘匿 「-」…該当数値なし
- ⑤速報値は、確報で改訂される場合がある。

1. 結果概要 ～賃金・労働時間・雇用の動き～

1. 当月の概況（事業所規模5人以上）

前年同月比でみて、

★ 現金給与総額は	1.1 %の減少	4 か月ぶりの減少
★ 所定外労働時間は	35.8 %の減少	9 か月連続の減少
★ 常用労働者は	0.8 %の増加	3 か月ぶりの増加

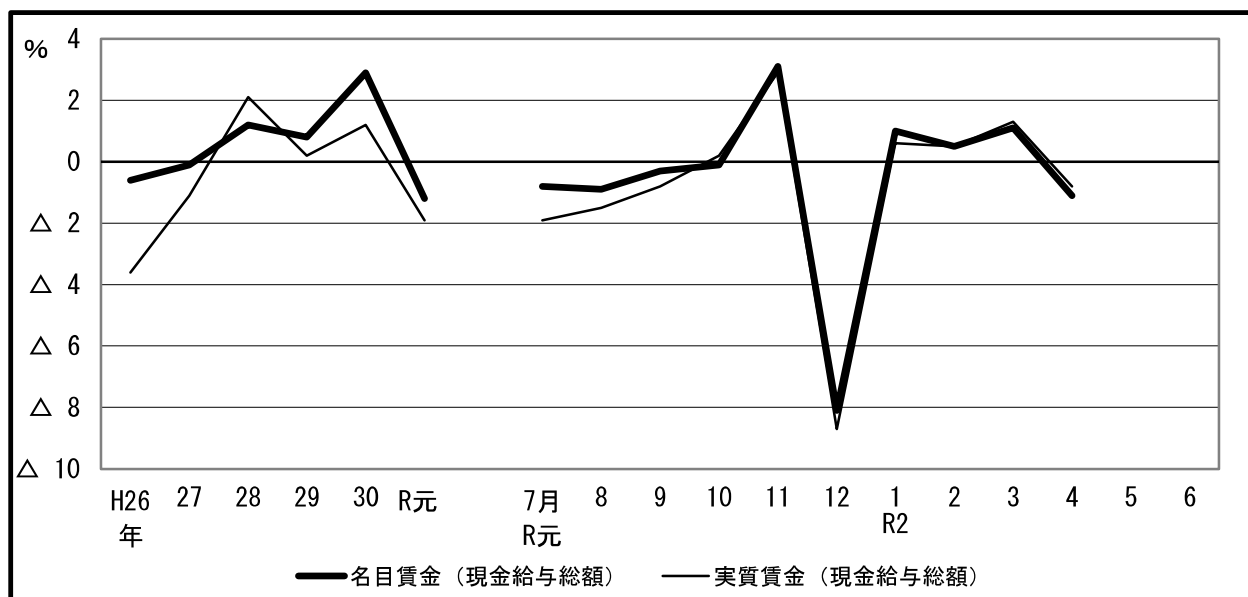
(平成27年平均=100)

		実数		指数		増減率（前年同月比）	
		山梨県	全国	山梨県	全国	山梨県	全国
現金給与		円	円			%	%
	現金給与総額	249,190	274,825	87.9	87.1	△ 1.1	△ 0.7
	きまって支給する給与	246,742	264,393	103.6	101.5	△ 1.6	△ 0.9
	所定内給与	230,584	246,532	104.3	102.4	△ 0.7	0.1
	超過労働給与	16,158	17,861	-	-	△ 14.7	△ 12.8
	特別に支払われた給与	2,448	10,432	-	-	94.7	8.5
労働時間		時間	時間			%	%
	総実労働時間	140.4	137.8	96.4	95.4	△ 5.7	△ 3.9
	所定内労働時間	132.5	128.8	97.9	96.5	△ 3.0	△ 2.6
	所定外労働時間	7.9	9.0	76.7	81.8	△ 35.8	△ 18.9
	所定外労働時間（製造業）	14.9	12.0	88.2	75.0	△ 18.6	△ 25.0
常用雇用		人	千人			%	%
	常用労働者	293,579	51,292	104.1	109.0	0.8	1.5
	一般労働者	197,779	35,628	106.8	108.6	△ 1.5	2.3
	パートタイム労働者	95,800	15,664	101.3	109.9	5.3	△ 0.4

「全国」の実数、指数は、令和元年6月分から500人以上規模の事業所について全数調査による値となっていますが、前年同月比については、令和元年6月から令和2年5月まで抽出調査による値となりますのでご注意ください。

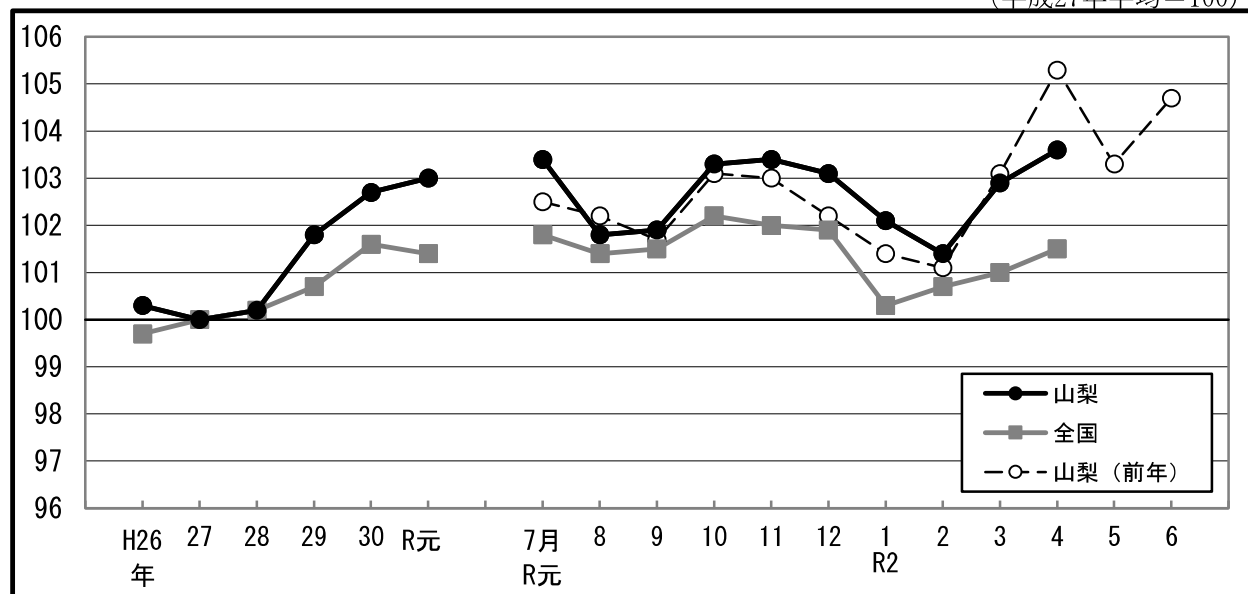
2. 賃金の動き（事業所規模5人以上）

名目賃金及び実質賃金（現金給与総額）の前年比・前年同月比の推移



きまって支給する給与の指数の推移

（平成27年平均＝100）



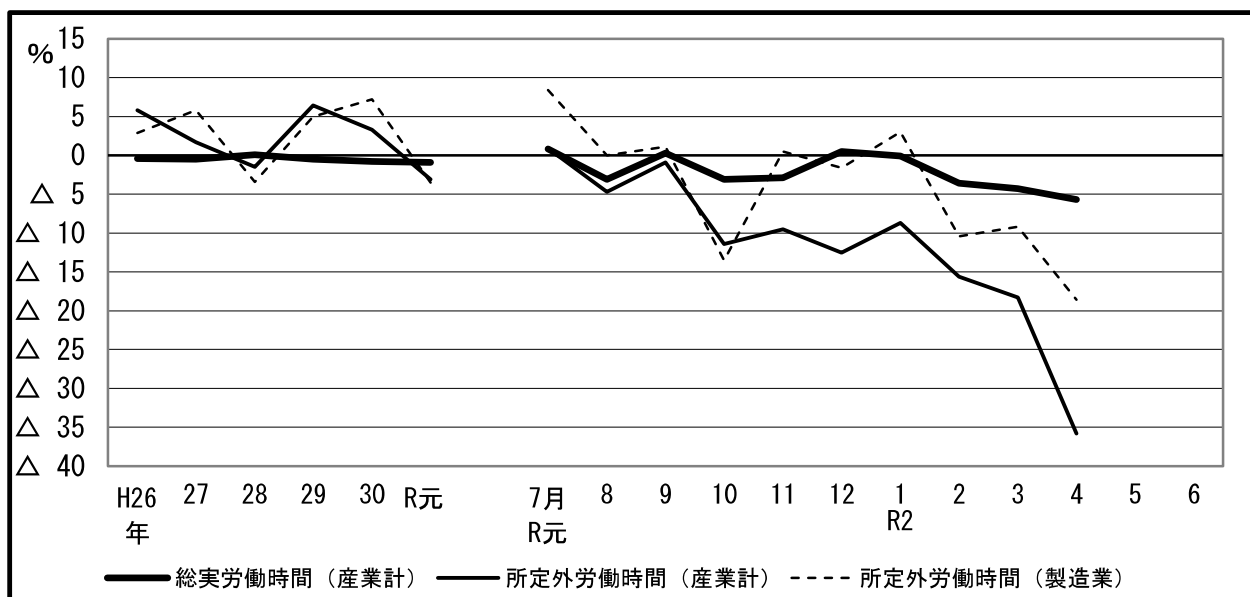
令和2年4月における労働者一人当たりの現金給与総額は、249,190円で、前年の同じ月と比べて1.1%の減少となった。これは、特別に支払われた給与は2,448円で94.7%増加したものの、きまって支給する給与が246,742円で1.6%減少したためである。

なお、きまって支給する給与のうち、所定内給与は230,584円で0.7%減少し、超過労働給与は16,158円で14.7%減少した。

物価の変動による影響を除いた実質賃金指数の現金給与総額は、0.8%の減少となった（P9 事業所規模5人以上参照）。

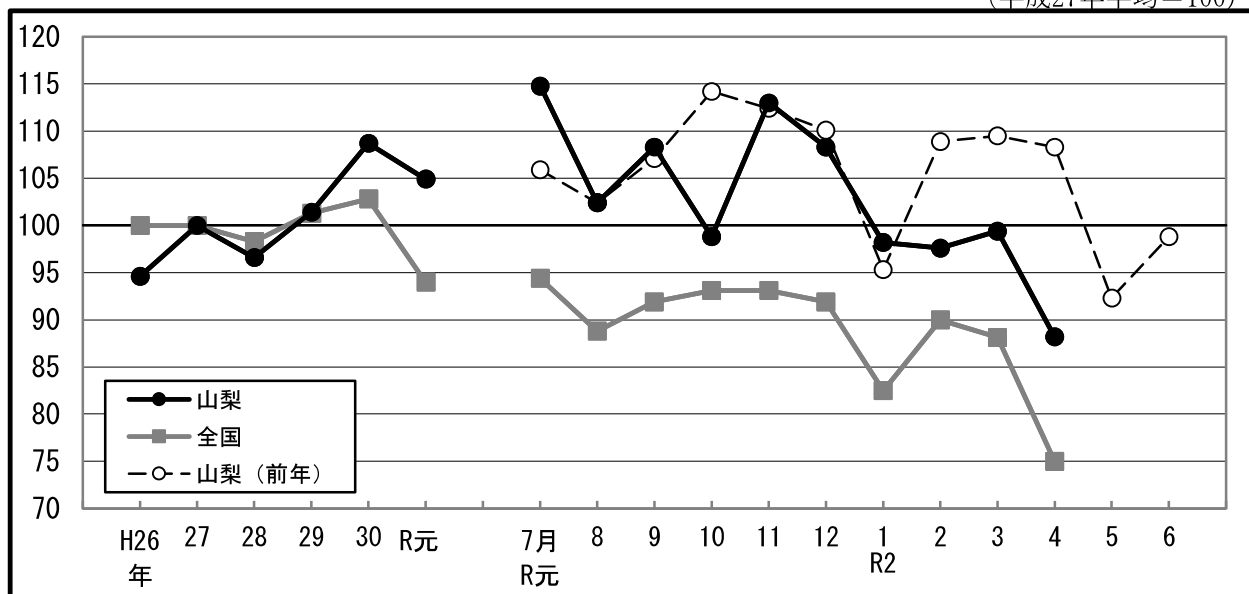
3. 労働時間の動き（事業所規模5人以上）

総実労働時間及び所定外労働時間の前年比・前年同月比の推移



所定外労働時間（製造業）の指数の推移

(平成27年平均=100)

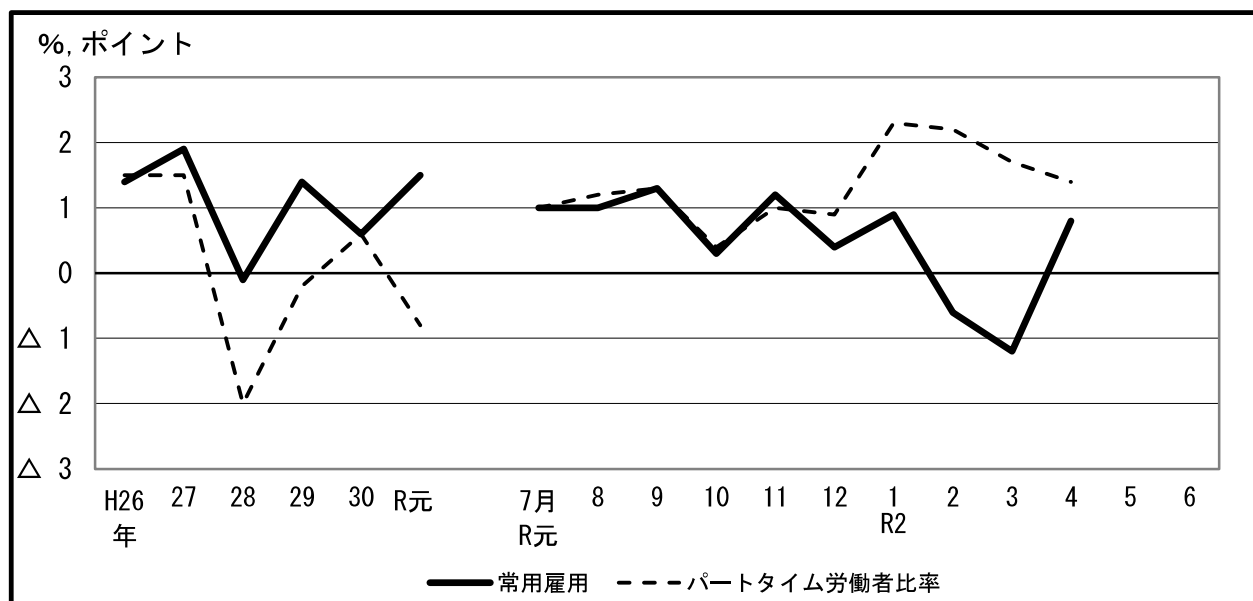


令和2年4月における労働者一人当たりの総実労働時間は、140.4時間で、前年の同じ月と比べて5.7%の減少となった。これは、所定内労働時間が132.5時間で3.0%、所定外労働時間が7.9時間で35.8%それぞれ減少したためである。

景気動向との連動性が高いとされる、製造業における労働者一人当たりの所定外労働時間は、14.9時間で、18.6%の減少となった。

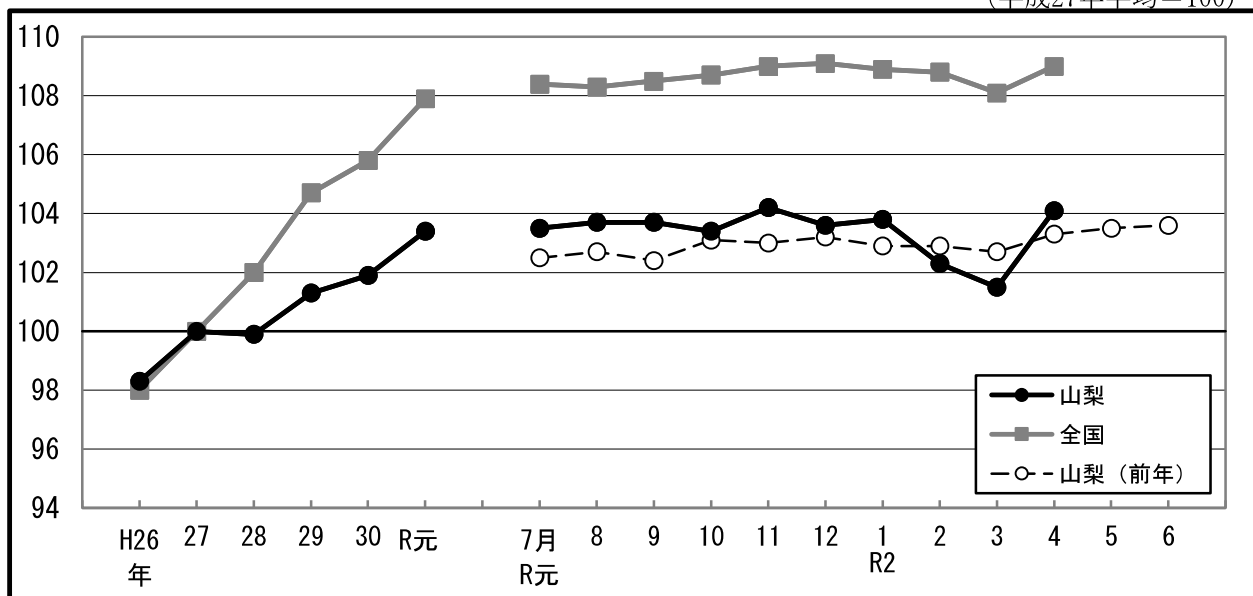
4. 雇用の動き（事業所規模5人以上）

常用労働者及びパートタイム労働者比率の前年比（差）・前年同月比（差）の推移



常用労働者の指数の推移

（平成27年平均＝100）



令和2年4月末日における常用労働者は、293,579人で、前年の同じ時期と比べて0.8%の増加となった。これは、一般労働者は197,779人で1.5%減少したものの、パートタイム労働者が95,800人で5.3%増加したためである。

常用労働者全体に占めるパートタイム労働者の比率は、32.6%となり、1.4ポイント上昇した（P7 事業所規模5人以上参照）。

2. 統計表 ～賃金・労働時間・雇用の動きの詳細～

1. 月間現金給与額

(事業所規模5人以上)

産 業	現金給与総額		きまって支給する給与		所定内給与		超過労働給与	特別に支払われた給与
	前年比		前年比		前年比			
	円	%	円	%	円	%	円	円
T L 調査産業計	249,190	△ 1.1	246,742	△ 1.6	230,584	△ 0.7	16,158	2,448
D 建設業	359,071	△ 0.9	352,878	△ 2.6	331,793	△ 1.5	21,085	6,193
E 製造業	306,600	4.1	300,999	2.8	272,257	4.9	28,742	5,601
F 電気・ガス・熱供給・水道業	331,963	4.4	331,963	4.5	307,012	3.2	24,951	0
G 情報通信業	293,915	△ 9.0	293,915	△ 9.1	279,434	△ 0.7	14,481	0
H 運輸業、郵便業	213,935	△ 27.0	213,022	△ 27.3	175,454	△ 31.8	37,568	913
I 卸売業、小売業	190,529	5.1	189,514	6.1	182,519	9.6	6,995	1,015
J 金融業、保険業	351,383	2.1	350,226	2.0	327,533	0.2	22,693	1,157
K 不動産業、物品賃貸業	320,426	8.3	320,426	15.2	300,931	15.9	19,495	0
L 学術研究、専門・技術サービス業	290,967	9.3	289,730	9.0	269,633	7.8	20,097	1,237
M 宿泊業、飲食サービス業	110,193	△ 10.7	109,322	△ 10.7	105,049	△ 8.9	4,273	871
N 生活関連サービス業、娯楽業	211,910	5.5	211,910	5.6	202,827	3.8	9,083	0
O 教育、学習支援業	312,235	△ 4.6	312,227	△ 4.3	305,234	△ 4.9	6,993	8
P 医療、福祉	243,327	△ 3.1	242,230	△ 3.6	230,482	△ 3.3	11,748	1,097
Q 複合サービス事業	279,531	4.5	275,030	3.3	263,391	5.9	11,639	4,501
R サービス業（他に分類されないもの）	205,196	△ 3.8	200,876	△ 5.5	186,796	△ 5.0	14,080	4,320
T L 調査産業計 一般労働者	322,320	0.8	318,973	0.3	296,115	1.6	22,858	3,347
E 製造業	334,843	2.7	328,550	1.5	295,981	3.4	32,569	6,293
I 卸売業、小売業	321,571	6.8	319,388	8.5	304,339	13.1	15,049	2,183
P 医療、福祉	294,534	△ 3.7	293,082	△ 4.0	277,232	△ 3.3	15,850	1,452
T L 調査産業計 パートタイム労働者	100,912	△ 5.1	100,288	△ 5.7	97,714	△ 4.8	2,574	624
E 製造業	117,385	△ 5.3	116,419	△ 6.2	113,312	△ 0.4	3,107	966
I 卸売業、小売業	107,464	4.7	107,190	4.4	105,299	5.9	1,891	274
P 医療、福祉	122,302	△ 11.0	122,045	△ 11.2	119,991	△ 11.8	2,054	257

(事業所規模30人以上)

産 業	現金給与総額		きまって支給する給与		所定内給与		超過労働給与	特別に支払われた給与
	前年比		前年比		前年比			
	円	%	円	%	円	%	円	円
T L 調査産業計	271,569	0.4	269,674	△ 0.2	246,642	0.9	23,032	1,895
D 建設業	463,165	4.0	462,846	3.9	423,726	4.1	39,120	319
E 製造業	327,815	3.9	324,618	2.9	289,883	4.7	34,735	3,197
F 電気・ガス・熱供給・水道業	350,010	2.8	350,010	2.8	317,886	2.2	32,124	0
G 情報通信業	272,965	△ 23.0	272,965	△ 23.1	256,503	△ 10.0	16,462	0
H 運輸業、郵便業	298,315	6.8	297,563	6.5	230,414	0.8	67,149	752
I 卸売業、小売業	157,803	7.7	157,045	7.3	146,154	7.6	10,891	758
J 金融業、保険業	363,212	5.1	362,774	5.2	338,985	5.9	23,789	438
K 不動産業、物品賃貸業	x	x	x	x	x	x	x	x
L 学術研究、専門・技術サービス業	276,646	5.3	272,231	4.0	243,963	3.8	28,268	4,415
M 宿泊業、飲食サービス業	87,960	△ 21.9	85,105	△ 22.7	82,082	△ 17.7	3,023	2,855
N 生活関連サービス業、娯楽業	193,058	△ 3.5	193,058	△ 3.5	187,346	△ 2.7	5,712	0
O 教育、学習支援業	324,966	6.0	324,952	6.6	316,909	6.9	8,043	14
P 医療、福祉	263,440	△ 9.1	263,287	△ 9.1	249,852	△ 8.2	13,435	153
Q 複合サービス事業	286,190	9.8	278,617	7.3	262,641	12.1	15,976	7,573
R サービス業（他に分類されないもの）	173,867	△ 5.4	168,432	△ 8.3	151,223	△ 8.9	17,209	5,435
T L 調査産業計 一般労働者	335,954	1.0	333,771	0.4	302,996	1.5	30,775	2,183
E 製造業	347,576	3.7	344,067	2.6	306,338	4.2	37,729	3,509
I 卸売業、小売業	304,921	4.7	303,804	4.3	270,727	4.8	33,077	1,117
P 医療、福祉	302,875	△ 7.5	302,688	△ 7.6	285,540	△ 6.3	17,148	187
T L 調査産業計 パートタイム労働者	98,520	△ 13.2	97,400	△ 14.1	95,178	△ 12.4	2,222	1,120
E 製造業	125,803	△ 13.3	125,797	△ 13.2	121,663	△ 5.5	4,134	6
I 卸売業、小売業	97,099	△ 3.8	96,490	△ 4.4	94,754	△ 2.7	1,736	609
P 医療、福祉	131,872	△ 24.1	131,830	△ 24.1	130,784	△ 23.9	1,046	42

2. 月間労働時間及び出勤日数

(事業所規模5人以上)

産 業	総実労働時間		所定内労働時間		所定外労働時間		出勤日数	
	時間	前年比	時間	前年比	時間	前年比	日	前年差
T L 調査産業計	140.4	△ 5.7	132.5	△ 3.0	7.9	△ 35.8	18.4	△ 0.5
D 建設業	162.0	△ 5.7	150.4	△ 4.7	11.6	△ 16.6	19.9	△ 0.8
E 製造業	166.2	△ 1.7	151.3	0.4	14.9	△ 18.6	19.8	△ 0.1
F 電気・ガス・熱供給・水道業	161.2	9.0	153.3	10.5	7.9	△ 14.1	19.8	1.6
G 情報通信業	143.8	△ 7.4	136.6	△ 4.9	7.2	△ 37.9	18.9	△ 0.2
H 運輸業、郵便業	144.8	△ 21.5	127.6	△ 19.7	17.2	△ 33.1	16.9	△ 2.6
I 卸売業、小売業	131.6	△ 0.5	128.2	2.5	3.4	△ 51.4	19.1	0.6
J 金融業、保険業	144.9	1.0	137.3	2.1	7.6	△ 14.6	19.3	0.5
K 不動産業、物品賃貸業	168.1	△ 0.4	156.9	0.7	11.2	△ 13.8	20.8	0.3
L 学術研究、専門・技術サービス業	149.7	7.0	140.0	5.0	9.7	△ 44.6	20.2	2.0
M 宿泊業、飲食サービス業	69.8	△ 32.6	67.3	△ 31.1	2.5	△ 58.3	11.5	△ 4.4
N 生活関連サービス業、娯楽業	146.6	3.4	137.9	0.9	8.7	70.8	19.2	0.5
O 教育、学習支援業	144.1	△ 13.0	141.7	1.0	2.4	△ 90.5	18.8	0.2
P 医療、福祉	137.6	△ 0.4	134.1	0.6	3.5	△ 28.6	18.9	△ 0.4
Q 複合サービス事業	157.8	0.8	150.9	5.0	6.9	△ 46.5	20.8	1.3
R サービス業（他に分類されないもの）	123.0	△ 12.4	114.9	△ 10.1	8.1	△ 35.7	16.6	△ 1.6
T L 調査産業計 一般労働者	167.2	△ 3.8	156.2	△ 0.7	11.0	△ 33.7	20.2	0.0
E 製造業	173.7	△ 1.8	157.0	0.1	16.7	△ 16.5	20.0	△ 0.1
I 卸売業、小売業	179.1	△ 0.3	171.9	3.4	7.2	△ 46.3	21.5	0.2
P 医療、福祉	161.3	△ 0.8	156.9	0.8	4.4	△ 36.2	20.6	△ 0.1
T L 調査産業計 パートタイム労働者	86.0	△ 9.4	84.3	△ 8.0	1.7	△ 46.9	14.9	△ 1.2
E 製造業	115.3	△ 9.3	112.6	△ 4.4	2.7	△ 70.9	18.3	0.0
I 卸売業、小売業	101.5	0.2	100.5	2.1	1.0	△ 65.5	17.6	0.9
P 医療、福祉	81.3	△ 6.5	80.1	△ 7.2	1.2	100.0	14.7	△ 1.6

(事業所規模30人以上)

産 業	総実労働時間		所定内労働時間		所定外労働時間		出勤日数	
	時間	前年比	時間	前年比	時間	前年比	日	前年差
T L 調査産業計	147.6	△ 2.6	137.0	△ 0.7	10.6	△ 21.5	18.8	△ 0.1
D 建設業	172.2	△ 3.2	152.3	△ 0.8	19.9	△ 18.8	20.9	0.5
E 製造業	172.0	0.3	154.8	2.4	17.2	△ 14.8	19.8	0.2
F 電気・ガス・熱供給・水道業	159.4	4.5	148.4	5.2	11.0	△ 2.7	19.4	0.8
G 情報通信業	139.2	△ 8.9	129.9	△ 5.4	9.3	△ 40.0	18.8	0.2
H 運輸業、郵便業	174.1	△ 2.8	148.7	△ 4.4	25.4	8.1	19.6	△ 0.5
I 卸売業、小売業	124.0	0.5	118.5	1.4	5.5	△ 16.7	18.9	0.0
J 金融業、保険業	146.2	3.9	137.5	7.7	8.7	△ 33.6	18.8	0.0
K 不動産業、物品賃貸業	x	x	x	x	x	x	x	x
L 学術研究、専門・技術サービス業	155.9	7.8	142.1	8.0	13.8	5.3	19.5	1.4
M 宿泊業、飲食サービス業	54.7	△ 40.2	53.1	△ 36.0	1.6	△ 81.2	10.0	△ 4.0
N 生活関連サービス業、娯楽業	144.2	△ 2.5	133.2	△ 4.6	11.0	34.2	17.8	△ 0.5
O 教育、学習支援業	142.6	4.0	140.2	6.0	2.4	△ 51.1	18.7	1.3
P 医療、福祉	142.4	△ 3.6	139.0	△ 1.8	3.4	△ 45.1	19.1	0.0
Q 複合サービス事業	153.3	△ 0.2	146.4	6.3	6.9	△ 56.6	20.2	1.8
R サービス業（他に分類されないもの）	114.0	△ 17.8	105.0	△ 15.4	9.0	△ 38.3	15.8	△ 2.1
T L 調査産業計 一般労働者	171.1	△ 1.1	157.2	1.0	13.9	△ 19.1	20.2	0.3
E 製造業	176.8	1.2	158.3	2.8	18.5	△ 11.0	19.9	0.1
I 卸売業、小売業	183.8	△ 3.9	169.1	△ 1.8	14.7	△ 23.0	20.8	△ 0.8
P 医療、福祉	160.5	△ 2.9	156.2	△ 0.7	4.3	△ 46.2	20.7	0.4
T L 調査産業計 パートタイム労働者	84.5	△ 13.4	82.8	△ 11.2	1.7	△ 60.5	14.9	△ 1.3
E 製造業	122.4	△ 13.8	118.5	△ 6.6	3.9	△ 74.2	18.0	△ 0.5
I 卸売業、小売業	99.2	△ 2.8	97.6	△ 1.8	1.6	△ 40.8	18.1	0.1
P 医療、福祉	82.1	△ 12.9	81.7	△ 12.6	0.4	△ 42.8	13.9	△ 1.8

3. 常用雇用及び労働異動率

(事業所規模5人以上)

産業	常用労働者						入職率	離職率
	前年比		一般労働者	パートタイム労働者	パートタイム労働者比率			
	人	%			%	ポイント		
T L 調査産業計	293,579	0.8	197,779	95,800	32.6	1.4	5.58	4.43
D 建設業	14,993	△ 4.2	14,798	195	1.3	△ 2.6	4.31	3.43
E 製造業	69,554	△ 2.3	60,480	9,074	13.0	△ 2.4	2.46	1.51
F 電気・ガス・熱供給・水道業	1,897	3.0	1,708	189	10.0	△ 2.9	4.26	0.55
G 情報通信業	3,657	△ 0.9	3,000	657	18.0	4.1	2.31	2.86
H 運輸業，郵便業	13,409	△ 1.2	8,498	4,911	36.6	24.4	0.90	0.67
I 卸売業，小売業	51,811	0.6	20,136	31,675	61.1	1.1	2.45	2.44
J 金融業，保険業	6,758	0.9	5,216	1,542	22.8	9.8	5.55	7.42
K 不動産業，物品賃貸業	1,796	△ 4.8	1,505	291	16.2	△ 5.7	3.62	0.52
L 学術研究，専門・技術サービス業	4,513	△ 3.5	3,733	780	17.3	2.0	28.43	31.08
M 宿泊業，飲食サービス業	25,201	4.6	6,102	19,099	75.8	5.9	5.45	3.65
N 生活関連サービス業，娯楽業	14,267	18.9	10,625	3,642	25.5	△ 7.4	15.27	7.42
O 教育，学習支援業	20,751	1.6	16,179	4,572	22.0	9.7	17.83	13.54
P 医療，福祉	45,452	2.3	32,400	13,052	28.7	△ 3.7	5.78	4.85
Q 複合サービス事業	5,138	△ 2.8	4,053	1,085	21.1	△ 1.7	9.55	6.65
R サービス業（他に分類されないもの）	14,172	△ 2.8	9,136	5,036	35.5	0.5	3.84	5.44
T L 調査産業計	一般労働者	197,779	△ 1.5	-	-	-	6.16	4.10
E 製造業		60,480	0.5	-	-	-	2.35	1.38
I 卸売業，小売業		20,136	△ 2.3	-	-	-	2.04	1.61
P 医療，福祉		32,400	7.9	-	-	-	6.33	2.98
T L 調査産業計	パートタイム労働者	95,800	5.3	-	-	-	4.43	5.10
E 製造業		9,074	△ 17.1	-	-	-	3.27	2.44
I 卸売業，小売業		31,675	2.4	-	-	-	2.71	2.96
P 医療，福祉		13,052	△ 9.5	-	-	-	4.54	9.06

(事業所規模30人以上)

産業	常用労働者				一般労働者	パートタイム労働者	パートタイム労働者比率		入職率	離職率
	前年比		前年差							
	人	%	人	ポイント						
T L 調査産業計	157,370	△ 1.2	114,948	42,422	27.0	△ 1.3	5.11	4.00		
D 建設業	4,220	△ 11.4	4,122	98	2.3	1.0	5.56	3.53		
E 製造業	54,316	△ 1.8	49,487	4,829	8.9	△ 1.5	2.55	1.54		
F 電気・ガス・熱供給・水道業	1,263	0.6	1,074	189	15.0	△ 1.3	2.17	0.80		
G 情報通信業	1,932	△ 1.7	1,491	441	22.8	4.2	4.35	5.38		
H 運輸業，郵便業	6,423	△ 4.5	5,375	1,048	16.3	△ 5.2	1.13	0.63		
I 卸売業，小売業	20,083	1.7	5,904	14,179	70.6	△ 5.0	3.98	4.79		
J 金融業，保険業	2,733	△ 5.0	2,157	576	21.1	△ 2.8	5.05	6.39		
K 不動産業，物品賃貸業	x	x	x	x	x	x	x	x		
L 学術研究，専門・技術サービス業	1,275	△ 3.5	980	295	23.1	△ 7.0	21.80	22.89		
M 宿泊業，飲食サービス業	6,500	△ 6.8	926	5,574	85.8	0.6	3.56	7.23		
N 生活関連サービス業，娯楽業	5,187	△ 0.3	3,759	1,428	27.5	4.6	4.95	1.91		
O 教育，学習支援業	11,624	1.6	9,211	2,413	20.8	1.5	21.82	13.91		
P 医療，福祉	29,396	3.5	22,636	6,760	23.0	△ 1.7	5.20	3.20		
Q 複合サービス事業	3,043	△ 3.7	2,140	903	29.7	0.8	8.68	5.14		
R サービス業（他に分類されないもの）	8,991	△ 6.4	5,333	3,658	40.7	△ 0.7	3.58	5.38		
T L 調査産業計	一般労働者	114,948	0.7	-	-	-	4.94	3.27		
E 製造業	49,487	△ 0.2	-	-	-	-	2.44	1.47		
I 卸売業，小売業	5,904	22.4	-	-	-	-	6.18	5.51		
P 医療，福祉	22,636	5.7	-	-	-	-	5.13	2.76		
T L 調査産業計	パートタイム労働者	42,422	△ 6.0	-	-	-	5.57	5.97		
E 製造業	4,829	△ 16.2	-	-	-	-	3.64	2.33		
I 卸売業，小売業	14,179	△ 5.1	-	-	-	-	3.08	4.49		
P 医療，福祉	6,760	△ 3.5	-	-	-	-	5.45	4.67		

4. 名目賃金指数

(事業所規模5人以上)

(平成27年平均=100)

	現金給与総額				きまって支給する給与				所定内給与			
	調査産業計		製造業		調査産業計		製造業		調査産業計		製造業	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
平成25年	100.7		93.9	△ 0.2	101.6	1.0	97.6	△ 0.2	102.2	0.7	97.6	△ 0.1
26年	100.2	△ 0.6	96.4	2.7	100.3	△ 1.3	98.9	1.2	99.9	△ 2.3	97.6	△ 0.1
27年	100.0	△ 0.1	100.0	3.8	100.0	△ 0.3	100.0	1.2	100.0	0.1	100.0	2.5
28年	101.2	1.2	97.9	△ 2.2	100.2	0.2	99.2	△ 0.8	100.3	0.3	99.5	△ 0.6
29年	102.0	0.8	96.6	△ 1.3	101.8	1.6	97.8	△ 1.4	101.4	1.1	97.6	△ 1.9
30年	105.0	2.9	106.4	10.1	102.7	0.9	103.7	6.0	102.1	0.7	102.9	5.4
令和元年	103.7	△ 1.2	102.5	△ 3.7	103.0	0.3	101.7	△ 1.9	103.1	1.0	101.5	△ 1.4
平成30年 4月	88.5	△ 0.1	83.2	4.7	103.7	0.4	104.1	6.4	103.0	0.1	102.6	5.1
5月	89.4	1.6	82.5	4.7	103.1	2.1	102.6	7.8	103.0	2.1	101.9	6.4
6月	158.8	11.8	176.9	26.6	103.9	0.3	103.9	6.7	103.7	0.4	103.2	5.8
7月	114.4	2.9	125.3	11.3	102.5	△ 0.4	104.3	4.3	102.1	△ 0.1	103.7	4.4
8月	89.5	△ 2.9	85.2	4.0	102.2	0.9	103.4	5.3	101.8	0.9	103.3	5.3
9月	87.3	0.8	86.6	6.9	101.7	0.5	104.3	5.0	101.3	△ 0.5	103.9	4.8
10月	87.1	1.2	83.1	5.6	103.1	2.1	105.2	6.6	101.9	1.3	104.2	5.7
11月	89.0	0.1	87.8	6.3	103.0	1.2	105.4	5.0	101.6	0.8	104.2	5.3
12月	193.9	6.5	218.9	11.3	102.2	0.5	104.2	4.0	101.3	0.6	103.5	4.7
平成31年 1月	86.7	0.0	78.5	△ 2.5	101.4	0.3	98.4	△ 1.7	101.7	0.7	98.6	△ 1.7
2月	85.5	△ 1.3	79.0	△ 2.9	101.1	△ 1.2	100.2	△ 2.9	100.8	△ 1.1	99.3	△ 2.7
3月	89.4	0.1	80.4	△ 5.3	103.1	△ 0.6	101.1	△ 2.2	103.0	0.1	100.4	△ 1.4
4月	88.9	0.5	80.7	△ 3.0	105.3	1.5	102.0	△ 2.0	105.0	1.9	100.7	△ 1.9
令和元年 5月	90.8	1.6	81.8	△ 0.8	103.3	0.2	99.8	△ 2.7	103.8	0.8	100.4	△ 1.5
6月	157.2	△ 1.0	168.1	△ 5.0	104.7	0.8	101.6	△ 2.2	105.0	1.3	101.3	△ 1.8
7月	113.5	△ 0.8	127.3	1.6	103.4	0.9	103.8	△ 0.5	103.3	1.2	103.0	△ 0.7
8月	88.7	△ 0.9	81.4	△ 4.5	101.8	△ 0.4	101.5	△ 1.8	101.8	0.0	101.5	△ 1.7
9月	87.0	△ 0.3	83.7	△ 3.3	101.9	0.2	101.7	△ 2.5	102.5	1.2	102.1	△ 1.7
10月	87.0	△ 0.1	81.4	△ 2.0	103.3	0.2	103.5	△ 1.6	103.5	1.6	103.5	△ 0.7
11月	91.8	3.1	86.8	△ 1.1	103.4	0.4	103.3	△ 2.0	103.5	1.9	103.5	△ 0.7
12月	178.2	△ 8.1	201.4	△ 8.0	103.1	0.9	103.0	△ 1.2	103.7	2.4	103.4	△ 0.1
令和2年 1月	87.6	1.0	81.2	3.4	102.1	0.7	101.6	3.3	102.4	0.7	102.6	4.1
2月	85.9	0.5	82.2	4.1	101.4	0.3	104.1	3.9	101.3	0.5	104.6	5.3
3月	90.4	1.1	85.9	6.8	102.9	△ 0.2	104.7	3.6	102.9	△ 0.1	105.3	4.9
4月	87.9	△ 1.1	84.0	4.1	103.6	△ 1.6	104.9	2.8	104.3	△ 0.7	105.6	4.9

(事業所規模30人以上)

(平成27年平均=100)

	現金給与総額				きまって支給する給与				所定内給与			
	調査産業計		製造業		調査産業計		製造業		調査産業計		製造業	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
平成25年	97.8	△ 0.4	95.8	△ 1.8	98.8	△ 0.3	99.7	△ 1.5	99.2	△ 0.1	99.6	△ 1.0
26年	99.2	1.5	97.3	1.5	99.5	0.7	99.4	△ 0.3	99.1	△ 0.1	98.0	△ 1.6
27年	100.0	0.8	100.0	2.8	100.0	0.5	100.0	0.6	100.0	0.9	100.0	2.0
28年	101.1	1.2	98.7	△ 1.2	100.5	0.5	100.3	0.2	100.5	0.5	100.4	0.4
29年	101.9	0.8	98.6	△ 0.1	101.7	1.2	99.5	△ 0.8	101.0	0.5	99.0	△ 1.4
30年	105.9	3.9	107.4	8.9	103.1	1.4	104.2	4.7	101.7	0.7	103.2	4.2
令和元年	102.0	△ 3.7	103.9	△ 3.3	100.0	△ 3.0	102.4	△ 1.7	99.5	△ 2.2	102.1	△ 1.1
平成30年 4月	85.9	0.6	82.2	1.5	103.7	2.3	105.1	3.8	102.1	1.3	103.4	2.9
5月	87.1	2.0	82.0	1.6	102.8	2.8	104.0	5.4	102.0	1.9	103.1	4.2
6月	175.2	14.5	189.4	22.4	103.8	0.8	105.1	4.6	102.7	0.5	104.2	3.9
7月	112.3	2.1	125.6	11.8	103.7	0.7	104.4	4.3	102.7	1.1	103.6	4.3
8月	86.3	△ 0.5	82.5	5.9	103.0	1.1	103.8	5.9	102.0	1.1	103.4	5.8
9月	86.3	0.8	85.3	7.0	102.4	0.6	104.0	4.7	101.5	△ 0.4	103.4	4.2
10月	85.0	0.0	81.2	4.9	103.4	1.6	105.0	6.0	101.3	0.4	103.9	4.8
11月	88.1	0.8	86.6	6.0	103.6	0.8	105.6	5.1	101.4	0.3	104.1	5.0
12月	208.2	7.4	231.0	10.7	102.7	0.3	104.2	4.4	101.1	0.6	103.2	4.9
平成31年 1月	80.6	△ 5.1	77.7	△ 1.1	96.8	△ 5.1	99.7	△ 1.6	96.5	△ 4.5	100.1	△ 1.3
2月	80.4	△ 4.6	78.6	△ 1.3	98.0	△ 4.1	102.1	△ 1.0	96.9	△ 4.1	101.3	△ 0.6
3月	84.5	△ 3.4	80.1	△ 5.2	100.6	△ 2.9	102.9	△ 1.5	99.7	△ 2.3	102.1	△ 0.7
4月	83.6	△ 2.7	79.4	△ 3.4	101.9	△ 1.7	103.3	△ 1.7	100.5	△ 1.6	101.8	△ 1.5
令和元年 5月	87.1	0.0	81.6	△ 0.5	100.1	△ 2.6	101.1	△ 2.8	99.9	△ 2.1	101.7	△ 1.4
6月	167.2	△ 4.6	182.0	△ 3.9	101.5	△ 2.2	102.8	△ 2.2	100.8	△ 1.9	102.3	△ 1.8
7月	110.9	△ 1.2	125.9	0.2	100.7	△ 2.9	103.2	△ 1.1	100.0	△ 2.6	102.3	△ 1.3
8月	83.3	△ 3.5	79.7	△ 3.4	99.7	△ 3.2	101.9	△ 1.8	99.3	△ 2.6	102.0	△ 1.4
9月	83.5	△ 3.2	82.5	△ 3.3	99.8	△ 2.5	102.4	△ 1.5	99.7	△ 1.8	102.8	△ 0.6
10月	82.4	△ 3.1	79.3	△ 2.3	100.5	△ 2.8	103.1	△ 1.8	100.0	△ 1.3	102.9	△ 1.0
11月	88.1	0.0	85.8	△ 0.9	100.5	△ 3.0	103.3	△ 2.2	99.9	△ 1.5	103.2	△ 0.9
12月	192.4	△ 7.6	214.5	△ 7.1	100.4	△ 2.2	102.6	△ 1.5	100.3	△ 0.8	102.8	△ 0.4
令和2年 1月	81.8	1.5	79.9	2.8	99.1	2.4	102.7	3.0	99.4	3.0	103.8	3.7
2月	81.7	1.6	80.9	2.9	99.3	1.3	104.8	2.6	98.7	1.9	105.2	3.8
3月	85.8	1.5	85.1	6.2	100.0	△ 0.6	105.4	2.4	99.5	△ 0.2	105.4	3.2
4月	83.9	0.4	82.5	3.9	101.7	△ 0.2	106.3	2.9	101.4	0.9	106.6	4.7

5. 実質賃金指数

(事業所規模 5 人以上)				(平成27年平均＝100)				
	現金給与総額				きまって支給する給与			
	調査産業計		製造業		調査産業計		製造業	
		前年比		前年比		前年比		前年比
平成25年	104.9	0.3	97.8	△ 1.0	105.8	0.2	101.7	△ 1.0
26年	101.2	△ 3.6	97.4	△ 0.4	101.3	△ 4.3	99.9	△ 1.9
27年	100.0	△ 1.1	100.0	2.6	100.0	△ 1.3	100.0	0.1
28年	101.7	2.1	98.4	△ 1.3	100.7	1.2	99.7	0.1
29年	101.9	0.2	96.5	△ 1.9	101.7	1.0	97.7	△ 2.0
30年	103.1	1.2	104.5	8.3	100.9	△ 0.8	101.9	4.3
令和元年	101.1	△ 1.9	99.9	△ 4.4	100.4	△ 0.5	99.1	△ 2.7
平成30年 4月	87.6	△ 1.1	82.4	3.6	102.7	△ 0.6	103.1	5.4
5月	88.3	0.6	81.5	3.7	101.9	1.1	101.4	6.7
6月	156.8	10.3	174.6	25.0	102.6	△ 1.0	102.6	5.3
7月	113.0	1.3	123.8	9.5	101.3	△ 1.9	103.1	2.7
8月	87.9	△ 4.7	83.7	2.2	100.4	△ 0.9	101.6	3.5
9月	85.3	△ 1.4	84.7	4.7	99.4	△ 1.7	102.0	2.8
10月	84.5	△ 1.5	80.6	2.7	100.0	△ 0.7	102.0	3.7
11月	86.7	△ 1.7	85.5	4.4	100.3	△ 0.7	102.6	3.0
12月	189.5	5.7	214.0	10.5	99.9	△ 0.3	101.9	3.2
平成31年 1月	84.9	△ 0.7	76.9	△ 3.1	99.3	△ 0.4	96.4	△ 2.3
2月	83.7	△ 1.9	77.4	△ 3.5	99.0	△ 1.8	98.1	△ 3.5
3月	87.3	△ 1.0	78.5	△ 6.4	100.7	△ 1.8	98.7	△ 3.4
4月	86.6	△ 1.1	78.6	△ 4.6	102.5	△ 0.2	99.3	△ 3.7
令和元年 5月	88.4	0.1	79.6	△ 2.3	100.6	△ 1.3	97.2	△ 4.1
6月	153.4	△ 2.2	164.0	△ 6.1	102.1	△ 0.5	99.1	△ 3.4
7月	110.9	△ 1.9	124.4	0.5	101.1	△ 0.2	101.5	△ 1.6
8月	86.6	△ 1.5	79.5	△ 5.0	99.4	△ 1.0	99.1	△ 2.5
9月	84.6	△ 0.8	81.4	△ 3.9	99.1	△ 0.3	98.9	△ 3.0
10月	84.7	0.2	79.3	△ 1.6	100.6	0.6	100.8	△ 1.2
11月	89.2	2.9	84.4	△ 1.3	100.5	0.2	100.4	△ 2.1
12月	173.0	△ 8.7	195.5	△ 8.6	100.1	0.2	100.0	△ 1.9
令和 2年 1月	85.4	0.6	79.1	2.9	99.5	0.2	99.0	2.7
2月	84.1	0.5	80.4	3.9	99.2	0.2	101.9	3.9
3月	88.4	1.3	84.0	7.0	100.6	△ 0.1	102.3	3.6
4月	85.9	△ 0.8	82.1	4.5	101.3	△ 1.2	102.5	3.2

(事業所規模30人以上)				(平成27年平均＝100)			
	現金給与総額		製造業		きまって支給する給与		甲府市 消費者 物価指数
	調査産業計	前年比	調査産業計	前年比	調査産業計	前年比	
平成25年	101.9	△ 1.2	99.8	△ 2.6	102.9	△ 1.1	96.0
26年	100.2	△ 1.6	98.3	△ 1.6	100.5	△ 2.3	99.0
27年	100.0	△ 0.2	100.0	1.7	100.0	△ 0.6	100.0
28年	101.6	2.0	99.2	△ 0.4	101.0	1.3	99.5
29年	101.8	0.2	98.5	△ 0.7	101.6	0.6	100.1
30年	104.0	2.2	105.5	7.1	101.3	△ 0.3	101.8
令和元年	99.4	△ 4.4	101.3	△ 4.0	97.5	△ 3.8	102.6
平成30年 4月	85.0	△ 0.5	81.4	0.5	102.7	1.3	101.0
5月	86.1	1.1	81.0	0.6	101.6	1.8	101.2
6月	173.0	13.1	187.0	20.9	102.5	△ 0.5	101.3
7月	111.0	0.5	124.1	10.0	102.5	△ 0.9	101.2
8月	84.8	△ 2.2	81.0	4.0	101.2	△ 0.7	101.8
9月	84.4	△ 1.3	83.4	4.8	100.1	△ 1.6	102.3
10月	82.4	△ 2.7	78.8	2.1	100.3	△ 1.2	103.1
11月	85.8	△ 1.0	84.3	3.9	100.9	△ 1.1	102.7
12月	203.5	6.6	225.8	9.8	100.4	△ 0.5	102.3
平成31年 1月	78.9	△ 5.7	76.1	△ 1.8	94.8	△ 5.8	102.1
2月	78.7	△ 5.3	77.0	△ 1.8	96.0	△ 4.7	102.1
3月	82.5	△ 4.6	78.2	△ 6.3	98.2	△ 4.1	102.4
4月	81.4	△ 4.2	77.3	△ 5.0	99.2	△ 3.4	102.7
令和元年 5月	84.8	△ 1.5	79.5	△ 1.9	97.5	△ 4.0	102.7
6月	163.1	△ 5.7	177.6	△ 5.0	99.0	△ 3.4	102.5
7月	108.4	△ 2.3	123.1	△ 0.8	98.4	△ 4.0	102.3
8月	81.3	△ 4.1	77.8	△ 4.0	97.4	△ 3.8	102.4
9月	81.2	△ 3.8	80.3	△ 3.7	97.1	△ 3.0	102.8
10月	80.2	△ 2.7	77.2	△ 2.0	97.9	△ 2.4	102.7
11月	85.6	△ 0.2	83.4	△ 1.1	97.7	△ 3.2	102.9
12月	186.8	△ 8.2	208.3	△ 7.8	97.5	△ 2.9	103.0
令和 2年 1月	79.7	1.0	77.9	2.4	96.6	1.9	102.6
2月	79.9	1.5	79.2	2.9	97.2	1.3	102.2
3月	83.9	1.7	83.2	6.4	97.8	△ 0.4	102.3
4月	82.0	0.7	80.6	4.3	99.4	0.2	102.3

(※) 甲府市消費者物価指数は、持家の帰属家賃を除く総合指数を使用している。
また、甲府市消費者物価指数の基準は、平成27年平均を100としている。

6. 労働時間指数

(事業所規模5人以上)

(平成27年平均＝100)

	総実労働時間				所定内労働時間				所定外労働時間			
	調査産業計		製造業		調査産業計		製造業		調査産業計		製造業	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
平成25年	100.9	△ 0.4	99.3	0.4	101.6	△ 0.5	100.3	0.6	92.9	1.7	91.8	△ 0.1
26年	100.5	△ 0.4	101.1	1.9	100.7	△ 0.9	102.0	1.7	98.3	5.8	94.6	2.9
27年	100.0	△ 0.5	100.0	△ 1.1	100.0	△ 0.7	100.0	△ 2.0	100.0	1.7	100.0	5.8
28年	100.1	0.1	99.6	△ 0.4	100.2	0.2	99.9	△ 0.1	98.5	△ 1.5	96.6	△ 3.4
29年	99.6	△ 0.5	99.8	0.2	99.2	△ 1.0	99.5	△ 0.4	104.8	6.4	101.4	5.0
30年	98.8	△ 0.8	101.7	1.9	98.1	△ 1.1	100.8	1.3	108.3	3.3	108.7	7.2
令和元年	97.9	△ 0.9	98.5	△ 3.1	97.3	△ 0.8	97.7	△ 3.1	104.9	△ 3.1	104.9	△ 3.5
平成30年 4月	102.1	△ 1.9	105.7	3.2	100.8	△ 2.6	104.6	2.1	119.4	6.9	114.2	12.2
5月	98.1	1.1	97.4	5.6	97.4	0.6	96.7	4.5	107.8	7.8	102.4	15.3
6月	103.5	△ 1.3	106.9	1.3	102.9	△ 1.7	107.2	1.3	111.7	2.8	104.1	2.3
7月	100.5	△ 0.7	102.1	△ 0.6	100.1	△ 0.8	101.6	△ 0.4	104.9	△ 0.9	105.9	△ 2.2
8月	97.3	1.8	97.7	4.0	96.9	1.8	97.1	3.6	102.9	1.9	102.4	8.1
9月	96.8	△ 2.7	101.5	△ 1.2	96.4	△ 2.9	100.8	△ 1.4	101.9	△ 1.0	107.1	1.1
10月	101.6	2.2	105.4	4.2	100.9	1.8	104.3	3.4	111.7	8.6	114.2	10.2
11月	102.3	1.3	107.5	2.2	101.6	1.2	106.8	2.4	112.6	3.6	112.4	△ 0.5
12月	97.4	△ 1.9	102.4	△ 0.5	96.5	△ 1.9	101.4	△ 0.6	108.7	△ 1.8	110.1	0.0
平成31年 1月	91.3	0.0	87.4	△ 2.7	90.5	△ 0.3	86.4	△ 2.7	101.0	3.0	95.3	△ 3.0
2月	96.4	0.5	98.7	△ 2.0	95.6	0.4	97.5	△ 1.5	105.8	0.0	108.9	△ 5.1
3月	98.7	△ 0.6	99.6	△ 3.1	97.7	△ 0.5	98.4	△ 2.5	111.7	△ 1.7	109.5	△ 7.4
4月	102.2	0.1	102.9	△ 2.6	100.9	0.1	102.2	△ 2.3	119.4	0.0	108.3	△ 5.2
令和元年 5月	95.8	△ 2.3	91.8	△ 5.7	94.7	△ 2.8	91.7	△ 5.2	110.7	2.7	92.3	△ 9.9
6月	101.8	△ 1.6	102.1	△ 4.5	101.2	△ 1.7	102.4	△ 4.5	109.7	△ 1.8	98.8	△ 5.1
7月	101.3	0.8	103.2	1.1	101.0	0.9	101.8	0.2	105.8	0.9	114.8	8.4
8月	94.3	△ 3.1	93.1	△ 4.7	94.0	△ 3.0	92.0	△ 5.3	98.1	△ 4.7	102.4	0.0
9月	97.1	0.3	99.8	△ 1.7	96.8	0.4	98.8	△ 2.0	101.0	△ 0.9	108.3	1.1
10月	98.4	△ 3.1	100.5	△ 4.6	98.4	△ 2.5	100.6	△ 3.5	99.0	△ 11.4	98.8	△ 13.5
11月	99.3	△ 2.9	102.5	△ 4.7	99.1	△ 2.5	101.2	△ 5.2	101.9	△ 9.5	113.0	0.5
12月	97.9	0.5	100.4	△ 2.0	98.2	1.8	99.4	△ 2.0	95.1	△ 12.5	108.3	△ 1.6
令和2年 1月	91.2	△ 0.1	90.9	4.0	91.1	0.7	90.0	4.2	92.2	△ 8.7	98.2	3.0
2月	92.9	△ 3.6	98.1	△ 0.6	93.2	△ 2.5	98.0	0.5	89.3	△ 15.6	97.6	△ 10.4
3月	94.5	△ 4.3	98.7	△ 0.9	94.8	△ 3.0	98.6	0.2	91.3	△ 18.3	99.4	△ 9.2
4月	96.4	△ 5.7	101.2	△ 1.7	97.9	△ 3.0	102.6	0.4	76.7	△ 35.8	88.2	△ 18.6

(事業所規模30人以上)

(平成27年平均＝100)

	総実労働時間				所定内労働時間				所定外労働時間			
	調査産業計		製造業		調査産業計		製造業		調査産業計		製造業	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
平成25年	100.6	△ 0.3	98.3	△ 0.6	101.4	0.4	100.3	0.4	92.9	△ 6.8	85.1	△ 8.1
26年	101.7	1.0	100.3	2.0	102.0	0.6	101.8	1.5	98.8	6.3	90.7	6.6
27年	100.0	△ 1.6	100.0	△ 0.4	100.0	△ 2.0	100.0	△ 1.7	100.0	1.3	100.0	10.2
28年	100.1	0.1	99.6	△ 0.4	100.3	0.3	99.8	△ 0.2	98.6	△ 1.4	97.6	△ 2.3
29年	101.3	1.2	100.5	0.9	100.7	0.4	100.0	0.2	106.1	7.6	104.7	7.3
30年	100.2	△ 1.1	101.8	1.3	99.4	△ 1.3	100.8	0.8	108.9	2.6	109.2	4.3
令和元年	97.9	△ 2.3	98.2	△ 3.5	97.2	△ 2.2	98.2	△ 2.6	104.3	△ 4.2	98.7	△ 9.6
平成30年 4月	102.8	△ 1.9	105.4	1.1	101.7	△ 2.4	104.1	0.3	114.0	3.0	115.2	6.8
5月	99.9	2.7	98.2	5.0	99.3	2.2	97.3	4.2	106.6	9.3	104.7	11.1
6月	104.8	△ 0.9	107.0	△ 0.1	104.3	△ 1.1	107.1	△ 0.2	109.1	1.6	106.8	0.5
7月	101.8	△ 2.8	102.2	△ 1.1	101.2	△ 2.9	101.7	△ 0.7	108.3	△ 1.5	106.3	△ 3.8
8月	98.1	△ 0.4	98.0	4.6	97.4	△ 0.6	97.4	4.3	105.0	2.4	102.1	6.0
9月	97.4	△ 4.3	101.0	△ 1.4	96.6	△ 4.6	100.1	△ 1.8	105.8	△ 0.8	107.9	1.5
10月	102.3	0.5	104.9	3.8	101.5	0.3	104.0	3.3	111.6	3.9	112.0	7.5
11月	104.1	0.1	107.6	2.6	103.2	0.1	106.9	2.9	113.2	0.7	113.1	0.0
12月	98.9	△ 2.4	101.7	△ 0.5	97.8	△ 2.4	100.7	△ 0.5	110.7	△ 2.2	109.9	0.0
平成31年 1月	90.9	△ 3.3	88.7	△ 3.4	89.7	△ 4.0	88.0	△ 3.1	104.1	3.3	94.8	△ 4.7
2月	95.2	△ 2.1	99.3	△ 1.0	94.1	△ 2.3	98.4	△ 0.3	107.4	0.8	106.8	△ 5.6
3月	98.1	△ 2.7	99.9	△ 3.4	96.9	△ 2.6	99.1	△ 2.2	110.7	△ 3.7	106.8	△ 10.9
4月	101.5	△ 1.3	102.1	△ 3.1	100.6	△ 1.1	101.6	△ 2.4	111.6	△ 2.1	105.8	△ 8.2
令和元年 5月	96.0	△ 3.9	92.4	△ 5.9	95.3	△ 4.0	92.6	△ 4.8	102.5	△ 3.8	90.6	△ 13.5
6月	100.5	△ 4.1	101.5	△ 5.1	100.1	△ 4.0	102.1	△ 4.7	103.3	△ 5.3	96.9	△ 9.3
7月	102.0	0.2	102.6	0.4	101.7	0.5	102.9	1.2	105.0	△ 3.0	100.0	△ 5.9
8月	95.0	△ 3.2	92.6	△ 5.5	94.5	△ 3.0	92.7	△ 4.8	100.0	△ 4.8	91.6	△ 10.3
9月	97.7	0.3	98.8	△ 2.2	97.1	0.5	99.0	△ 1.1	103.3	△ 2.4	97.4	△ 9.7
10月	99.9	△ 2.3	100.2	△ 4.5	99.6	△ 1.9	100.7	△ 3.2	101.7	△ 8.9	96.9	△ 13.5
11月	99.7	△ 4.2	102.1	△ 5.1	99.5	△ 3.6	102.4	△ 4.2	101.7	△ 10.2	100.0	△ 11.6
12月	98.0	△ 0.9	98.3	△ 3.3	97.7	△ 0.1	98.6	△ 2.1	100.0	△ 9.7	96.3	△ 12.4
令和2年 1月	92.7	2.0	91.0	2.6	92.7	3.3	91.2	3.6	91.7	△ 11.9	89.5	△ 5.6
2月	93.9	△ 1.4	96.3	△ 3.0	93.7	△ 0.4	96.6	△ 1.8	95.9	△ 10.7	94.2	△ 11.8
3月	96.2	△ 1.9	99.0	△ 0.9	95.9	△ 1.0	98.9	△ 0.2	98.3	△ 11.2	99.5	△ 6.8
4月	98.9	△ 2.6	102.4	0.3	99.9	△ 0.7	104.0	2.4	87.6	△ 21.5	90.1	△ 14.8

7. 常用雇用指数

(事業所規模 5 人以上) (平成27年平均=100)

	常用労働者		製造業	
	調査産業計	前年比	調査産業計	前年比
平成25年	96.8	△ 0.8	95.1	△ 1.7
26年	98.3	1.4	95.3	0.2
27年	100.0	1.9	100.0	4.9
28年	99.9	△ 0.1	100.8	0.8
29年	101.3	1.4	99.1	△ 1.7
30年	101.9	0.6	96.9	△ 2.2
令和元年	103.4	1.5	99.6	2.8
平成30年 4月	101.7	0.3	97.5	△ 3.3
5月	101.7	0.0	97.9	△ 2.7
6月	101.6	△ 0.4	97.3	△ 3.2
7月	102.5	0.6	96.8	△ 1.6
8月	102.7	0.6	96.9	△ 1.4
9月	102.4	0.4	96.9	△ 1.8
10月	103.1	1.0	97.4	△ 1.0
11月	103.0	0.5	96.9	△ 1.6
12月	103.2	1.0	97.1	△ 1.1
平成31年 1月	102.9	2.5	100.4	4.9
2月	102.9	3.0	100.0	4.3
3月	102.7	2.6	99.8	3.9
4月	103.3	1.6	101.2	3.8
令和元年 5月	103.5	1.8	101.0	3.2
6月	103.6	2.0	101.4	4.2
7月	103.5	1.0	99.0	2.3
8月	103.7	1.0	99.3	2.5
9月	103.7	1.3	98.8	2.0
10月	103.4	0.3	98.8	1.4
11月	104.2	1.2	98.2	1.3
12月	103.6	0.4	96.7	△ 0.4
令和2年 1月	103.8	0.9	98.4	△ 2.0
2月	102.3	△ 0.6	98.6	△ 1.4
3月	101.5	△ 1.2	97.5	△ 2.3
4月	104.1	0.8	98.9	△ 2.3

(事業所規模30人以上) (平成27年平均=100)

	常用労働者		製造業	
	調査産業計	前年比	調査産業計	前年比
平成25年	97.1	0.0	92.2	△ 1.0
26年	98.0	0.9	94.4	2.3
27年	100.0	2.1	100.0	6.0
28年	99.5	△ 0.5	100.0	0.0
29年	99.7	0.2	99.1	△ 0.9
30年	98.0	△ 1.7	95.6	△ 3.5
令和元年	97.2	△ 0.8	98.2	2.7
平成30年 4月	98.0	△ 1.9	96.1	△ 3.5
5月	98.2	△ 1.6	96.5	△ 3.1
6月	97.9	△ 2.1	95.8	△ 3.4
7月	98.8	△ 2.0	95.9	△ 4.4
8月	98.9	△ 1.8	95.9	△ 4.1
9月	98.6	△ 1.9	95.8	△ 4.3
10月	99.1	△ 1.1	96.5	△ 3.0
11月	98.9	△ 1.6	95.8	△ 3.5
12月	99.1	△ 1.1	96.1	△ 2.9
平成31年 1月	96.8	0.5	97.7	3.6
2月	96.6	0.8	97.3	3.2
3月	96.3	0.3	97.6	3.4
4月	97.4	△ 0.6	99.4	3.4
令和元年 5月	97.0	△ 1.2	99.3	2.9
6月	97.5	△ 0.4	99.4	3.8
7月	97.8	△ 1.0	98.8	3.0
8月	97.8	△ 1.1	98.7	2.9
9月	97.6	△ 1.0	98.3	2.6
10月	97.5	△ 1.6	98.0	1.6
11月	97.5	△ 1.4	97.7	2.0
12月	97.1	△ 2.0	96.6	0.5
令和2年 1月	96.2	△ 0.6	96.4	△ 1.3
2月	95.9	△ 0.7	97.0	△ 0.3
3月	95.0	△ 1.3	96.0	△ 1.6
4月	96.2	△ 1.2	97.6	△ 1.8

【参考資料】

毎月勤労統計における共通事業所による前年同月比の参考提供について

- (注意 1) 共通事業所とは、「前年同月分」及び「当月分」とともに集計対象となった調査対象事業所のことである。
平成30年から部分入替え方式の導入に伴い、常に一部の調査事業所が前年も調査対象となっていることから
共通事業所に限定した集計が可能となった。
- (注意 2) 共通事業所集計では、同一事業所の平均賃金などの変化をみるためのものであり、
労働者数の変化の影響を除くため、前年同月も当月の労働者数をもとに月々の平均賃金などを計算している。
- (注意 3) 共通事業所のみを用いて集計を行っているため、本系列（すべての調査対象事業所のデータを用いて
作成した集計）に比べ、サンプルサイズが小さくなることに留意が必要である。

		(事業所規模 5人以上)					
		現金給与総額		きまって支給する給与		所定内給与	
		調査産業計	製造業	調査産業計	製造業	調査産業計	製造業
平成31年	1月	△ 1.9	△ 1.2	△ 2.1	△ 1.3	△ 2.0	△ 1.0
	2月	△ 2.0	△ 3.0	△ 2.0	△ 3.0	△ 2.1	△ 2.9
	3月	0.4	△ 4.1	△ 0.9	△ 3.6	△ 0.7	△ 3.1
	4月	0.1	△ 0.6	0.5	△ 0.5	△ 0.4	△ 0.4
令和元年	5月	△ 0.8	0.8	△ 0.5	△ 1.1	△ 0.7	0.8
	6月	6.3	△ 4.9	△ 0.2	△ 1.9	△ 0.6	△ 1.7
	7月	0.7	2.2	1.2	0.0	1.2	△ 0.1
	8月	△ 0.8	△ 2.2	△ 0.1	△ 0.4	0.1	△ 0.4
	9月	0.3	1.2	△ 0.2	△ 0.4	0.6	0.4
	10月	0.2	△ 0.6	0.2	△ 0.4	1.3	0.5
	11月	0.5	△ 3.3	△ 1.7	△ 0.6	△ 1.0	0.9
	12月	△ 4.4	△ 6.4	△ 0.2	0.1	1.0	1.0
令和2年	1月	0.9	1.0	1.8	1.9	2.6	2.9
	2月	1.1	3.0	1.0	2.9	1.8	4.1
	3月	2.6	5.2	△ 1.8	2.4	△ 1.0	3.2
	4月	0.6	4.4	△ 0.1	3.4	0.7	5.5

		(事業所規模30人以上)					
		現金給与総額		きまって支給する給与		所定内給与	
		調査産業計	製造業	調査産業計	製造業	調査産業計	製造業
平成31年	1月	△ 2.3	△ 0.4	△ 2.1	△ 0.8	△ 1.9	△ 0.7
	2月	△ 1.7	△ 0.8	△ 1.1	△ 0.8	△ 0.8	0.0
	3月	△ 1.1	△ 2.4	△ 0.8	△ 1.9	△ 0.3	△ 0.9
	4月	△ 0.2	△ 1.2	0.1	△ 1.1	0.4	△ 0.6
令和元年	5月	0.3	0.7	△ 0.5	△ 1.4	△ 0.4	0.5
	6月	3.4	△ 4.7	△ 0.7	△ 1.7	△ 1.1	△ 1.4
	7月	1.3	1.0	△ 1.2	△ 0.2	△ 0.5	0.0
	8月	△ 1.6	△ 2.3	△ 0.9	△ 0.7	△ 0.4	△ 0.4
	9月	0.4	1.3	△ 0.4	△ 0.5	0.4	0.8
	10月	△ 2.2	△ 1.2	△ 2.0	△ 1.0	△ 1.0	0.6
	11月	2.9	△ 2.1	△ 1.2	△ 0.6	△ 0.2	1.3
	12月	△ 1.9	△ 6.5	0.1	0.2	1.2	1.5
令和2年	1月	0.7	0.6	2.2	1.1	3.2	2.1
	2月	3.1	1.0	2.9	0.9	3.8	2.1
	3月	0.4	3.5	△ 0.5	0.4	△ 0.1	0.8
	4月	0.0	3.1	△ 0.7	1.8	0.8	3.9

労働時間		(事業所規模 5 人以上)					
		総実労働時間		所定内労働時間		所定外労働時間	
		調査産業計	製造業	調査産業計	製造業	調査産業計	製造業
平成31年	1 月	△ 1.9	△ 2.3	△ 2.6	△ 1.6	6.3	△ 7.8
	2 月	△ 1.2	△ 2.8	△ 0.8	△ 2.3	△ 5.1	△ 6.5
	3 月	△ 2.3	△ 3.4	△ 2.1	△ 2.3	△ 4.9	△ 11.2
	4 月	△ 0.7	△ 2.1	△ 1.1	△ 1.2	2.8	△ 8.6
令和元年	5 月	△ 2.7	△ 4.5	△ 3.9	△ 3.6	10.2	△ 11.9
	6 月	△ 3.4	△ 3.5	△ 3.0	△ 3.2	△ 8.1	△ 5.6
	7 月	1.9	3.5	2.0	4.4	0.9	△ 3.9
	8 月	△ 1.1	△ 3.3	△ 1.1	△ 3.5	△ 1.8	△ 1.8
	9 月	0.4	0.7	0.2	1.3	2.9	△ 4.6
	10 月	△ 2.0	△ 3.7	△ 1.5	△ 2.9	△ 7.4	△ 9.5
	11 月	△ 1.5	△ 3.5	△ 1.0	△ 2.9	△ 7.7	△ 8.1
	12 月	0.0	△ 2.2	1.5	△ 1.1	△ 16.7	△ 10.5
令和 2 年	1 月	△ 0.6	1.9	0.5	2.8	△ 14.3	△ 5.0
	2 月	△ 3.5	△ 2.3	△ 2.5	△ 1.7	△ 16.0	△ 7.6
	3 月	△ 6.2	1.1	△ 5.0	1.1	△ 19.1	1.2
	4 月	△ 4.1	0.2	△ 2.8	1.9	△ 22.9	△ 13.9

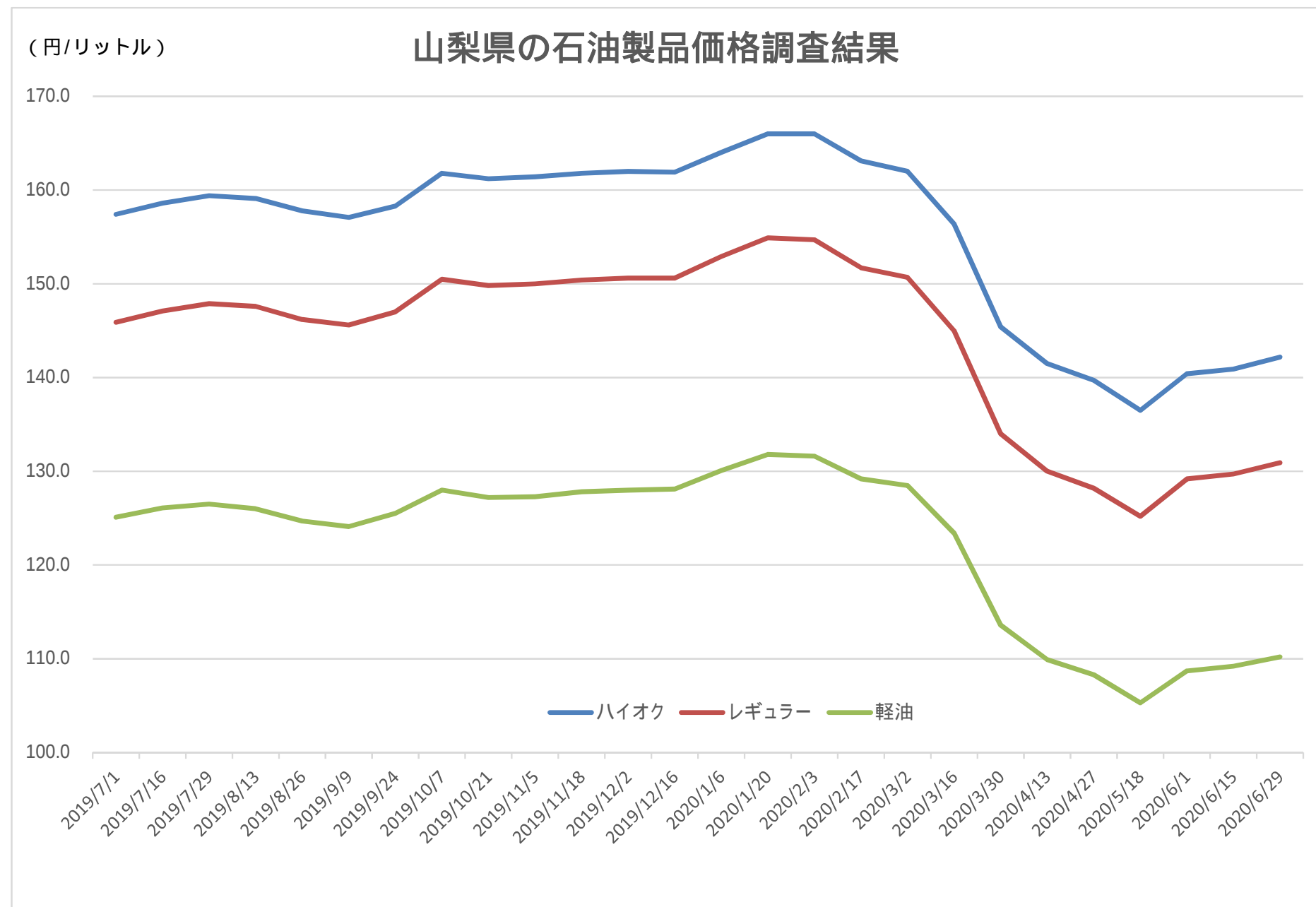
		(事業所規模30人以上)					
		総実労働時間		所定内労働時間		所定外労働時間	
		調査産業計	製造業	調査産業計	製造業	調査産業計	製造業
平成31年	1 月	△ 1.7	△ 3.6	△ 2.3	△ 3.2	4.8	△ 6.6
	2 月	△ 0.6	△ 0.7	0.3	0.6	△ 9.0	△ 9.3
	3 月	△ 2.9	△ 3.2	△ 1.9	△ 1.5	△ 11.3	△ 14.2
	4 月	△ 0.7	△ 2.8	0.4	△ 1.4	△ 10.6	△ 11.9
令和元年	5 月	△ 3.4	△ 4.5	△ 2.9	△ 3.1	△ 7.9	△ 14.7
	6 月	△ 3.8	△ 4.6	△ 2.9	△ 4.0	△ 12.9	△ 9.0
	7 月	△ 0.2	0.6	1.3	1.4	△ 13.5	△ 5.5
	8 月	△ 0.8	△ 4.4	△ 0.2	△ 4.3	△ 6.0	△ 5.3
	9 月	0.1	△ 1.2	0.7	△ 0.3	△ 5.8	△ 7.9
	10 月	△ 2.6	△ 4.8	△ 1.7	△ 3.4	△ 11.8	△ 14.7
	11 月	△ 2.9	△ 3.6	△ 1.5	△ 2.9	△ 15.6	△ 9.2
	12 月	△ 1.6	△ 3.7	△ 0.2	△ 2.5	△ 15.3	△ 12.5
令和 2 年	1 月	1.7	1.9	3.4	3.0	△ 15.4	△ 6.8
	2 月	0.6	△ 2.0	1.5	△ 1.0	△ 8.2	△ 9.8
	3 月	△ 1.2	△ 0.1	△ 0.8	0.1	△ 5.6	△ 1.5
	4 月	△ 2.6	0.5	△ 1.1	2.6	△ 19.1	△ 15.5

3. 毎月勤労統計調査地方調査の説明

根拠	統計法（基幹統計）	
目的	山梨県における $\left\{ \begin{array}{l} \text{①賃金} \\ \text{②労働時間} \\ \text{③雇用} \end{array} \right\}$ の動きを毎月明らかにすること。	
調査対象	日本標準産業分類に定める16大産業に属し、常用労働者を常時5人以上雇用する事業所の中から抽出された県内約550事業所。	
主要調査 事項の 定義	現金給与総額	賃金、給料、手当、賞与その他名称を問わず、労働の対価として労働者に通貨で支払うもので、所得税、社会保険料、組合費等を差し引く以前の総額。
	きまって支給する給与	労働契約・団体協約あるいは事業所の給与規則等によってあらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことであって、超過労働給与も含む。
	所定内給与	きまって支給する給与のうち、超過労働給与を除いた給与のことである。
	超過労働給与	所定の労働時間を超える労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与のことであり、時間外手当、早朝出勤手当、休日出勤手当、深夜手当等である。
	特別に支払われた給与	夏季・年末賞与、労働協約の改訂等に伴う定期昇給やベースアップ等の差額追給、3か月を超える期間で算定される給与、あらかじめ労働契約や規則等に定められていない一時的又は突発的理由に基づいて労働者に現実に支払われた給与並びにあらかじめ労働契約や規則等に定められていてもその支給が稀な給与及び支給事由の発生が不確定な給与等のことである。
	総実労働時間	調査期間中に労働者が実際に労働した時間数のことである。
	所定内労働時間	事業所の就業規則で定められた正規の始業時刻と終業時刻との間の休憩時間を除いた実労働時間数のことである。
	所定外労働時間	早出、残業、休日出勤等における実労働時間数のことである。
	出勤日数	調査期間中に労働者が実際に出勤した日数のことである。有給でも事業所に出勤しない日は出勤日にはならないが、1日のうち1時間でも就業すれば出勤日とする。
	常用労働者	① 期間を定めずに雇われている者 ② 1か月以上の期間を定めて雇われている者 のいずれかに該当する者のことである。
	一般労働者	「常用労働者」のうち「パートタイム労働者」でない者のことである。
	パートタイム労働者	常用労働者のうち、 ① 1日の所定労働時間が一般の労働者よりも短い者 ② 1日の所定労働時間が一般の労働者と同じで1週の所定労働日数が一般の労働者よりも少ない者 のいずれかに該当する者のことである。
結果の算定	この調査による結果の数値は、調査対象事業所からの報告をもとにして本県の規模5人以上の調査産業に属するすべての事業所に対応するよう復元された数値である。	
名目と実質	実質賃金指数は、物価変動による影響を除去するため、名目賃金指数を甲府市消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）で除して算出している。消費者物価指数は、平成29年1月分結果から平成27年基準を使用している。	
抽出替え	この調査は、標本調査であることから、絶えず変動する事業所の母集団の実態を正しく把握するため、標本（調査対象事業所）の入れ替えを以下の通り行っている。 事業所規模30人以上の事業所は、経済センサス基礎調査によって把握できる最新の事業所全数名簿を母集団として、毎年1月分調査時に調査対象事業所の一部を入れ替えて調査を実施している。 事業所規模5～29人の事業所については、指定調査区全体を3グループに分け、各グループを半年ずつずらして18か月交替のローテーションを組んで実施している。1月分及び7月分調査において、指定調査区の3グループのうち1グループについて交替している。	

4. 利用上の注意 ～指数、増減率、産業分類～

指数及び 指 数 の 改 訂	平成29年1月分速報結果から、指数は、平成27年平均を100とする平成27年基準とする。これに伴い、平成29年1月分以降と比較できるように、平成28年12月分までの指数を平成27年平均が100となるように改訂した。平成28年12月分までの増減率は、平成22年基準指数で計算したものとする。したがって、改訂後の指数で計算した場合と必ずしも一致しない。 また、調査結果のうち、特別に支払われた給与及び超過労働給与については、指数を作成していない。 なお、調査時点の賃金、労働時間及び常用労働者等の実数値については、原則として改訂を行わないこととしている。																																																																																																												
増減率 の算出	対前年同月比等の増減率は、原則として指数により算出している。従って、指数の改訂が行われた場合、増減率も改訂されることがある。また、指数を元に算出していることから、公表している増減率は実数値から算出した増減率と必ずしも一致しないので、時系列比較をする際には注意を要する。 なお、調査結果のうち、特別に支払われた給与及び超過労働給与については指数を作成していないため、実数値（ギャップ修正があった場合は指数に合わせて修正した数値）を利用して増減率を算出している。																																																																																																												
基準時 の変更	指数の基準時は、原則として西暦年の末尾が0又は5の付く年としており、概ね5年ごとに基準時の更新を行っている。基準時の更新においては、作成している指数は全期間にわたって改訂を行うこととしているが、増減率については、実質賃金指数を除き、改訂は行わない。																																																																																																												
ギャップ 修 正	平成30年から、調査事業所のうち30人以上の抽出方法は、従来の2～3年に一度行う総入替え方式から、毎年1月分調査時に行う部分入替え方式に変更された。平成30年1月分調査の部分入替え方式導入以降は、「平成27年度統計法施行状況に関する審議結果報告書（平成28年度上半期審議分）」において示された新旧データ接続における「望ましい方法」に従い、賃金及び労働時間指数については、従来行ってきた指数の遡及改訂（ギャップ修正）は行わない。常用雇用指数については、従来どおり、経済センサスなどの全数調査により真の常用労働者数が得られた際に、全国調査、地方調査ともにこれを労働者数推計のベンチマークとすることに伴うギャップ修正を実施した。 平成29年までは、調査対象事業所が変わった場合、調査結果に時系列的な断層が生じるおそれがあることから、概ね3年ごとに行う事業所規模30人以上の調査対象事業所の入れ替え（抽出替え）に併せ、調査結果を時系列的利用に供する目的で算出する指数についてはギャップ修正を実施しており、最近では平成27年1月分調査における抽出替えに併せてギャップ修正を実施した。 このギャップ修正により指数を改定した遡及期間は、次のとおりである。 <table><tr><td>項目</td><td>遡及期間</td></tr><tr><td>現金給与指数</td><td>平成24年2月～平成26年12月</td></tr><tr><td>労働時間指数</td><td>〃</td></tr></table> (※) 入職率、離職率及びパートタイム労働者比率については、抽出替えに伴うギャップ修正を行っていない。 (※) 平成27年1月分調査におけるギャップ修正においては、指数の改訂に伴い増減率についても改訂を行った。増減率を改定した遡及期間は、指数を改定した遡及期間と同じである。	項目	遡及期間	現金給与指数	平成24年2月～平成26年12月	労働時間指数	〃																																																																																																						
項目	遡及期間																																																																																																												
現金給与指数	平成24年2月～平成26年12月																																																																																																												
労働時間指数	〃																																																																																																												
調査結果 の 公 表 及 び 産業分類 の 改 訂	毎月勤労統計調査地方調査においては、平成22年1月分結果から、平成19年11月に改定された日本標準産業分類（以下、「新産業分類」という。）に基づいて結果の公表を行うこととしている。 このことにより、当調査の表章産業は下表のとおり変更される。 従前の産業分類（以下、「旧産業分類」という。）に基づいて表章している平成21年以前の結果との接続については、平成18年事業所・企業統計調査から把握される常用労働者数の新・旧間の変動を基準として、その変動が3%以内に収まる対応（下表の「旧産業との接続」が◎、○、△、▲である対応）を単純に接続させることとしている。 <table><tr><td colspan="2">新産業分類（H22.1～）</td><td>旧 産 業 との接続</td><td>公表状況</td><td colspan="2">旧産業分類（～H21.12）</td></tr><tr><td>T L</td><td>調査産業計</td><td>○</td><td>公表</td><td>T L</td><td>調査産業計</td></tr><tr><td>C</td><td>鉱業、採石業、砂利採取業</td><td>◎</td><td>非公表</td><td>D</td><td>鉱業</td></tr><tr><td>D</td><td>建設業</td><td>◎</td><td>公表</td><td>E</td><td>建設業</td></tr><tr><td>E</td><td>製造業</td><td>◎</td><td>公表</td><td>F</td><td>製造業</td></tr><tr><td>F</td><td>電気・ガス・熱供給・水道業</td><td>◎</td><td>公表</td><td>G</td><td>電気・ガス・熱供給・水道業</td></tr><tr><td>G</td><td>情報通信業</td><td>▲</td><td>公表</td><td>H</td><td>情報通信業</td></tr><tr><td>H</td><td>運輸業、郵便業</td><td>▲</td><td>公表</td><td>I</td><td>運輸業</td></tr><tr><td>I</td><td>卸売業、小売業</td><td>◎</td><td>公表</td><td>J</td><td>卸売・小売業</td></tr><tr><td>J</td><td>金融業、保険業</td><td>◎</td><td>公表</td><td>K</td><td>金融・保険業</td></tr><tr><td>K</td><td>不動産業、物品賃貸業</td><td>×</td><td>公表</td><td>L</td><td>不動産業</td></tr><tr><td>L</td><td>学術研究、専門・技術サービス業</td><td>×</td><td>公表</td><td>Q</td><td>サービス業（他に分類されないもの）</td></tr><tr><td>M</td><td>宿泊業、飲食サービス業</td><td>×</td><td>公表</td><td>M</td><td>飲食店、宿泊業</td></tr><tr><td>N</td><td>生活関連サービス業、娯楽業</td><td>×</td><td>公表</td><td>Q</td><td>サービス業（他に分類されないもの）</td></tr><tr><td>O</td><td>教育、学習支援業</td><td>▲</td><td>公表</td><td>O</td><td>教育、学習支援業</td></tr><tr><td>P</td><td>医療、福祉</td><td>○</td><td>公表</td><td>N</td><td>医療、福祉</td></tr><tr><td>Q</td><td>複合サービス事業</td><td>▲</td><td>公表</td><td>P</td><td>複合サービス事業</td></tr><tr><td>R</td><td>サービス業（他に分類されないもの）</td><td>×</td><td>公表</td><td>Q</td><td>サービス業（他に分類されないもの）</td></tr></table> (※) 「旧産業との接続」については、全国調査に準じて設定している。記号の見方は、以下のとおりである。 ◎：新旧で完全に接続 △：常用労働者の変動が1.0%以内の対応 ○：常用労働者の変動が0.1%以内の対応 ▲：常用労働者の変動が3.0%以内の対応 ×：その他の対応 (※) 「鉱業、採石業、砂利採取業」における調査結果については、当該産業に属する事業所数が少ないため公表しないが、調査産業計には含まれている。	新産業分類（H22.1～）		旧 産 業 との接続	公表状況	旧産業分類（～H21.12）		T L	調査産業計	○	公表	T L	調査産業計	C	鉱業、採石業、砂利採取業	◎	非公表	D	鉱業	D	建設業	◎	公表	E	建設業	E	製造業	◎	公表	F	製造業	F	電気・ガス・熱供給・水道業	◎	公表	G	電気・ガス・熱供給・水道業	G	情報通信業	▲	公表	H	情報通信業	H	運輸業、郵便業	▲	公表	I	運輸業	I	卸売業、小売業	◎	公表	J	卸売・小売業	J	金融業、保険業	◎	公表	K	金融・保険業	K	不動産業、物品賃貸業	×	公表	L	不動産業	L	学術研究、専門・技術サービス業	×	公表	Q	サービス業（他に分類されないもの）	M	宿泊業、飲食サービス業	×	公表	M	飲食店、宿泊業	N	生活関連サービス業、娯楽業	×	公表	Q	サービス業（他に分類されないもの）	O	教育、学習支援業	▲	公表	O	教育、学習支援業	P	医療、福祉	○	公表	N	医療、福祉	Q	複合サービス事業	▲	公表	P	複合サービス事業	R	サービス業（他に分類されないもの）	×	公表	Q	サービス業（他に分類されないもの）
新産業分類（H22.1～）		旧 産 業 との接続	公表状況	旧産業分類（～H21.12）																																																																																																									
T L	調査産業計	○	公表	T L	調査産業計																																																																																																								
C	鉱業、採石業、砂利採取業	◎	非公表	D	鉱業																																																																																																								
D	建設業	◎	公表	E	建設業																																																																																																								
E	製造業	◎	公表	F	製造業																																																																																																								
F	電気・ガス・熱供給・水道業	◎	公表	G	電気・ガス・熱供給・水道業																																																																																																								
G	情報通信業	▲	公表	H	情報通信業																																																																																																								
H	運輸業、郵便業	▲	公表	I	運輸業																																																																																																								
I	卸売業、小売業	◎	公表	J	卸売・小売業																																																																																																								
J	金融業、保険業	◎	公表	K	金融・保険業																																																																																																								
K	不動産業、物品賃貸業	×	公表	L	不動産業																																																																																																								
L	学術研究、専門・技術サービス業	×	公表	Q	サービス業（他に分類されないもの）																																																																																																								
M	宿泊業、飲食サービス業	×	公表	M	飲食店、宿泊業																																																																																																								
N	生活関連サービス業、娯楽業	×	公表	Q	サービス業（他に分類されないもの）																																																																																																								
O	教育、学習支援業	▲	公表	O	教育、学習支援業																																																																																																								
P	医療、福祉	○	公表	N	医療、福祉																																																																																																								
Q	複合サービス事業	▲	公表	P	複合サービス事業																																																																																																								
R	サービス業（他に分類されないもの）	×	公表	Q	サービス業（他に分類されないもの）																																																																																																								



公表時間
7月9日(木) 14時00分



BOJ
Reports & Research Papers

2020年7月9日
日本銀行

地域経済報告(抄)

—— さくらレポート ——

(2020年7月)

本報告は、本日開催の支店長会議に向けて収集された情報をもとに、支店等地域経済担当部署からの報告を集約したものである。

地 域 経 済 報 告

(2020 年 7 月)

目 次

I. 各地域の景気判断の概要	・・・ 1
II. 地域別金融経済概況	・・・ 6
• 北海道	・・・ 7
• 東北	・・・11
• 北陸	・・・15
• 関東甲信越	・・・19
• 東海	・・・23
• 近畿	・・・27
• 中国	・・・31
• 四国	・・・35
• 九州・沖縄	・・・39

参考計表

日本銀行各支店等のホームページアドレス

・・・最終頁

< 地域区分 >

地域名	都道府県	取りまとめ店
北海道	北海道	札幌支店
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	仙台支店
北陸	富山県、石川県、福井県	金沢支店
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、 神奈川県、新潟県、山梨県、長野県	調査統計局 (本店)
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	名古屋支店
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	大阪支店
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	広島支店
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県	高松支店
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	福岡支店

本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行調査統計局までご相談ください。転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

【照会先】 調査統計局 地域経済調査課 島田 (Tel. 03-3277-1357)

I. 各地域の景気判断の概要

(1) 各地域の景気の総括判断

各地域の景気の総括判断をみると、新型コロナウイルス感染症の影響により、前回（2020年4月時点）に続き、全ての地域が判断を引き下げており、「悪化している」または「厳しい状態にある」などとしている。

▽各地域の景気の総括判断と前回との比較

	【20/4月判断】	前回との比較	【20/7月判断】
北海道	新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、下押し圧力の強い状態にある		新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、大幅に悪化している
東北	新型コロナウイルス感染症の影響などから、このところ弱い動きとなっている		新型コロナウイルス感染症の影響などから、悪化している
北陸	新型コロナウイルス感染症の影響などから、弱めの動きとなっている		新型コロナウイルス感染症の影響などから、大幅に悪化している
関東甲信越	新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、このところ弱い動きとなっている		内外における新型コロナウイルス感染症の影響により、きわめて厳しい状態にある
東海	新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、下押し圧力の強い状態にある		改善に向けた動きがみられ始めているが、厳しい状態にある
近畿	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、弱い動きとなっている		新型コロナウイルス感染症の影響により、悪化した状態が続いている
中国	新型コロナウイルス感染症などの影響から、このところ弱い動きとなっている		新型コロナウイルス感染症の影響から、大幅に悪化したあと、厳しい状態が続いている
四国	新型コロナウイルス感染症の影響から、このところ弱めの動きとなっている		新型コロナウイルス感染症の影響から、一段と弱い動きとなっている
九州・沖縄	新型コロナウイルス感染症などの影響から個人消費や輸出・生産を中心にこのところ弱い動きとなっている		新型コロナウイルス感染症の影響から悪化している

(注) 前回との比較の「」、「」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す（例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「」）。
なお、前回に比較し景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「」となる。

(2) 各地域の需要項目等別の判断

	公共投資	設備投資	個人消費
北海道	高水準で推移している	弱めの動きとなっている	大幅に減少している
東北	震災復旧・復興関連工事を主体に高水準ながらも減少している	弱めの動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響から、厳しい状況が続いている
北陸	増加している	弱めの動きとなっている	下げ止まっており、一部に持ち直しの兆しもみられるが、その持続性には不透明感が強い
関東 甲信越	高水準ながらも、足もと減少している	増勢が鈍化している	大幅に落ち込んだ状態にある
東海	高めの水準で推移している	増勢が鈍化している	サービス消費を中心に減少したあと、持ち直しの動きがみられている
近畿	増加している	増勢が鈍化している	一部に下げ止まりの兆しがみられるものの、サービスを中心に大幅に減少した状態が続いている
中国	平成30年7月豪雨の復旧・復興需要がみられる中で、高水準で推移している	横ばい圏内の動きとなっている	大幅に減少したあと、足もと下げ止まりつつある
四国	高水準となっている	高水準となっているが、先行き、新型コロナウイルス感染症の影響に注意する必要がある	大幅に減少した状態にあるが、足もと一部に持ち直しの動きがみられている
九州・ 沖縄	高水準で推移している	増勢が鈍化している	新型コロナウイルス感染症の影響から減少している

住宅投資	生産	雇用・所得	
弱めの動きとなっている	減少している	雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている	北海道
貸家着工が減少しているほか、持家着工に新型コロナウイルス感染症の影響がみられ始めており、減少している	弱い動きとなっている	雇用・所得環境をみると、新型コロナウイルス感染症の影響から、弱めの動きがみられている	東北
弱い動きとなっている	減少している	雇用・所得環境は、弱い動きとなっている	北陸
緩やかに減少している	大幅に減少している	雇用・所得情勢は、弱めの動きがみられている	関東 甲信越
弱い動きとなっている	弱い動きが続く中、持ち直しに向けた動きもみられている	雇用・所得情勢には、弱めの動きがみられている	東海
緩やかに減少している	減少している	雇用・所得環境をみると、弱い動きとなっている	近畿
弱含んでいる	大幅に減少している	雇用・所得環境をみると、労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている	中国
弱めの動きとなっている	足もと一部業種で生産水準が切り下がるなど、一段と弱い動きとなっている	雇用・所得情勢をみると、労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている	四国
弱い動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響から減少している	雇用・所得情勢をみると、新型コロナウイルス感染症の影響から労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている	九州・ 沖縄

（３）企業等の主な声（トピック：新型コロナウイルス感染症の影響）※

①輸出関連

- ・新型コロナウイルス感染症による世界的な自動車販売の急減速を受けて、輸出は一段と減少している（北九州[輸送用機械]）。
- ・自動車関連の設備投資案件については、世界的に見直し・凍結の動きがみられており、関連製品の受注は減少している。このため、先行きの輸出は一段と弱含むとみている（京都[業務用機械]）。
- ・北米向け自動車部品の輸出は大幅に落ち込んでいるが、先行きは経済活動の再開に伴い持ち直しに転じていくとみている。もっとも、現地在庫が積み上がっているため、本格的な持ち直しまでには相応の時間がかかる（横浜[輸送用機械]）。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で商談が滞り、欧米からの受注は落ち込んでいる一方、経済活動の再開が早かった中国からの受注は持ち直している（名古屋[生産用機械]）。
- ・ハードディスクに使用されるアルミ製品の需要は、データセンター向けの堅調さに支えられて好調を維持している。先行きもデジタル化の流れが世界的に加速するもとで、高水準の輸出が続くとみている（下関[非鉄金属]）。

②個人消費・インバウンド関連

- ・緊急事態宣言の発令期間中の売上は、店舗休業により前年比９割減となった月もあったが、足もとでは同３割減まで回復している。営業再開直後はそれまで買い物を我慢していた反動のような動きが衣料品部門等でみられた（福岡[百貨店]）。
- ・テレワーク等の活用が定着する中でパソコン販売は堅調。最近では特別定額給付金の効果もあって冷蔵庫等の新製品に関する問い合わせが増えている（松本[家電販売]）。
- ・緊急事態宣言の解除以降、営業時間を拡大したほか酒類の提供時間も延長した。客足の戻りに力強さは感じられないが、売上は一定程度改善している（本店[飲食]）。
- ・緊急事態宣言の解除後、外出する機会が増加しているほか、学校も再開されたことにより、巣ごもり需要は落ち着きつつある。このため、食料品販売の伸び率は徐々に縮小している（京都[スーパー]）。
- ・５月末からの営業再開に伴い、売上・客足ともに徐々に持ち直しつつある。もっとも、「３密」対策等で従来通りの接客を控えていることなどから売上は前年比２桁減が続いており、以前の水準まで回復するには時間を要する（大阪[百貨店]）。
- ・雇用と賃金の両面で下押し圧力が強まっていく中で、今後は消費者の節約志向が強まる可能性がある。このため、ポイント還元の拡大や値引きなどの需要喚起策の実施を検討している（広島[スーパー]）。
- ・都道府県をまたぐ移動の自粛解除後、入園者数はそれまでと比べて約２倍に増加したが、依然コロナ前の半分にも満たない。今後も感染症への警戒は残り続けるとみられ、本格的な回復まで時間がかかりそうである（本店[観光施設]）。
- ・都道府県をまたぐ移動の自粛が全国で緩和されたことで、県外客も徐々に戻ってきているが、持ち直しの動きはきわめて弱い。政府が実施する「Go To キャンペーン」による需要喚起に期待したい（金沢[宿泊]）。
- ・インバウンド需要は来年の春節には戻ってきて欲しいが、入国制限の解除を経て回復するまでにはさらに時間を要するとみている。このため、今後は富裕層を中心とした国内需要の取り込みを強化する（大阪[百貨店]）。

※ 日本銀行の本支店・事務所による企業等へのヒアリングの際に聞かれた声をトピック単位でまとめたもの（各地域の「企業等の主な声」は「Ⅱ．地域別金融経済概況」を参照）。（）内は報告のあった支店等名、[]内はヒアリング先企業等の業種名、<>内は同趣旨の報告のあった支店等名。

③設備投資関連

- ・主力製品である自動車部品の売れ行きが大幅に悪化しているため、2020 年度上期中は新型車関連以外のすべての設備投資を凍結する（前橋[輸送用機械]）。
- ・自動車関連製品を取り扱う取引先を中心に製造業の多くが生産調整を実施していることから、荷動きが停滞している。このため、倉庫の増設を延期した（福島[運輸]）。
- ・客室稼働率の大幅な低下に伴い業績が悪化する中、キャッシュアウトをできるだけ抑制するために、改装工事を凍結している（神戸[宿泊]<大阪、京都>）。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大による海外工場の停止を踏まえ、サプライチェーンの見直しを進めている。一部製品の生産を東南アジアから国内に移管することになり、国内の設備投資を増額する（福岡[電子部品・デバイス]）。
- ・コロナ禍のもとでの「新しい生活様式」を実践する動きとして、対面での商談を避ける取引先が少しずつ増えてきている。このため、オンライン対応に必要なソフトウェア関連投資を急ピッチで進めている（新潟[卸売]）。
- ・観光客が激減している局面で価格を引き下げて集客するよりも、需要の回復後に備える方が得策と考え、施設の一部閉鎖を伴う改装工事を前倒しで実施することにした（函館[宿泊]）。
- ・手元資金の確保を優先するために設備投資の案件を絞り込み、前年対比で減額することとした。ただし、5 G 関連や A I 活用のための生産用機械に関する研究開発投資はこれまで通りに実施する（名古屋[生産用機械]）。

④雇用・所得関連

【雇用】

- ・工場稼働率の低下を受けて派遣社員の契約更新を見送ったほか、正社員については雇用調整助成金を活用して一時帰休を実施した（名古屋[輸送用機械]<静岡>）。
- ・新規求人数は減少しており、とりわけ宿泊・飲食サービスの悪化が目立つ。中小規模の旅館では求人を取り下げる動きが数多くみられている（横浜[行政機関]）。
- ・休業期間中は一定額の休業手当を支払っているが、従業員の中には感染症への警戒感もあって収入減をきっかけに退職の意向を示す者もいる（函館[宿泊]）。
- ・業績が急速に悪化する中、2021 年度入社の新卒採用者数は今年度の半数程度に抑制することにした（秋田[生産用機械]）。
- ・経済活動の再開などを受けて年末にかけて北米市場の需要回復が見込まれることから生産計画を少しずつ引き上げている。それに伴い、生産ラインに従事する従業員の募集を7月から再開している（北九州[輸送用機械]）。
- ・学生などの働き手が宿泊・飲食業から小売業に流れてきている。外国人留学生の採用が難しい状況だったので、非常に助かっている（大分[コンビニ]）。

【所得】

- ・ここ数年、人手確保を目的に賃上げを行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響による業績の急速な悪化から今年度は夏季賞与を減額する方針（高知[小売]）。
- ・人材確保を第一に考え、ベアは例年通りの水準で妥結し、夏季賞与も小幅な減額にとどめた。しかし、業績の下振れが続く中で、冬季賞与は大幅な減額とせざるを得ない状況となっている（金沢[繊維]）。
- ・宿泊客数の大幅な減少が続く中、一時帰休中の社員には雇用調整助成金を活用して定例給与の6～8割を支給しているが、同時に副業も認めることにした（前橋[宿泊]）。
- ・感染症対策等で繁忙感が高まっている現場の従業員を慰労する目的で、今年に入ってから既に2回、一時金を支給している（本店[スーパー]）。

Ⅱ．地域別金融経済概況

関東甲信越地域の金融経済概況

【全体感】

関東甲信越地域の景気は、内外における新型コロナウイルス感染症の影響により、きわめて厳しい状態にある。

輸出・生産は大幅に減少している。企業収益や業況感は悪化しており、設備投資は増勢が鈍化している。雇用・所得情勢は、弱めの動きがみられている。個人消費は大幅に落ち込んだ状態にある。住宅投資は緩やかに減少している。この間、公共投資は高水準ながらも、足もと減少している。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、高水準ながらも、足もと減少している。

輸出は、大幅に減少している。

設備投資は、増勢が鈍化している。

個人消費は、大幅に落ち込んだ状態にある。ただし、足もとでは一部に持ち直しに向けた動きもみられている。

スーパーの売上高は、食料品や日用品の販売好調から増加している。家電販売は、パソコンや同周辺機器、テレビ、白物家電などを中心に増加している。百貨店やコンビニエンスストアの売上高は大幅に落ち込んだあと、緊急事態宣言の解除等により足もとでは幾分持ち直している。乗用車新車登録台数は大幅に減少している。

住宅投資は、緩やかに減少している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、大幅に減少している。

業種別にみると、輸送機械、電気機械、汎用・生産用・業務用機械などが減少している。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得情勢は、弱めの動きがみられている。

有効求人倍率は、高水準ながらもはつきりと低下している。常用労働者数は、前年を幾分上回っているが、一人当たり名目賃金は前年を下回っており、この結果、雇用者所得は減少している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0 %程度となっている。

5. 企業倒産

企業倒産をみると、件数、負債総額ともに低水準で推移している。

6. 金融情勢

預金動向をみると、法人預金が伸び率を高めているほか、個人預金・公金預金も増加しており、全体として高い伸びとなっている。

貸出動向をみると、企業の資金需要が幅広く増加しており、全体として高い伸びとなっている。

関東甲信越地域の金融経済概況（続）

【企業等の主な声】

— () 内は報告のあった支店等名、[]はヒアリング先企業等の業種名、<>内は同趣旨の報告のあった支店等名。

項目名	企業等から聞かれた主な声
公共投資	・緊急事態宣言の発令を受けて工事は一時的に中断したが、工事進捗の遅れは限定的。再開後の対応で十分に取り戻すことができている（新潟）。
輸出	・ロックダウンにより欧米を中心に自動車販売が急減した影響で、受注はリーマンショック後に匹敵するほど落ち込んでいる。医療品関連の需要はみられ始めているが、受注全体を押し上げるほどではない（松本[生産用機械]）。 ・北米向け自動車部品の輸出は大幅に落ち込んでいるが、先行きは経済活動の再開に伴い持ち直しに転じていくとみている。もともと、現地在庫が積み上がっているため、本格的な持ち直しまでには相応の時間がかかる（横浜[輸送用機械]）。 ・世界的にテレワークが普及する中で通信機器やデータセンター向けは好調であるが、車載向けは自動車販売の急減に伴い大きく減少している。半導体需要が全体として回復するのは今年度下期入り後になるとみている（前橋[電気機械]）。 ・中国における建設機械の需要は、公共投資の増加を背景に既に感染症拡大前の水準まで回復している。ただし、地場企業が低価格での受注攻勢を強めており、先行き実際に受注が増加するか懸念している（横浜[はん用機械]）。
設備投資	・主力製品である自動車部品の売れ行きが大幅に悪化しているため、2020 年度上期中は新型車関連以外のすべての設備投資を凍結する（前橋[輸送用機械]）。 ・外出自粛の影響で宿泊者は激減。資金繰りが厳しい状況になったため、2020 年度に計画していた設備投資の大半を取りやめた（新潟[宿泊]）。 ・感染症の影響などから先行きの不確実性がきわめて大きい中、現時点で 2020 年度の設備投資計画を策定することは困難。当面、設備投資は成長分野のみに限定し、その他の分野では基本的に先送りする方針（本店[その他製造業]）。 ・半導体製造装置関連の需要は、景気が厳しい状態のもとでも堅調に増加している。先行きの一段の需要増加に備えて設備投資は減額せず、計画的に実施していく方針（甲府[生産用機械]）。 ・コロナ禍のもとでの「新しい生活様式」を実践する動きとして、対面での商談を避ける取引先が少しずつ増えてきている。このため、オンライン対応に必要なソフトウェア関連投資を急ピッチで進めている（新潟[卸売]）。
個人消費等	・昨年来、台風 19 号や冬季の雪不足、新型コロナウイルス感染症の影響など強い逆風により、宿泊客数は過去にないほど落ち込んだ。外出自粛要請の解除により客足は戻りつつあるが、楽観はできない（松本[宿泊]）。 ・堅調な株価の影響なのか、外商から聞かれる富裕層の消費者マインドは必ずしも悪くなく、潜在的な消費意欲も強い。ただし、感染への警戒から人との接触や来店を敬遠するケースが多く、実際の売上にはつながっていない（本店[百貨店]）。 ・都道府県をまたぐ移動の自粛解除後、入園者数はそれまでと比べて約 2 倍に増加したが、依然コロナ前の半分にも満たない。今後も感染症への警戒は残り続けるとみられ、本格的な回復まで時間がかかりそうである（本店[観光施設]）。 ・緊急事態宣言の解除以降、営業時間を拡大したほか酒類の提供時間も延長した。客足の戻りに力強さは感じられないが、売上は一定程度改善している（本店[飲食]）。

個人消費等	・テレワーク等の活用が定着する中でパソコン販売は堅調。最近では特別定額給付金の効果もあって冷蔵庫等の新製品に関する問い合わせが増えている（松本[家電販売]）。 ・足もとの売上は好調であるが、今回の“コロナショック”とも言える景気の落ち込みを受けて消費者の生活防衛意識は高まっている。このため、今後はよりリーズナブルな価格の商品を積極的に投入していく予定（本店[スーパー]）。 ・「新しい生活様式」のもとでは、宴会も「3密」を避け、ソーシャルディスタンスの確保が求められる。これまでの団体客中心のビジネスモデルからは大きな転換であり、収益性をどのように維持していくか悩ましい（前橋[宿泊]）。
住宅投資	・外出自粛期間中はモデルハウスの来場者数が大幅に減少し、商談件数も大幅に落ち込んだ。この影響で持家の着工戸数は当面減少するだろう（新潟）。 ・貸家の入居者が収入減を受けて築古物件へ転居する動きが一部でみられている。このため、オーナー側の新規物件への投資スタンスは慎重化している（松本）。
生産	・納入先の自動車メーカーは生産を再開したが、過大な部品在庫を抱えている。このため、新型コロナウイルス感染症の拡大以前の水準まで生産が回復するには、少なくとも今年いっぱいにかかる見通し（松本[輸送用機械]）。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による自動車販売の不振から自動車部品に用いる樹脂製品の生産は低調である。自動車メーカーの稼働再開により最悪期は脱したが、受注の戻りは鈍く7～9月頃まで生産調整を続ける方針（本店[化学]）。 ・建設機械の需要は国内外で大幅に落ち込んだ状態が続いている。新規の受注を獲得することは困難な状態であり、生産は受注残を消化するのみである。6月からは工場稼働日を大幅に減らし、生産調整を実施している（新潟[生産用機械]）。 ・工作機械の生産は自動車向けを中心に落ち込んだ状態にある。中国での需要回復は想定よりも早い、米国や欧州では現地における営業活動の制約などから依然として需要が弱い状態が続いている（横浜[生産用機械]）。 ・緊急事態宣言の発令中は建設用大型資材の商談が一時的にストップしていたが、解除後は都心の再開案件や港湾整備案件が動き出している。需要自体はしっかりとしており、既に夏場までの生産量を確保した（水戸[輸送用機械]）。 ・電子デバイス等の生産は5G基地局向けやテレワークの増加を背景としたデータセンター向けを中心に増加している（横浜[電気機械]）。
雇用・所得	・自動車メーカーからの受注が大幅に落ち込んでいることから、ほとんどの派遣社員の契約更新を見送ったほか、正社員についても雇用調整助成金を活用して一時帰休も実施している（松本[輸送用機械]）。 ・新規求人数は減少しており、とりわけ宿泊・飲食サービスの悪化が目立つ。中小規模の旅館では求人を取り下げる動きが数多くみられている（横浜[行政機関]）。 ・観光関連における解雇や雇い止めを受けて当社のパート求人への応募が増加している。人手不足感は依然強いため、積極的に採用している（松本[スーパー]）。 ・宿泊客数の大幅な減少が続く中、一時帰休中の社員には雇用調整助成金を活用して定例給与の6～8割を支給しているが、同時に副業も認めることにした（前橋[宿泊]）。 ・急激な業績悪化から資金繰りがタイト化している。このため、夏季賞与の支給を見送ることとしたほか、管理職の定例給与削減も検討する（水戸[自動車関連]）。 ・感染症対策等で繁忙感が高まっている現場の従業員を慰労する目的で、今年に入ってから既に2回、一時金を支給している（本店[スーパー]）。

参考計表

(図表 1)	百貨店・スーパー販売額
(図表 2)	コンビニエンスストア販売額
(図表 3)	乗用車新車登録台数
(図表 4)	新設住宅着工戸数
(図表 5)	民間非居住用建築物着工床面積 地域別設備投資額 工場立地件数
(図表 6)	公共工事請負金額
(図表 7)	鋁工業生産指数
(図表 8)	鋁工業出荷指数
(図表 9)	鋁工業在庫指数
(図表 10)	有効求人倍率
(図表 11)	完全失業率 雇用者数
(図表 12)	消費者物価指数（除く生鮮食品） 市街地価格指数（全用途平均）
(図表 13)	企業倒産
(図表 14)	地域別業況判断D I
(図表 15)	国内銀行 預金残高 国内銀行 貸出残高
(参 考)	地域割り一覧表

(利用上の留意事項)

1. 計数は 7月6日 時点。
2. 季節調整替え等により、遡及訂正することがあります。
3. 単位未満の数字のみの場合には、マイナス符号は表示されません。
4. 最終ページに地域割りを掲載しています。
なお、北陸4県は新潟県を含むベース。

百貨店・スーパー販売額

(1) 店舗調整後

(前年同期(月)比、%)

	北海道	東北	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	0.9	▲ 1.1	▲ 1.2	0.2	▲ 1.2	0.8	▲ 1.1	▲ 1.2	0.5	0.0
2018年	▲ 0.4	▲ 1.7	0.4	▲ 0.4	0.4	▲ 0.3	▲ 1.2	▲ 0.9	▲ 0.9	▲ 0.5
2019年	▲ 0.8	▲ 1.6	▲ 1.3	▲ 1.5	▲ 1.1	▲ 1.0	▲ 1.3	▲ 2.4	▲ 1.1	▲ 1.3
2018/4Q	▲ 0.5	▲ 2.5	▲ 0.1	▲ 1.7	1.2	▲ 1.3	▲ 1.3	▲ 1.6	▲ 1.4	▲ 1.3
2019/1Q	0.5	▲ 1.8	▲ 0.7	▲ 1.7	▲ 2.2	▲ 1.8	▲ 1.1	▲ 2.4	▲ 0.5	▲ 1.6
2Q	▲ 0.6	▲ 1.1	▲ 1.2	▲ 1.6	▲ 0.8	▲ 0.1	0.1	▲ 0.7	0.2	▲ 0.9
3Q	0.8	▲ 0.2	0.5	1.5	1.6	3.1	0.6	▲ 0.2	1.9	1.6
4Q	▲ 3.8	▲ 3.4	▲ 3.5	▲ 3.8	▲ 3.0	▲ 4.8	▲ 4.5	▲ 5.7	▲ 5.5	▲ 4.1
2020/1Q	▲ 4.7	▲ 1.3	▲ 3.2	▲ 3.2	▲ 1.9	▲ 7.2	▲ 2.4	▲ 2.7	▲ 5.7	▲ 4.0
2019/ 4	▲ 1.4	▲ 2.0	▲ 2.8	▲ 2.4	▲ 1.8	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 2.0	▲ 0.8	▲ 1.7
5	▲ 0.6	▲ 0.9	▲ 0.4	▲ 1.1	▲ 0.1	0.3	0.3	▲ 0.6	0.3	▲ 0.5
6	0.1	▲ 0.4	▲ 0.5	▲ 1.3	▲ 0.5	0.3	0.6	0.5	1.1	▲ 0.5
7	▲ 4.3	▲ 5.3	▲ 4.6	▲ 5.4	▲ 4.8	▲ 3.5	▲ 4.7	▲ 6.7	▲ 4.0	▲ 4.8
8	▲ 0.7	0.2	1.6	1.0	▲ 0.3	0.5	▲ 0.7	▲ 1.5	▲ 0.6	0.4
9	8.1	4.8	4.8	9.7	10.8	13.4	7.9	8.4	11.7	10.1
10	▲ 6.9	▲ 6.2	▲ 5.0	▲ 8.4	▲ 6.0	▲ 8.7	▲ 9.4	▲ 10.5	▲ 10.1	▲ 8.2
11	▲ 2.5	▲ 0.7	▲ 1.5	▲ 1.3	▲ 0.5	▲ 2.8	▲ 1.7	▲ 3.0	▲ 3.5	▲ 1.8
12	▲ 2.5	▲ 3.3	▲ 4.1	▲ 2.2	▲ 2.6	▲ 3.5	▲ 2.9	▲ 4.0	▲ 3.5	▲ 2.8
2020/ 1	▲ 0.5	▲ 2.4	▲ 4.1	▲ 1.3	▲ 0.4	▲ 2.0	▲ 0.9	▲ 2.3	▲ 1.9	▲ 1.5
2	▲ 3.5	3.1	1.2	1.8	2.6	▲ 4.5	2.1	2.1	▲ 1.7	0.2
3	▲ 9.8	▲ 4.1	▲ 6.1	▲ 9.4	▲ 7.4	▲ 15.0	▲ 7.8	▲ 7.2	▲ 13.0	▲ 10.1
4	▲ 11.8	▲ 7.7	▲ 13.7	▲ 22.7	▲ 15.4	▲ 30.4	▲ 17.9	▲ 17.2	▲ 30.3	▲ 22.1
5	▲ 10.3	▲ 3.3	n. a.	▲ 18.0	n. a.	▲ 24.4	▲ 12.8	▲ 11.0	▲ 20.3	▲ 16.7

(注) 2020/5月、および2020/4月の北陸、東海の計数は速報値。

(2) 店舗調整前

(前年同期(月)比、%)

	北海道	東北	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	0.5	▲ 0.8	0.8	0.0	▲ 0.5	0.3	▲ 0.4	▲ 0.3	0.7	0.0
2018年	0.7	▲ 0.3	0.4	0.1	1.2	▲ 0.6	▲ 0.4	0.6	▲ 0.4	0.0
2019年	▲ 0.4	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 1.3	▲ 1.1	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 1.3	▲ 1.1
2018/4Q	0.0	▲ 0.8	0.8	▲ 1.1	1.1	▲ 1.1	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 1.1	▲ 0.7
2019/1Q	0.1	▲ 0.2	0.4	▲ 1.3	▲ 2.4	▲ 1.4	▲ 0.9	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 1.2
2Q	0.4	▲ 0.1	0.4	▲ 1.2	▲ 1.6	0.2	0.4	1.3	▲ 0.6	▲ 0.6
3Q	1.8	0.1	1.4	1.7	2.3	3.4	2.0	2.1	2.0	2.0
4Q	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 3.7	▲ 4.1	▲ 2.7	▲ 5.0	▲ 4.4	▲ 3.8	▲ 5.2	▲ 4.1
2020/1Q	▲ 4.0	▲ 1.5	▲ 3.1	▲ 2.9	▲ 1.0	▲ 7.1	▲ 2.5	▲ 0.2	▲ 5.1	▲ 3.5
2019/ 4	▲ 0.7	▲ 0.6	▲ 1.2	▲ 1.7	▲ 2.3	▲ 0.7	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 1.6	▲ 1.3
5	0.6	0.2	1.3	▲ 0.6	▲ 1.1	0.6	0.6	1.3	▲ 0.6	▲ 0.2
6	1.1	0.1	1.1	▲ 1.2	▲ 1.5	0.7	1.0	2.8	0.3	▲ 0.3
7	▲ 3.2	▲ 4.9	▲ 3.3	▲ 5.3	▲ 4.3	▲ 3.3	▲ 3.6	▲ 4.8	▲ 3.9	▲ 4.4
8	0.1	0.8	3.0	1.2	0.5	0.9	0.9	1.1	▲ 0.3	0.9
9	9.0	4.8	4.6	9.9	11.5	13.8	9.4	11.0	11.6	10.5
10	▲ 6.3	▲ 6.1	▲ 6.2	▲ 8.5	▲ 5.7	▲ 8.8	▲ 9.0	▲ 8.0	▲ 9.9	▲ 8.1
11	▲ 2.2	▲ 0.8	▲ 2.2	▲ 1.8	▲ 0.4	▲ 3.1	▲ 1.6	▲ 1.1	▲ 3.2	▲ 2.0
12	▲ 2.3	▲ 3.1	▲ 3.0	▲ 2.5	▲ 2.2	▲ 3.6	▲ 3.0	▲ 2.5	▲ 3.4	▲ 2.8
2020/ 1	▲ 0.6	▲ 2.2	▲ 3.0	▲ 1.8	▲ 0.1	▲ 2.1	▲ 0.7	▲ 0.6	▲ 2.3	▲ 1.6
2	▲ 2.2	2.9	1.6	1.6	3.4	▲ 4.5	1.5	4.3	▲ 2.0	0.3
3	▲ 8.9	▲ 4.6	▲ 7.4	▲ 7.9	▲ 5.8	▲ 14.5	▲ 7.6	▲ 3.6	▲ 10.5	▲ 8.8
4	▲ 10.2	▲ 6.2	▲ 14.5	▲ 17.8	▲ 12.6	▲ 28.6	▲ 17.2	▲ 12.3	▲ 25.7	▲ 18.6
5	▲ 9.0	▲ 1.8	n. a.	▲ 13.5	n. a.	▲ 23.1	▲ 12.4	▲ 6.6	▲ 15.6	▲ 13.4

(注) 2020/5月、および2020/4月の北陸、東海の計数は速報値。

(資料) 経済産業省「商業動態統計」
 中部経済産業局「管内商業動態統計(百貨店・スーパー等 販売額)」

(図表 2)

コンビニエンスストア販売額

(前年同期(月)比、%)									
	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	1.9	1.4	2.3	1.7	2.9	2.3	2.2	3.5	2.4
2018年	1.5	0.4	2.2	1.2	2.4	2.1	0.9	2.6	2.0
2019年	2.0	0.9	1.6	0.9	2.6	2.0	1.1	2.0	1.7
2018/4Q	0.3	0.1	1.9	0.8	2.2	2.4	0.5	1.8	1.6
2019/1Q	1.8	1.6	2.3	2.4	3.8	3.2	1.9	3.2	2.6
2Q	2.5	1.4	1.9	1.8	3.6	3.4	2.3	2.4	2.3
3Q	1.4	▲ 0.5	0.3	▲ 1.1	0.7	▲ 0.1	▲ 1.2	0.1	0.1
4Q	2.5	1.4	2.1	0.9	2.6	1.7	1.6	2.7	2.0
2020/1Q	▲ 0.1	▲ 0.8	0.4	▲ 1.9	▲ 1.3	▲ 0.4	▲ 0.7	0.0	▲ 0.3
2019/ 4	2.8	1.7	2.3	2.1	4.0	3.4	2.2	2.7	2.6
5	3.5	2.6	2.1	2.5	4.2	4.0	3.1	3.1	2.8
6	1.1	▲ 0.2	1.3	0.7	2.6	2.6	1.7	1.3	1.4
7	0.1	▲ 2.5	▲ 1.8	▲ 2.3	0.2	▲ 0.2	▲ 2.1	▲ 0.6	▲ 1.3
8	2.9	2.4	2.5	0.4	2.2	0.3	▲ 0.1	1.0	1.9
9	1.2	▲ 1.3	0.3	▲ 1.4	▲ 0.5	▲ 0.3	▲ 1.4	▲ 0.2	▲ 0.2
10	4.7	2.7	3.2	1.9	3.6	2.8	3.1	4.5	3.3
11	1.7	1.6	2.2	1.7	3.3	2.0	1.5	2.7	2.3
12	1.0	0.0	0.9	▲ 0.8	0.9	0.4	0.1	1.0	0.6
2020/ 1	1.4	0.2	2.0	▲ 0.1	2.1	1.1	0.4	2.3	1.6
2	3.4	3.2	4.4	1.4	1.7	3.3	3.7	3.5	3.4
3	▲ 4.9	▲ 5.2	▲ 4.7	▲ 6.6	▲ 7.2	▲ 5.0	▲ 5.6	▲ 5.5	▲ 5.4
4	▲ 6.5	▲ 9.7	▲ 10.3	▲ 11.4	▲ 13.1	▲ 9.9	▲ 10.8	▲ 10.8	▲ 10.7
5	▲ 7.2	▲ 8.3	▲ 9.3	▲ 10.0	▲ 11.5	▲ 10.0	▲ 10.1	▲ 9.6	▲ 9.6

(注) 2020/5月の計数は速報値。

(資料) 経済産業省「商業動態統計」

(図表 3)

乗用車新車登録台数

(1) 軽自動車を含む

(前年同期(月)比、%)

	北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	7.0	4.8	6.1	5.5	5.0	5.3	6.6	6.4	8.2	5.8
2018年	▲ 2.2	▲ 0.8	1.4	▲ 0.6	0.0	0.9	1.5	0.6	1.2	0.1
2019年	▲ 2.8	▲ 1.5	▲ 3.7	▲ 2.3	▲ 1.9	▲ 0.9	▲ 4.0	▲ 0.1	▲ 1.9	▲ 2.0
2018/4Q	1.6	5.8	10.0	3.9	2.8	7.8	7.8	6.2	6.6	5.1
2019/1Q	▲ 3.0	▲ 1.4	▲ 2.8	▲ 2.9	▲ 2.1	▲ 0.6	▲ 2.7	▲ 0.5	▲ 1.8	▲ 2.1
2Q	1.4	1.4	0.7	1.7	2.2	4.4	1.8	5.6	1.2	2.2
3Q	5.8	7.2	7.4	6.5	8.5	10.3	3.9	10.9	7.0	7.4
4Q	▲ 17.8	▲ 13.6	▲ 21.0	▲ 14.8	▲ 16.1	▲ 17.4	▲ 19.3	▲ 16.7	▲ 15.0	▲ 16.0
2020/1Q	▲ 10.1	▲ 11.3	▲ 10.4	▲ 7.7	▲ 11.6	▲ 11.9	▲ 9.2	▲ 10.1	▲ 12.4	▲ 10.1
2019/ 4	9.0	4.9	▲ 0.1	2.8	1.8	6.7	2.5	3.4	0.1	3.3
5	1.1	5.6	5.7	5.6	7.2	6.5	8.3	11.2	7.5	6.4
6	▲ 4.5	▲ 5.0	▲ 2.9	▲ 2.4	▲ 1.6	0.6	▲ 4.3	2.7	▲ 2.8	▲ 2.2
7	▲ 3.2	2.6	1.1	2.5	6.5	5.6	▲ 0.9	4.9	0.9	2.9
8	1.0	4.6	4.6	5.5	5.5	7.7	▲ 0.9	6.9	4.1	4.9
9	19.5	13.3	15.5	10.9	12.6	16.4	12.4	19.2	15.2	13.5
10	▲ 26.9	▲ 24.6	▲ 30.4	▲ 24.1	▲ 25.6	▲ 26.4	▲ 27.1	▲ 25.7	▲ 22.2	▲ 25.1
11	▲ 14.7	▲ 6.8	▲ 20.5	▲ 10.2	▲ 12.2	▲ 12.5	▲ 14.7	▲ 12.8	▲ 11.6	▲ 11.6
12	▲ 10.4	▲ 8.6	▲ 10.2	▲ 9.9	▲ 10.6	▲ 13.1	▲ 16.0	▲ 11.4	▲ 11.2	▲ 11.1
2020/ 1	▲ 9.0	▲ 13.6	▲ 9.4	▲ 9.4	▲ 15.3	▲ 12.8	▲ 12.8	▲ 13.3	▲ 13.9	▲ 12.1
2	▲ 9.3	▲ 8.9	▲ 8.0	▲ 7.9	▲ 11.8	▲ 11.2	▲ 9.2	▲ 12.1	▲ 11.8	▲ 9.9
3	▲ 11.1	▲ 11.6	▲ 12.3	▲ 6.4	▲ 9.0	▲ 11.8	▲ 6.8	▲ 6.1	▲ 11.7	▲ 9.0
4	▲ 28.9	▲ 30.5	▲ 34.1	▲ 30.0	▲ 30.8	▲ 30.5	▲ 29.8	▲ 31.4	▲ 30.9	▲ 30.4
5	▲ 44.1	▲ 44.1	▲ 46.1	▲ 45.6	▲ 47.7	▲ 48.8	▲ 47.2	▲ 48.7	▲ 48.0	▲ 46.7

(2) 軽自動車を除く

(前年同期(月)比、%)

	北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	6.8	4.2	5.8	5.1	4.0	3.9	6.6	6.1	7.0	5.1
2018年	▲ 3.7	▲ 1.8	▲ 0.5	▲ 2.0	▲ 1.9	▲ 1.4	▲ 0.4	▲ 2.0	▲ 0.1	▲ 1.6
2019年	▲ 2.6	▲ 1.8	▲ 4.3	▲ 3.1	▲ 3.0	▲ 0.6	▲ 3.6	▲ 1.2	▲ 2.3	▲ 2.5
2018/4Q	1.8	6.4	10.9	4.1	1.9	6.7	7.8	6.6	5.6	4.8
2019/1Q	▲ 3.2	▲ 1.1	▲ 2.2	▲ 2.8	▲ 2.1	▲ 0.5	▲ 1.8	▲ 0.7	▲ 2.4	▲ 2.0
2Q	2.0	1.7	1.0	1.0	0.8	5.2	3.0	4.5	0.9	1.9
3Q	4.7	6.5	5.6	5.5	7.2	10.8	5.2	12.4	7.8	7.0
4Q	▲ 16.6	▲ 14.9	▲ 22.7	▲ 16.2	▲ 18.1	▲ 17.7	▲ 20.8	▲ 21.1	▲ 16.2	▲ 17.3
2020/1Q	▲ 9.6	▲ 12.1	▲ 11.6	▲ 9.0	▲ 13.1	▲ 11.6	▲ 9.3	▲ 10.9	▲ 11.2	▲ 10.7
2019/ 4	11.1	5.9	0.7	2.4	0.1	6.0	2.9	4.2	0.6	3.1
5	▲ 1.8	5.0	2.6	3.6	4.5	7.7	9.7	10.8	8.1	5.2
6	▲ 2.3	▲ 4.2	0.0	▲ 2.0	▲ 1.5	2.3	▲ 2.5	▲ 0.4	▲ 4.4	▲ 1.7
7	▲ 2.1	6.1	3.5	3.7	8.0	9.5	5.6	8.0	4.0	5.3
8	▲ 3.3	▲ 3.0	0.4	1.1	0.3	5.1	▲ 4.9	3.2	1.7	0.8
9	19.7	14.2	11.5	10.2	11.5	16.2	13.0	23.8	16.4	13.1
10	▲ 28.0	▲ 27.5	▲ 34.5	▲ 26.4	▲ 28.3	▲ 28.2	▲ 28.5	▲ 31.1	▲ 25.4	▲ 27.5
11	▲ 14.5	▲ 9.1	▲ 23.1	▲ 12.5	▲ 17.0	▲ 14.3	▲ 19.5	▲ 18.7	▲ 14.9	▲ 14.6
12	▲ 4.9	▲ 7.0	▲ 7.2	▲ 9.6	▲ 9.1	▲ 10.1	▲ 14.2	▲ 13.4	▲ 8.3	▲ 9.5
2020/ 1	▲ 8.1	▲ 10.5	▲ 7.9	▲ 9.7	▲ 16.2	▲ 12.7	▲ 10.9	▲ 12.6	▲ 11.0	▲ 11.5
2	▲ 7.4	▲ 10.3	▲ 8.0	▲ 9.6	▲ 14.9	▲ 10.6	▲ 8.9	▲ 12.1	▲ 11.3	▲ 10.8
3	▲ 11.6	▲ 14.1	▲ 15.2	▲ 8.1	▲ 9.6	▲ 11.7	▲ 8.6	▲ 8.9	▲ 11.3	▲ 10.1
4	▲ 27.5	▲ 25.3	▲ 32.2	▲ 28.2	▲ 28.6	▲ 26.7	▲ 24.2	▲ 25.5	▲ 28.1	▲ 27.5
5	▲ 38.4	▲ 37.7	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 44.6	▲ 44.6	▲ 39.8	▲ 40.4	▲ 42.3	▲ 41.8

- (注) 1. 登録ナンバー・ベース。
 2. 全国の数値は、日本銀行ホームページの「金融経済統計月報」に掲載している乗用車新車登録台数とは、ベースが異なるため一致しない。
 3. (1)は普通乗用車(日本自動車販売協会連合会調)と小型乗用車(同)、軽乗用車(全国軽自動車協会連合会調による軽自動車販売台数)の合計。

(資料) 日本自動車販売協会連合会「自動車登録統計情報」
 全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売」

(図表 4)

新設住宅着工戸数

(前年同期 (月) 比、%)

	北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	1.3	▲ 7.0	▲ 1.0	▲ 0.1	0.3	▲ 2.1	3.4	5.3	1.8	▲ 0.3
2018年	▲ 4.1	▲ 3.8	▲ 1.4	▲ 4.8	3.2	2.6	▲ 3.8	▲ 9.7	▲ 1.2	▲ 2.3
2019年	▲ 9.1	▲ 8.1	5.5	▲ 4.5	▲ 1.3	▲ 3.2	▲ 0.2	0.7	▲ 5.8	▲ 4.0
2018/4Q	▲ 1.0	▲ 5.2	▲ 0.1	1.5	1.9	3.0	▲ 3.7	▲ 1.3	▲ 0.7	0.6
2019/1Q	▲ 2.3	▲ 0.8	18.8	4.3	7.2	9.4	9.1	14.0	0.0	5.2
2Q	▲ 3.9	▲ 3.0	9.3	▲ 3.8	3.6	▲ 14.8	▲ 0.3	8.0	▲ 9.9	▲ 4.7
3Q	▲ 7.4	▲ 12.9	▲ 2.5	▲ 4.8	▲ 10.1	▲ 2.8	▲ 4.4	▲ 4.9	▲ 1.6	▲ 5.4
4Q	▲ 20.6	▲ 13.8	▲ 0.1	▲ 12.3	▲ 4.2	▲ 1.8	▲ 4.2	▲ 10.9	▲ 10.8	▲ 9.4
2020/1Q	▲ 2.5	▲ 15.4	▲ 18.1	▲ 10.1	▲ 8.3	▲ 5.6	▲ 18.8	▲ 11.1	▲ 10.4	▲ 9.9
2019/ 4	▲ 16.5	▲ 3.2	24.8	▲ 0.4	▲ 14.3	▲ 11.2	▲ 8.7	19.1	▲ 12.7	▲ 5.7
5	▲ 9.2	▲ 11.6	0.6	▲ 7.5	12.6	▲ 27.5	▲ 12.4	3.1	▲ 7.7	▲ 8.7
6	16.5	4.5	4.0	▲ 3.8	12.4	▲ 3.6	18.0	3.8	▲ 8.7	0.3
7	▲ 2.8	▲ 12.7	5.6	▲ 7.5	▲ 4.5	5.7	▲ 4.1	▲ 1.7	▲ 1.6	▲ 4.1
8	▲ 6.9	▲ 15.9	▲ 3.9	▲ 4.7	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 7.4	▲ 1.1	0.5	▲ 7.1
9	▲ 13.1	▲ 10.2	▲ 9.0	▲ 2.1	▲ 9.0	▲ 5.5	▲ 1.5	▲ 10.9	▲ 3.5	▲ 4.9
10	▲ 31.6	▲ 2.1	▲ 1.9	▲ 10.8	▲ 4.7	▲ 1.6	9.8	▲ 17.9	▲ 4.0	▲ 7.4
11	▲ 19.1	▲ 16.6	4.3	▲ 15.7	0.6	▲ 9.1	▲ 17.1	▲ 19.0	▲ 15.0	▲ 12.7
12	▲ 6.0	▲ 20.8	▲ 3.1	▲ 10.4	▲ 8.4	6.0	▲ 5.4	8.8	▲ 13.2	▲ 7.9
2020/ 1	▲ 15.3	▲ 19.1	▲ 19.0	▲ 7.3	▲ 3.9	▲ 14.2	▲ 24.1	▲ 3.2	▲ 8.5	▲ 10.1
2	11.4	▲ 13.8	▲ 19.8	▲ 13.0	▲ 15.9	▲ 2.9	▲ 31.8	▲ 14.5	▲ 10.6	▲ 12.3
3	▲ 3.7	▲ 14.0	▲ 16.2	▲ 9.7	▲ 5.2	0.2	3.3	▲ 13.6	▲ 12.0	▲ 7.6
4	▲ 10.9	▲ 15.4	▲ 32.1	▲ 13.2	10.9	▲ 15.7	▲ 24.1	▲ 9.1	▲ 21.0	▲ 12.9
5	▲ 5.9	▲ 17.1	▲ 22.7	▲ 7.8	▲ 41.4	▲ 1.2	▲ 3.4	▲ 22.1	▲ 1.6	▲ 12.3

(資料) 国土交通省「建築着工統計」

(図表 5)

民間非居住用建築物着工床面積

(前年同期(月)比、%)

	北海道	東北	北陸4県	関東甲信	東海	近畿	中国	四国	九州	全国
2017年度	9.6	▲ 5.0	▲ 5.0	7.9	1.7	▲ 0.8	▲ 0.9	10.4	11.3	4.4
2018年度	▲ 5.8	11.6	17.4	▲ 9.1	13.4	▲ 6.9	7.1	▲ 19.6	▲ 8.1	▲ 2.7
2019年度	▲ 6.0	▲ 25.1	▲ 11.2	3.6	▲ 20.4	4.1	▲ 22.2	1.7	▲ 7.8	▲ 6.6
2018/4Q	14.6	17.2	27.2	1.5	10.5	▲ 19.9	17.1	▲ 30.8	▲ 13.3	1.1
2019/1Q	30.6	3.1	▲ 9.8	▲ 24.4	8.4	▲ 18.2	12.7	▲ 7.1	17.6	▲ 9.7
2Q	▲ 6.8	▲ 12.1	▲ 10.7	2.5	▲ 16.6	3.5	▲ 20.4	16.0	7.1	▲ 3.4
3Q	13.8	▲ 27.3	▲ 12.9	3.3	▲ 29.0	▲ 1.4	▲ 33.3	▲ 18.6	8.9	▲ 7.6
4Q	▲ 27.2	▲ 35.2	▲ 28.3	3.5	▲ 12.2	3.7	▲ 26.6	30.2	▲ 14.0	▲ 9.6
2020/1Q	▲ 5.5	▲ 27.6	14.2	5.3	▲ 22.9	11.6	▲ 4.9	▲ 11.2	▲ 32.3	▲ 5.6
2019/ 3	4.0	▲ 28.7	▲ 38.2	▲ 20.9	54.2	▲ 56.0	▲ 29.6	54.4	▲ 1.3	▲ 18.6
4	11.5	2.3	▲ 29.0	2.7	▲ 31.9	▲ 1.5	▲ 2.6	42.5	1.3	▲ 4.2
5	▲ 35.3	▲ 19.8	▲ 7.5	3.0	▲ 5.4	▲ 7.7	▲ 47.2	23.2	23.4	▲ 5.1
6	7.4	▲ 17.1	14.0	1.8	▲ 12.1	20.4	▲ 14.6	▲ 6.7	0.8	▲ 1.1
7	39.0	▲ 51.0	▲ 14.7	1.2	▲ 7.4	29.6	▲ 13.6	37.5	29.2	2.2
8	33.7	8.9	▲ 30.2	19.0	▲ 36.6	▲ 27.4	▲ 33.1	▲ 53.7	25.9	▲ 5.6
9	▲ 24.7	▲ 17.3	5.5	▲ 12.6	▲ 41.4	▲ 8.4	▲ 46.0	▲ 15.1	▲ 17.6	▲ 20.0
10	2.5	▲ 29.2	▲ 55.3	▲ 23.4	0.7	▲ 5.6	▲ 19.7	17.7	▲ 15.1	▲ 16.9
11	▲ 17.3	▲ 45.0	9.1	31.8	▲ 23.3	▲ 26.0	▲ 40.1	43.4	▲ 31.9	▲ 9.7
12	▲ 65.1	▲ 30.0	▲ 11.8	7.7	▲ 15.1	55.7	▲ 14.9	29.3	11.2	▲ 1.6
2020/ 1	▲ 59.6	▲ 61.1	▲ 42.9	▲ 32.7	▲ 15.8	▲ 0.1	▲ 36.8	▲ 26.8	▲ 17.6	▲ 27.2
2	▲ 23.0	▲ 18.2	▲ 17.4	14.0	▲ 7.3	4.2	37.2	28.9	▲ 51.6	▲ 2.2
3	56.7	20.6	105.1	40.6	▲ 40.1	42.9	17.3	▲ 21.7	▲ 23.0	16.8
4	11.9	7.6	▲ 13.7	▲ 9.1	5.3	▲ 21.3	▲ 27.3	15.4	▲ 44.2	▲ 10.8

(資料) 国土交通省「国土交通月例経済」

地域別設備投資額

(前年比、%)

	北海道	東北	北陸	北関東甲信	首都圏	東海	関西	中国	四国	九州	全国
2018年度	2.6	▲ 8.0	13.7	14.0	16.1	13.5	18.7	▲ 6.1	13.6	17.6	11.1
製造	▲ 12.1	20.9	3.8	13.3	6.6	17.0	1.7	8.0	26.3	11.6	11.4
非製造	7.0	▲ 16.5	21.4	16.0	18.9	6.5	29.7	▲ 22.8	▲ 0.1	22.6	10.9
2019年度	11.6	5.5	29.2	15.0	13.6	9.5	6.8	17.9	10.6	15.8	11.3
製造	27.8	21.0	11.1	7.8	18.6	6.3	34.3	21.8	9.0	13.2	13.5
非製造	7.7	▲ 11.6	44.9	36.2	12.4	21.9	▲ 6.1	6.5	14.1	17.9	10.1

(注) 2019年度の計数は計画値。

(資料) 日本政策投資銀行「地域別設備投資計画調査」

工場立地件数

(件)

	北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2016年	19	126	39	289	213	146	55	54	85	1,026
2017年	26	101	37	306	208	145	51	55	106	1,035
2018年	24	104	42	363	220	171	57	37	124	1,142
2019年	20	95	46	277	230	155	46	39	82	990

- (注) 1. 2019年の計数は速報値。
 2. 工場立地動向調査では、製造業、電気業（太陽光発電所等を除く）、ガス業、熱供給業の用に供する工場などを建設する目的で、1千㎡以上の用地を取得した事業所を調査対象としている。

(資料) 経済産業省「工場立地動向調査」

(図表 6)

公共工事請負金額

(前年同期(月)比、%)

	北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年度	0.6	▲ 13.3	3.6	0.4	▲ 1.9	▲ 12.0	▲ 7.7	▲ 12.1	2.0	▲ 4.3
2018年度	▲ 2.9	▲ 2.7	13.8	1.5	9.3	▲ 1.1	9.6	0.9	▲ 3.0	1.1
2019年度	11.5	▲ 3.0	16.9	1.4	13.4	17.9	18.9	16.2	5.8	6.8
2018/4Q	▲ 2.1	▲ 4.6	15.2	8.1	8.3	▲ 4.2	9.5	17.5	0.6	3.6
2019/1Q	2.6	8.7	▲ 10.8	17.0	9.0	9.8	32.6	2.9	▲ 22.4	5.9
2Q	7.2	▲ 9.1	21.8	0.8	14.6	10.1	23.4	22.9	▲ 5.4	4.2
3Q	31.9	▲ 1.4	24.0	12.5	15.2	4.6	36.6	22.8	6.4	12.2
4Q	11.1	6.3	2.9	▲ 12.1	2.3	39.6	11.5	17.7	10.7	4.4
2020/1Q	▲ 4.0	▲ 3.3	4.4	4.7	21.2	24.6	3.7	▲ 0.1	17.3	7.1
2019/ 4	▲ 1.3	▲ 20.4	23.9	▲ 0.8	21.1	4.2	19.4	9.5	7.9	2.5
5	10.9	10.5	33.9	6.5	▲ 0.2	21.6	49.5	37.6	▲ 11.1	10.5
6	13.5	▲ 7.3	▲ 5.9	▲ 1.7	16.3	9.4	8.9	28.3	▲ 16.2	1.0
7	54.5	24.6	43.4	30.4	31.7	▲ 4.0	68.6	44.1	16.2	28.5
8	10.7	▲ 15.4	14.2	4.9	▲ 4.4	11.1	16.5	7.0	0.5	2.2
9	18.4	▲ 13.0	12.9	1.3	17.7	9.8	25.1	18.9	2.4	4.6
10	18.6	▲ 8.1	13.1	▲ 16.2	6.4	62.2	25.1	37.9	12.0	5.1
11	10.9	21.4	▲ 8.1	3.1	22.9	40.7	▲ 16.1	31.2	2.7	11.3
12	▲ 10.8	14.6	0.0	▲ 18.3	▲ 19.8	8.6	23.2	▲ 14.6	17.9	▲ 3.6
2020/ 1	14.5	0.1	▲ 5.4	2.6	18.2	28.9	▲ 10.3	31.0	26.0	9.6
2	27.8	▲ 15.7	19.6	0.2	1.6	▲ 6.4	2.3	▲ 26.5	▲ 7.9	▲ 5.4
3	▲ 9.9	4.2	▲ 0.5	7.8	36.4	44.5	12.1	4.4	27.7	12.9
4	33.7	16.9	4.5	▲ 15.4	▲ 23.5	45.0	20.1	3.0	4.9	3.2
5	▲ 15.7	▲ 2.3	▲ 7.2	▲ 12.1	26.7	▲ 14.7	▲ 25.0	▲ 15.3	11.4	▲ 6.4

(資料) 北海道建設業信用保証、東日本建設業保証、西日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

(図表 7)

鉱工業生産指数

(1) 季節調整済

(前期 (月) 比、%)

	北海道	東北	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	全国
2017年	1.4	2.4	5.9	3.0	5.5	2.5	1.6	▲ 1.1	4.8	3.1
2018年	▲ 2.3	▲ 0.4	▲ 1.1	1.0	1.0	0.9	1.4	▲ 0.4	0.9	1.1
2019年	▲ 4.6	▲ 3.4	▲ 4.4	▲ 4.8	▲ 2.4	▲ 3.8	▲ 0.6	▲ 2.5	▲ 2.7	▲ 3.0
2018/4Q	3.3	0.4	3.0	0.6	▲ 0.6	1.4	10.5	1.9	▲ 1.3	1.4
2019/1Q	▲ 1.5	▲ 1.9	▲ 1.9	▲ 5.1	1.2	▲ 3.3	▲ 2.6	▲ 3.1	▲ 0.8	▲ 2.1
2Q	▲ 1.7	0.5	▲ 2.9	2.5	0.3	▲ 0.2	2.1	0.1	▲ 0.6	0.0
3Q	▲ 2.8	▲ 1.5	▲ 2.0	▲ 2.0	▲ 2.5	1.8	▲ 5.1	▲ 0.9	0.8	▲ 1.1
4Q	▲ 2.4	▲ 1.4	▲ 4.7	▲ 4.4	▲ 4.8	▲ 6.5	0.0	▲ 0.4	▲ 2.3	▲ 3.6
2020/1Q	0.3	3.2	▲ 1.0	▲ 1.3	▲ 1.3	1.9	▲ 1.9	▲ 1.5	▲ 3.4	0.4
2019/ 4	▲ 1.4	2.3	▲ 1.1	2.1	0.6	1.7	3.3	0.1	2.0	▲ 0.1
5	1.7	2.0	1.1	2.4	1.4	1.2	▲ 2.5	▲ 4.1	▲ 1.8	1.5
6	▲ 2.7	▲ 5.5	▲ 2.1	▲ 3.6	▲ 3.0	▲ 2.4	0.7	3.3	▲ 3.6	▲ 2.6
7	▲ 0.7	1.8	0.7	1.0	0.1	4.7	▲ 3.3	▲ 1.8	2.0	0.7
8	▲ 1.0	▲ 2.4	▲ 2.8	▲ 2.4	▲ 1.3	▲ 4.2	▲ 4.5	1.4	1.3	▲ 1.7
9	▲ 0.6	4.3	0.9	0.9	▲ 0.6	4.1	4.8	▲ 2.4	3.1	1.9
10	▲ 2.6	▲ 3.7	▲ 1.3	▲ 3.9	▲ 3.6	▲ 5.9	▲ 1.3	0.2	▲ 3.7	▲ 4.0
11	2.2	2.1	▲ 5.7	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 4.9	▲ 1.5	3.6	0.5	▲ 0.6
12	▲ 1.4	▲ 3.0	2.4	▲ 0.1	▲ 0.9	4.4	2.1	▲ 5.4	▲ 3.8	0.2
2020/ 1	▲ 0.2	4.6	▲ 0.5	2.2	2.5	3.0	1.0	▲ 3.2	0.4	1.9
2	1.0	3.1	0.4	▲ 4.0	▲ 3.9	▲ 2.9	▲ 5.7	3.0	▲ 3.7	▲ 0.3
3	0.2	▲ 6.4	▲ 1.0	▲ 1.7	▲ 1.4	▲ 0.9	0.2	6.6	3.4	▲ 3.7
4	▲ 8.2	▲ 2.0	▲ 3.5	▲ 6.7	▲ 11.5	▲ 9.2	▲ 14.6	▲ 5.5	▲ 8.8	▲ 9.8
5	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	▲ 8.4

- (注) 1. 年は原指数の前年比。
 2. 2020/5月、および2020/4月の北海道、東北、北陸、関東、中国、四国、九州の計数は速報値。
 3. 2019年の北陸、東海、全国の計数は年間補正済み。

(2) 原指数

(前年同期 (月) 比、%)

	北海道	東北	北陸	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	全国
2017年	1.4	2.4	5.9	3.0	5.5	2.5	1.6	▲ 1.1	4.8	3.1
2018年	▲ 2.3	▲ 0.4	▲ 1.1	1.0	1.0	0.9	1.4	▲ 0.4	0.9	1.1
2019年	▲ 4.6	▲ 3.4	▲ 4.4	▲ 4.8	▲ 2.4	▲ 3.8	▲ 0.6	▲ 2.5	▲ 2.7	▲ 3.0
2018/4Q	▲ 1.0	▲ 1.0	2.2	1.8	▲ 2.4	1.8	4.3	1.2	0.1	1.3
2019/1Q	▲ 2.2	▲ 2.7	1.1	▲ 3.8	▲ 1.2	▲ 3.2	▲ 0.4	▲ 0.8	▲ 2.0	▲ 1.7
2Q	▲ 4.9	▲ 3.7	▲ 3.8	▲ 2.5	▲ 0.9	▲ 3.8	▲ 0.5	▲ 2.7	▲ 4.1	▲ 2.2
3Q	▲ 2.6	▲ 2.5	▲ 3.6	▲ 3.8	0.1	▲ 0.1	4.6	▲ 2.0	▲ 1.8	▲ 1.1
4Q	▲ 8.2	▲ 4.3	▲ 10.7	▲ 8.4	▲ 7.4	▲ 8.2	▲ 5.6	▲ 4.2	▲ 2.9	▲ 6.8
2020/1Q	▲ 5.8	0.1	▲ 9.3	▲ 4.8	▲ 7.2	▲ 2.7	▲ 4.1	▲ 2.6	▲ 4.3	▲ 4.5
2019/ 4	▲ 3.9	▲ 1.2	▲ 3.3	▲ 1.7	1.2	▲ 2.3	3.6	▲ 2.1	▲ 2.7	▲ 0.7
5	▲ 4.4	▲ 4.2	▲ 2.9	▲ 1.8	0.5	▲ 4.4	▲ 2.6	▲ 4.2	▲ 3.1	▲ 1.9
6	▲ 6.2	▲ 5.6	▲ 5.2	▲ 4.1	▲ 4.1	▲ 4.8	▲ 2.4	▲ 2.0	▲ 6.4	▲ 3.9
7	▲ 4.6	▲ 2.0	▲ 0.6	▲ 1.0	1.6	3.1	12.5	0.5	▲ 3.2	0.8
8	▲ 7.3	▲ 7.6	▲ 7.4	▲ 8.0	▲ 4.6	▲ 6.3	▲ 2.5	▲ 2.2	▲ 5.5	▲ 5.5
9	4.5	1.7	▲ 3.2	▲ 2.7	2.6	2.5	4.1	▲ 4.1	3.4	1.2
10	▲ 9.6	▲ 7.2	▲ 7.9	▲ 9.8	▲ 8.2	▲ 8.8	▲ 5.7	▲ 3.8	▲ 4.7	▲ 8.2
11	▲ 8.1	▲ 3.1	▲ 15.1	▲ 10.2	▲ 8.6	▲ 11.9	▲ 8.9	▲ 5.1	▲ 2.5	▲ 8.5
12	▲ 6.9	▲ 2.5	▲ 9.0	▲ 5.2	▲ 5.3	▲ 3.6	▲ 2.1	▲ 3.9	▲ 1.6	▲ 3.7
2020/ 1	▲ 6.5	2.0	▲ 12.0	▲ 1.6	▲ 4.3	▲ 2.0	▲ 1.4	▲ 7.7	▲ 3.2	▲ 2.4
2	▲ 6.5	▲ 1.3	▲ 8.3	▲ 6.0	▲ 9.3	▲ 4.5	▲ 4.6	▲ 2.2	▲ 7.1	▲ 5.7
3	▲ 4.4	▲ 0.2	▲ 7.7	▲ 6.3	▲ 7.9	▲ 1.5	▲ 5.9	1.9	▲ 2.8	▲ 5.2
4	▲ 11.4	▲ 4.0	▲ 10.5	▲ 14.7	▲ 20.5	▲ 12.5	▲ 22.5	▲ 3.7	▲ 13.5	▲ 15.0
5	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	▲ 25.9

- (注) 1. 2020/5月、および2020/4月の北海道、東北、北陸、関東、中国、四国、九州の計数は速報値。
 2. 2019年の北陸、東海、全国の計数は年間補正済み。

(資料) 経済産業省、各経済産業局、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局「鉱工業生産動向」

(図表 8)

鋁工業出荷指数

(1) 季節調整済

(前期 (月) 比、%)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	全国
2017年	2.4	3.0	1.7	4.1	2.1	1.3	0.1	3.9	2.5
2018年	▲ 2.5	▲ 0.2	0.1	1.2	1.2	0.9	▲ 1.0	0.4	0.8
2019年	▲ 5.5	▲ 3.2	▲ 4.3	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 1.6	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 2.7
2018/4Q	2.1	0.9	1.4	0.1	1.8	7.2	2.8	0.2	1.0
2019/1Q	▲ 2.4	▲ 2.1	▲ 5.1	0.9	▲ 4.2	▲ 1.5	▲ 2.7	▲ 0.7	▲ 1.7
2Q	▲ 1.0	0.8	2.1	▲ 0.1	▲ 0.7	1.0	0.3	▲ 0.1	▲ 0.2
3Q	▲ 3.0	▲ 1.4	▲ 1.1	▲ 2.8	3.5	▲ 3.5	2.4	▲ 0.4	▲ 0.1
4Q	▲ 1.7	▲ 1.9	▲ 4.8	▲ 5.0	▲ 7.3	▲ 1.6	▲ 3.9	▲ 1.7	▲ 3.9
2020/1Q	▲ 1.7	2.1	▲ 0.9	▲ 1.2	2.6	▲ 3.2	▲ 0.7	▲ 4.2	▲ 0.6
2019/ 4	▲ 0.7	4.9	1.2	1.3	0.9	1.3	▲ 1.3	1.5	0.7
5	1.4	1.7	1.4	0.0	2.2	▲ 1.5	▲ 3.6	1.7	0.8
6	▲ 1.3	▲ 6.7	▲ 2.6	▲ 1.9	▲ 4.8	0.9	6.4	▲ 6.7	▲ 3.2
7	▲ 1.4	1.7	1.0	0.6	6.4	▲ 1.1	▲ 0.7	2.4	2.5
8	▲ 1.6	0.6	▲ 1.2	▲ 1.1	▲ 3.8	▲ 6.5	3.2	0.8	▲ 2.0
9	▲ 0.8	1.8	0.1	▲ 0.8	7.0	5.7	▲ 5.6	2.5	1.8
10	▲ 0.3	▲ 3.4	▲ 4.7	▲ 3.0	▲ 8.6	▲ 2.9	▲ 1.0	▲ 2.5	▲ 3.5
11	0.4	2.5	0.6	▲ 1.2	▲ 4.7	▲ 1.9	2.2	0.3	▲ 1.4
12	▲ 2.0	▲ 4.4	▲ 0.5	▲ 1.1	4.5	3.7	▲ 4.7	▲ 3.7	0.2
2020/ 1	▲ 0.4	5.1	1.2	1.4	0.9	▲ 2.8	1.0	1.6	0.9
2	0.2	3.7	▲ 1.6	▲ 2.4	0.3	▲ 2.2	▲ 1.2	▲ 4.0	1.0
3	▲ 0.3	▲ 8.8	▲ 2.5	0.3	0.2	▲ 2.3	4.7	▲ 2.3	▲ 5.8
4	▲ 9.1	1.8	▲ 9.0	▲ 14.9	▲ 12.4	▲ 12.1	▲ 4.0	▲ 9.5	▲ 9.5
5	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	▲ 8.4

- (注) 1. 年は原指数の前年比。
 2. 2020/5月、および2020/4月の北海道、東北、関東、中国、四国、九州の計数は速報値。
 3. 2019年の中部、全国の計数は年間補正済み。

(2) 原指数

(前年同期 (月) 比、%)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	全国
2017年	2.4	3.0	1.7	4.1	2.1	1.3	0.1	3.9	2.5
2018年	▲ 2.5	▲ 0.2	0.1	1.2	1.2	0.9	▲ 1.0	0.4	0.8
2019年	▲ 5.5	▲ 3.2	▲ 4.3	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 1.6	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 2.7
2018/4Q	▲ 2.1	▲ 0.2	1.8	▲ 0.8	2.0	2.2	0.7	1.5	1.1
2019/1Q	▲ 4.4	▲ 2.4	▲ 3.5	▲ 0.8	▲ 4.0	▲ 0.8	▲ 1.3	▲ 1.1	▲ 1.6
2Q	▲ 5.1	▲ 3.7	▲ 2.7	▲ 0.8	▲ 5.1	▲ 2.9	▲ 2.9	▲ 2.6	▲ 2.6
3Q	▲ 4.1	▲ 2.0	▲ 2.6	▲ 0.4	0.5	3.3	2.8	▲ 0.7	▲ 0.2
4Q	▲ 8.0	▲ 4.6	▲ 8.4	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 5.6	▲ 3.9	▲ 2.8	▲ 6.5
2020/1Q	▲ 6.4	▲ 1.0	▲ 4.2	▲ 7.8	▲ 1.6	▲ 6.3	▲ 1.9	▲ 5.6	▲ 5.2
2019/ 4	▲ 5.9	0.1	▲ 2.0	1.7	▲ 3.6	0.1	▲ 2.7	▲ 2.8	▲ 1.1
5	▲ 5.4	▲ 4.4	▲ 2.1	▲ 0.3	▲ 4.2	▲ 3.7	▲ 6.8	0.1	▲ 1.6
6	▲ 3.9	▲ 6.7	▲ 4.0	▲ 3.5	▲ 7.3	▲ 4.8	0.9	▲ 5.0	▲ 4.9
7	▲ 5.4	▲ 1.7	▲ 0.5	1.1	2.7	10.2	6.4	▲ 1.1	2.1
8	▲ 8.8	▲ 6.8	▲ 6.3	▲ 5.2	▲ 7.2	▲ 3.9	3.3	▲ 4.7	▲ 5.0
9	2.2	2.5	▲ 1.1	2.4	6.0	3.8	▲ 1.1	3.8	2.1
10	▲ 7.8	▲ 7.3	▲ 10.8	▲ 8.3	▲ 11.2	▲ 5.8	▲ 4.9	▲ 4.4	▲ 7.6
11	▲ 9.3	▲ 3.5	▲ 9.0	▲ 9.5	▲ 11.8	▲ 8.7	▲ 4.4	▲ 3.7	▲ 8.0
12	▲ 6.9	▲ 3.0	▲ 5.1	▲ 7.0	▲ 2.8	▲ 2.1	▲ 2.4	▲ 0.4	▲ 3.8
2020/ 1	▲ 6.2	0.8	▲ 1.8	▲ 7.1	▲ 4.4	▲ 4.4	▲ 1.9	▲ 3.0	▲ 3.3
2	▲ 7.8	▲ 2.7	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 1.6	▲ 5.7	▲ 3.7	▲ 6.6	▲ 5.4
3	▲ 5.5	▲ 0.9	▲ 6.2	▲ 6.7	0.9	▲ 8.6	▲ 0.3	▲ 6.9	▲ 6.5
4	▲ 14.4	▲ 3.5	▲ 16.1	▲ 22.8	▲ 12.9	▲ 21.2	▲ 2.4	▲ 17.6	▲ 16.6
5	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	▲ 26.5

- (注) 1. 2020/5月、および2020/4月の北海道、東北、関東、中国、四国、九州の計数は速報値。
 2. 2019年の中部、全国の計数は年間補正済み。

(資料) 経済産業省、各経済産業局「鋁工業生産動向」

(図表 9)

鋁工業在庫指数

(1) 季節調整済

(前期 (月) 比、%)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	全国
2017年	▲ 1.2	▲ 4.0	1.4	6.5	8.2	6.1	▲ 1.9	7.3	4.1
2018年	9.7	8.3	1.7	6.4	▲ 1.7	▲ 2.5	12.3	9.4	1.7
2019年	2.2	6.7	▲ 0.8	3.1	3.0	1.0	0.2	▲ 0.6	1.2
2018/4Q	3.0	3.3	▲ 0.1	1.6	1.3	▲ 3.1	▲ 0.7	5.6	0.9
2019/1Q	0.9	3.5	1.8	2.4	1.7	▲ 0.2	▲ 1.7	▲ 3.6	0.5
2Q	▲ 0.4	2.7	▲ 0.5	▲ 0.6	3.1	1.2	2.1	3.3	1.0
3Q	2.1	▲ 0.1	▲ 2.6	▲ 0.4	▲ 2.9	2.2	▲ 1.3	0.7	▲ 1.1
4Q	▲ 0.5	0.5	0.4	1.9	1.2	▲ 2.2	1.2	▲ 0.8	0.7
2020/1Q	5.8	5.0	1.2	4.0	1.6	7.6	0.9	1.1	2.3
2019/ 4	▲ 2.8	0.5	▲ 1.2	0.7	0.2	0.8	▲ 1.2	3.5	0.0
5	1.4	0.2	0.0	0.2	▲ 1.0	2.3	3.0	▲ 3.8	0.4
6	1.1	2.1	0.7	▲ 1.4	4.0	▲ 1.8	0.4	3.7	0.6
7	1.3	1.2	1.0	0.7	0.0	▲ 1.6	0.4	1.7	▲ 0.1
8	▲ 4.3	▲ 2.6	▲ 1.6	0.3	0.7	4.3	▲ 3.3	▲ 1.8	▲ 0.1
9	5.3	1.4	▲ 2.0	▲ 1.4	▲ 3.5	▲ 0.4	1.7	0.8	▲ 0.9
10	▲ 2.2	▲ 1.5	1.1	0.6	1.6	▲ 3.2	▲ 1.2	▲ 1.3	0.8
11	0.7	0.9	▲ 0.9	1.0	▲ 0.7	1.1	1.2	0.1	▲ 0.5
12	1.1	1.2	0.2	0.3	0.3	0.0	1.2	0.4	0.4
2020/ 1	▲ 1.9	0.4	1.5	3.6	1.0	5.2	▲ 3.2	0.3	2.1
2	3.2	0.5	▲ 2.0	▲ 0.5	▲ 1.3	▲ 3.7	2.6	▲ 1.7	▲ 1.7
3	4.4	4.1	1.7	0.8	2.0	6.3	1.5	2.6	1.9
4	▲ 0.7	0.0	▲ 0.3	1.1	▲ 1.0	▲ 3.1	0.6	1.2	▲ 0.3
5	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	▲ 2.5

- (注) 1. 年は原指数の前年比。
 2. 年、四半期は年末値、期末値。
 3. 2020/5月、および2020/4月の北海道、東北、関東、中国、四国、九州の計数は速報値。
 4. 2019年の中部、全国の計数は年間補正済み。

(2) 原指数

(前年同期 (月) 比、%)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	全国
2017年	▲ 1.2	▲ 4.0	1.4	6.5	8.2	6.1	▲ 1.9	7.3	4.1
2018年	9.7	8.3	1.7	6.4	▲ 1.7	▲ 2.5	12.3	9.4	1.7
2019年	2.2	6.7	▲ 0.8	3.1	3.0	1.0	0.2	▲ 0.6	1.2
2018/4Q	9.7	8.3	1.7	6.4	▲ 1.7	▲ 2.5	12.3	9.4	1.7
2019/1Q	3.3	10.3	1.6	9.9	▲ 0.2	▲ 3.4	0.2	5.1	0.2
2Q	2.7	9.8	3.2	6.3	5.6	▲ 2.6	4.7	6.3	3.0
3Q	5.7	9.7	▲ 1.4	2.5	3.2	0.0	▲ 1.6	5.8	0.9
4Q	2.2	6.7	▲ 0.8	3.1	3.0	1.0	0.2	▲ 0.6	1.2
2020/1Q	7.0	8.4	▲ 1.5	4.9	3.1	8.9	2.8	4.3	2.9
2019/ 4	3.0	8.7	1.6	9.4	0.4	▲ 1.2	▲ 2.4	8.4	1.2
5	2.2	7.7	1.7	6.4	0.3	0.8	0.9	4.5	1.5
6	2.7	9.8	3.2	6.3	5.6	▲ 2.6	4.7	6.3	3.0
7	5.3	10.1	3.9	5.6	6.6	▲ 2.5	4.1	9.4	2.4
8	0.0	9.0	1.7	8.5	8.2	1.5	1.7	4.9	2.4
9	5.7	9.7	▲ 1.4	2.5	3.2	0.0	▲ 1.6	5.8	0.9
10	0.6	7.5	1.8	2.3	4.8	▲ 2.4	▲ 1.2	7.5	2.5
11	2.2	8.0	▲ 0.7	2.8	3.9	▲ 0.6	1.1	7.9	1.5
12	2.2	6.7	▲ 0.8	3.1	3.0	1.0	0.2	▲ 0.6	1.2
2020/ 1	1.6	6.4	1.8	6.9	5.7	1.4	▲ 3.1	1.2	3.6
2	4.5	7.4	▲ 0.3	4.9	2.8	4.1	▲ 1.4	4.3	1.6
3	7.0	8.4	▲ 1.5	4.9	3.1	8.9	2.8	4.3	2.9
4	9.4	7.9	▲ 0.6	5.2	1.9	4.7	4.7	1.9	2.7
5	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	n. a.	▲ 0.4

- (注) 1. 年、四半期は年末値、期末値。
 2. 2020/5月、および2020/4月の北海道、東北、関東、中国、四国、九州の計数は速報値。
 3. 2019年の中部、全国の計数は年間補正済み。

(資料) 経済産業省、各経済産業局「鋁工業生産動向」

(図表 10)

有効求人倍率

	(倍)											(参考)
	北海道	東北	北陸	北関東・甲信	南関東	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国	北陸4県
2017年	1.11	1.44	1.87	1.48	1.57	1.71	1.44	1.71	1.47	1.36	1.50	1.70
2018年	1.18	1.53	2.00	1.59	1.63	1.85	1.59	1.87	1.55	1.46	1.61	1.86
2019年	1.24	1.48	1.96	1.56	1.61	1.81	1.61	1.90	1.58	1.44	1.60	1.81
2018/4Q	1.21	1.53	2.03	1.60	1.64	1.86	1.62	1.92	1.57	1.46	1.63	1.88
2019/1Q	1.22	1.52	2.01	1.60	1.63	1.88	1.62	1.93	1.58	1.46	1.63	1.86
2Q	1.23	1.49	1.98	1.58	1.63	1.84	1.62	1.93	1.59	1.46	1.62	1.83
3Q	1.24	1.46	1.94	1.54	1.60	1.79	1.60	1.88	1.58	1.44	1.59	1.79
4Q	1.27	1.44	1.91	1.51	1.59	1.73	1.59	1.86	1.56	1.42	1.57	1.78
2020/1Q	1.16	1.33	1.69	1.42	1.48	1.50	1.47	1.72	1.47	1.31	1.44	1.59
2019/ 4	1.22	1.51	1.99	1.58	1.63	1.87	1.63	1.95	1.59	1.47	1.63	1.84
5	1.23	1.49	1.97	1.59	1.63	1.84	1.63	1.92	1.59	1.46	1.62	1.83
6	1.23	1.48	1.96	1.58	1.63	1.82	1.62	1.90	1.59	1.45	1.61	1.82
7	1.23	1.46	1.96	1.56	1.61	1.81	1.61	1.88	1.58	1.44	1.59	1.80
8	1.24	1.46	1.95	1.55	1.61	1.80	1.60	1.88	1.58	1.44	1.59	1.79
9	1.24	1.45	1.93	1.53	1.59	1.77	1.60	1.87	1.58	1.43	1.58	1.77
10	1.26	1.45	1.92	1.52	1.59	1.75	1.59	1.87	1.57	1.42	1.58	1.78
11	1.27	1.44	1.90	1.51	1.59	1.73	1.58	1.86	1.56	1.42	1.57	1.77
12	1.28	1.43	1.91	1.51	1.60	1.71	1.59	1.86	1.56	1.42	1.57	1.78
2020/ 1	1.18	1.36	1.74	1.46	1.51	1.59	1.50	1.74	1.51	1.35	1.49	1.64
2	1.17	1.34	1.72	1.43	1.48	1.48	1.48	1.72	1.48	1.32	1.45	1.62
3	1.12	1.28	1.62	1.37	1.44	1.42	1.42	1.68	1.42	1.26	1.39	1.52
4	1.11	1.23	1.55	1.31	1.36	1.36	1.33	1.57	1.33	1.18	1.32	1.46
5	0.96	1.14	1.39	1.20	1.23	1.22	1.20	1.45	1.25	1.10	1.20	1.31

- (注) 1. 四半期、月次は季節調整済、年は原計数。
2. 北陸は日本銀行金沢支店が作成。

(資料) 厚生労働省「職業安定業務統計」、日本銀行金沢支店

(図表 1 1)

完全失業率

(原計数、%)

	北海道	東北	北陸4県	北関東・甲信	南関東	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	3.3	2.8	2.5	2.5	2.9	2.4	3.0	2.5	3.1	3.1	2.8
2018年	2.9	2.5	2.0	2.2	2.5	1.8	2.8	2.4	2.2	2.7	2.4
2019年	2.6	2.5	1.9	2.3	2.3	1.9	2.6	2.4	2.3	2.7	2.4
2018/4Q	2.8	2.4	2.1	2.5	2.3	1.6	2.9	2.7	1.8	2.6	2.4
2019/1Q	2.8	2.9	1.8	2.2	2.4	1.7	2.7	2.5	2.1	2.9	2.4
2Q	3.0	2.2	2.1	2.7	2.4	1.9	2.8	2.4	2.5	2.5	2.4
3Q	2.1	2.4	1.8	2.2	2.3	2.1	2.5	2.3	2.4	2.7	2.3
4Q	2.4	2.7	2.0	2.0	2.1	1.9	2.3	2.3	2.0	2.6	2.2
2020/1Q	2.5	2.6	1.9	2.4	2.4	1.9	2.7	2.2	2.1	2.7	2.4

(資料) 総務省「労働力調査」

雇用者数

(前年(同期)比、%)

	北海道	東北	北陸4県	北関東・甲信	南関東	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	0.9	0.5	0.0	0.5	1.8	1.3	1.4	0.6	▲ 0.6	1.3	1.2
2018年	2.6	0.0	1.2	1.4	2.8	2.0	1.5	2.4	2.6	1.8	2.0
2019年	0.8	0.8	1.2	0.5	2.1	0.8	1.3	0.6	0.6	0.3	1.1
2018/4Q	3.0	0.5	0.8	1.8	2.3	1.7	1.5	1.8	3.3	2.3	1.9
2019/1Q	0.9	2.3	2.0	0.7	2.1	1.5	0.9	0.3	1.3	▲ 0.2	1.3
2Q	▲ 2.9	2.6	0.0	0.0	1.7	1.4	0.8	0.9	0.0	1.4	1.1
3Q	3.3	▲ 0.8	0.4	▲ 0.2	2.3	0.8	2.3	0.9	▲ 1.3	▲ 1.1	1.1
4Q	0.8	▲ 1.0	0.8	0.9	2.1	0.0	1.2	0.0	1.9	0.8	1.1
2020/1Q	0.0	1.5	0.4	0.5	1.4	▲ 0.1	2.7	▲ 0.6	1.3	1.0	1.1

(資料) 総務省「労働力調査」

(図表 1 2)

消費者物価指数（除く生鮮食品）

(前年同期（月）比、％)

	北海道	東北	北陸4県	関東甲信	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国
2017年	1.2	0.9	0.7	0.4	0.5	0.3	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5
2018年	1.6	1.0	0.9	0.9	0.9	0.6	0.7	0.9	0.8	0.8	0.9
2019年	0.7	0.6	0.5	0.8	0.3	0.6	0.6	0.6	0.7	0.5	0.6
2018/4Q	1.6	1.2	0.9	1.0	0.9	0.6	0.8	0.9	0.9	1.0	0.9
2019/1Q	0.9	0.8	0.4	1.0	0.6	0.6	0.7	0.8	0.7	0.8	0.8
2Q	0.7	0.8	0.6	0.9	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8
3Q	0.5	0.4	0.4	0.6	0.0	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.5
4Q	0.7	0.4	0.6	0.6	0.2	0.7	0.6	0.4	0.8	▲ 0.1	0.6
2020/1Q	1.3	0.5	0.8	0.6	0.2	0.7	0.8	0.2	0.8	0.0	0.6
2019/ 4	1.0	1.0	0.7	1.1	0.7	0.7	0.8	0.7	0.8	1.0	0.9
5	0.8	0.8	0.7	0.9	0.6	0.6	0.8	0.7	0.7	0.8	0.8
6	0.4	0.5	0.5	0.8	0.3	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6
7	0.4	0.5	0.5	0.7	0.1	0.7	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6
8	0.5	0.4	0.4	0.6	0.1	0.5	0.6	0.5	0.6	0.6	0.5
9	0.5	0.2	0.4	0.4	▲ 0.1	0.3	0.4	0.4	0.6	0.5	0.3
10	0.5	0.2	0.4	0.4	▲ 0.1	0.5	0.4	0.2	0.7	▲ 0.2	0.4
11	0.7	0.4	0.6	0.6	0.2	0.8	0.6	0.3	0.7	▲ 0.2	0.5
12	1.1	0.6	0.8	0.8	0.4	0.9	0.8	0.6	1.0	0.1	0.7
2020/ 1	1.3	0.8	1.1	0.8	0.5	0.9	0.8	0.3	0.9	0.1	0.8
2	1.3	0.5	0.7	0.5	0.2	0.6	0.7	0.1	0.7	0.1	0.6
3	1.1	0.3	0.5	0.4	0.0	0.5	0.7	0.1	0.7	▲ 0.2	0.4
4	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.6	0.0	▲ 0.1	▲ 0.5	0.1	▲ 0.3	▲ 0.2
5	▲ 0.5	▲ 0.7	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.7	0.1	▲ 0.3	▲ 0.6	0.1	▲ 0.3	▲ 0.2

(注) 全国以外の四半期は、月次指数から算出（平均値）。

(資料) 総務省「消費者物価指数」

市街地価格指数（全用途平均）

(前年同期比、％)

	北海道	東北	北陸4県	関東	中部・東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2015/3	▲ 1.2	▲ 0.9	▲ 2.0	▲ 0.1	▲ 1.0	▲ 0.3	▲ 2.1	▲ 1.9	▲ 1.4	▲ 0.9
9	▲ 1.0	▲ 0.7	▲ 1.7	0.1	▲ 0.9	▲ 0.2	▲ 1.7	▲ 1.6	▲ 1.0	▲ 0.7
2016/3	▲ 0.7	▲ 0.5	▲ 1.4	0.2	▲ 0.8	0.0	▲ 1.2	▲ 1.4	▲ 0.5	▲ 0.5
9	▲ 0.6	▲ 0.3	▲ 1.2	0.3	▲ 0.7	0.1	▲ 0.8	▲ 1.1	0.0	▲ 0.3
2017/3	▲ 0.6	0.1	▲ 1.1	0.4	▲ 0.6	0.1	▲ 0.6	▲ 0.9	0.3	▲ 0.1
9	▲ 0.4	0.2	▲ 1.0	0.5	▲ 0.4	0.2	▲ 0.4	▲ 0.7	0.4	0.0
2018/3	▲ 0.1	0.3	▲ 1.0	0.7	▲ 0.2	0.5	▲ 0.1	▲ 0.5	1.0	0.3
9	0.3	0.5	▲ 0.8	0.9	0.0	0.8	0.2	▲ 0.3	1.7	0.6
2019/3	0.7	0.6	▲ 0.7	1.1	0.3	1.0	0.4	▲ 0.2	2.1	0.8
9	1.1	0.7	▲ 0.1	1.3	0.4	1.2	0.6	▲ 0.1	2.5	1.0
2020/3	1.3	0.8	0.1	1.1	0.2	1.1	0.6	▲ 0.4	2.0	0.9

(資料) 日本不動産研究所「市街地価格指数」

(図表 13)

企 業 倒 産

(1) 倒産件数 (負債総額1,000万円以上)

(前年同期(月)比、%)

	北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	3.4	▲ 7.2	▲ 11.1	▲ 0.2	▲ 0.3	4.5	▲ 4.9	▲ 4.8	▲ 9.6	▲ 0.5
2018年	▲ 16.6	10.8	2.7	▲ 6.8	3.7	▲ 3.4	0.9	18.0	13.1	▲ 2.0
2019年	▲ 8.2	13.1	5.8	1.0	▲ 9.8	3.5	4.5	17.1	10.2	1.8
2018/4Q	▲ 21.5	▲ 10.0	6.8	▲ 1.8	▲ 2.2	▲ 0.4	▲ 7.6	16.2	5.2	▲ 1.7
2019/1Q	▲ 10.8	8.7	▲ 8.5	▲ 3.9	▲ 22.7	▲ 6.7	▲ 22.7	9.5	15.9	▲ 6.1
2Q	3.2	▲ 7.8	51.3	0.0	▲ 16.5	▲ 5.1	16.3	24.4	2.3	▲ 1.6
3Q	▲ 11.3	35.1	0.0	3.6	5.6	15.1	2.5	5.3	12.5	8.2
4Q	▲ 15.7	18.5	▲ 10.6	4.0	▲ 3.8	12.4	23.5	27.9	11.2	6.8
2020/1Q	▲ 8.6	31.0	39.5	12.0	17.5	6.8	47.1	15.2	6.5	12.9
2019/ 4	0.0	▲ 42.4	50.0	9.6	▲ 12.5	▲ 0.6	▲ 11.1	12.5	▲ 9.5	▲ 0.8
5	▲ 14.8	10.3	56.3	▲ 16.1	▲ 23.2	▲ 10.0	6.1	18.2	7.3	▲ 9.4
6	31.6	6.5	46.7	8.9	▲ 13.1	▲ 3.9	70.0	42.9	11.3	6.4
7	▲ 16.7	63.3	21.1	10.1	29.4	7.7	13.8	6.7	15.0	14.2
8	16.7	▲ 12.5	0.0	0.0	▲ 20.9	8.6	▲ 14.8	▲ 10.0	▲ 10.9	▲ 2.3
9	▲ 35.3	79.2	▲ 21.1	0.4	9.1	33.9	8.0	15.4	37.8	13.0
10	▲ 20.0	48.0	▲ 22.2	3.7	8.2	11.0	36.1	11.8	▲ 14.1	6.8
11	▲ 22.2	▲ 38.9	▲ 12.5	▲ 2.8	▲ 3.4	11.8	26.1	61.5	7.4	1.3
12	▲ 5.6	85.0	7.7	12.3	▲ 15.2	15.0	3.8	15.4	53.5	13.2
2020/ 1	31.3	176.5	15.8	7.8	25.3	5.9	52.4	16.7	8.1	16.1
2	0.0	▲ 27.8	33.3	11.5	▲ 6.0	11.2	60.9	41.7	25.0	10.7
3	▲ 38.5	20.6	100.0	16.7	32.3	3.7	29.2	0.0	▲ 6.1	11.8
4	56.3	121.1	83.3	▲ 7.6	54.3	7.2	70.8	11.1	12.3	15.2
5	▲ 56.5	▲ 65.1	▲ 64.0	▲ 56.7	▲ 56.6	▲ 60.8	▲ 31.4	▲ 15.4	▲ 37.3	▲ 54.8

(2) 倒産負債総額 (負債総額1,000万円以上)

(前年同期(月)比、%)

	北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	11.6	▲ 9.9	▲ 25.3	285.9	▲ 2.1	▲ 72.7	11.5	▲ 11.4	▲ 21.7	57.9
2018年	▲ 58.5	0.0	▲ 34.5	▲ 67.7	0.9	11.9	▲ 47.5	22.9	3.5	▲ 53.1
2019年	16.5	22.9	174.3	▲ 20.6	▲ 12.0	32.2	▲ 6.5	▲ 17.6	▲ 4.1	▲ 4.2
2018/4Q	▲ 84.7	▲ 35.0	19.6	▲ 61.1	▲ 26.8	5.7	▲ 59.0	100.8	▲ 8.6	▲ 49.8
2019/1Q	▲ 49.0	29.8	476.2	22.0	▲ 36.5	154.6	0.4	▲ 45.4	44.7	40.7
2Q	74.3	55.9	273.1	▲ 42.6	▲ 56.0	▲ 24.7	65.2	62.1	▲ 14.5	▲ 28.1
3Q	68.8	14.2	▲ 10.5	▲ 34.3	▲ 31.0	▲ 7.3	▲ 64.2	▲ 11.2	▲ 55.9	▲ 29.8
4Q	42.7	▲ 4.0	13.6	▲ 5.3	139.6	4.4	32.6	▲ 31.0	54.2	14.7
2020/1Q	55.7	37.8	▲ 75.5	▲ 36.5	▲ 0.7	▲ 63.8	66.7	2.1	12.5	▲ 34.4
2019/ 4	12.6	1.2	116.0	42.2	▲ 27.4	▲ 31.9	▲ 32.4	80.3	50.9	12.0
5	111.2	▲ 9.0	573.7	▲ 8.8	▲ 60.6	8.8	136.8	11.2	▲ 36.8	2.9
6	76.0	469.9	25.7	▲ 77.6	▲ 63.5	▲ 40.5	171.3	77.5	▲ 31.6	▲ 60.4
7	128.8	51.5	26.3	▲ 8.6	▲ 31.5	▲ 17.6	▲ 39.0	▲ 26.7	▲ 50.9	▲ 17.1
8	93.5	▲ 13.7	▲ 26.3	23.8	▲ 37.1	▲ 37.9	▲ 93.0	171.8	▲ 78.9	▲ 28.1
9	11.3	13.3	▲ 16.9	▲ 56.6	▲ 18.2	131.4	113.2	▲ 35.7	0.5	▲ 38.7
10	▲ 5.2	81.3	▲ 17.9	▲ 40.0	▲ 12.6	▲ 18.0	122.2	▲ 53.7	▲ 53.1	▲ 24.7
11	▲ 0.9	▲ 65.7	▲ 63.1	3.9	19.8	▲ 12.1	▲ 55.9	480.8	94.9	1.0
12	177.0	176.4	220.7	41.1	360.4	53.3	70.0	▲ 73.3	187.7	91.8
2020/ 1	318.4	132.1	88.9	▲ 73.1	38.2	51.1	▲ 2.1	9.2	81.8	▲ 25.9
2	▲ 17.1	▲ 64.1	▲ 92.0	23.0	▲ 25.8	▲ 87.6	53.3	▲ 40.6	14.6	▲ 63.4
3	▲ 4.1	31.0	135.6	41.5	▲ 22.4	▲ 19.1	430.9	20.8	▲ 54.2	9.1
4	95.4	▲ 39.3	165.3	▲ 13.6	192.0	158.4	225.6	7.4	▲ 8.5	35.6
5	▲ 90.1	▲ 59.5	▲ 72.1	▲ 18.4	▲ 40.1	2.3	▲ 57.3	15.3	120.0	▲ 24.3

(資料) 東京商工リサーチ「倒産月報」

(図表 1 4)

地域別業況判断D I

～ 本計表は、下記の日本銀行各支店等が、企業短期経済観測調査で得られた計数に
もとづき、それぞれの地域の経済情勢を把握するため、それぞれ個別に作成した
9地域の統計を一括表示したものである。

(1) 業況判断D I (全産業)

		〔「良い」－「悪い」・%ポイント〕								
		北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄
2019/	9	12	4	2	9	8	5	11	9	13
	12	8	0	▲ 2	5	1	2	8	6	9
2020/	3	▲ 7	▲ 8	▲ 9	▲ 3	▲ 11	▲ 10	▲ 1	0	▲ 4
	6	▲ 26	▲ 31	▲ 39	▲ 30	▲ 41	▲ 36	▲ 31	▲ 22	▲ 27
	9(予)	▲ 25	▲ 31	▲ 42	▲ 33	▲ 42	▲ 39	▲ 35	▲ 34	▲ 30

(2) 業況判断D I (製造業)

		〔「良い」－「悪い」・%ポイント〕								
		北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄
2019/	9	6	▲ 5	0	▲ 1	3	▲ 3	3	9	2
	12	4	▲ 9	▲ 6	▲ 4	▲ 5	▲ 6	1	4	▲ 2
2020/	3	▲ 12	▲ 12	▲ 14	▲ 11	▲ 18	▲ 16	▲ 8	▲ 1	▲ 5
	6	▲ 32	▲ 42	▲ 46	▲ 38	▲ 53	▲ 42	▲ 40	▲ 22	▲ 31
	9(予)	▲ 29	▲ 39	▲ 47	▲ 39	▲ 51	▲ 45	▲ 41	▲ 33	▲ 32

(3) 業況判断D I (非製造業)

		〔「良い」－「悪い」・%ポイント〕								
		北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄
2019/	9	13	9	3	16	12	12	17	9	18
	12	9	5	1	11	9	11	14	7	14
2020/	3	▲ 6	▲ 6	▲ 5	4	▲ 3	▲ 3	5	0	▲ 4
	6	▲ 23	▲ 25	▲ 32	▲ 25	▲ 30	▲ 31	▲ 23	▲ 22	▲ 24
	9(予)	▲ 23	▲ 26	▲ 38	▲ 29	▲ 33	▲ 33	▲ 29	▲ 35	▲ 30

(注) 1. 短観の標本設計（調査対象企業の抽出方法）では、業種・企業規模ごとの売上高の標準誤差率や、売上高および資本金でみた調査母集団企業と調査対象企業の分布が有意に乖離しないこと等を基準として、全国ベースでの調査対象企業の抽出を行っているため、地域毎にみると、必ずしも各地域の産業構造を正確に反映していない。このため、例えばこの統計を、全国短観の業況判断DIや、他の地域について算出された業況判断DIと水準比較することは適当ではない。しかし、短観の調査対象企業には、継続標本が多く含まれており、かつ回答率が極めて高いことから、この統計を各地域の企業の業況感の時系列的な変化を把握するために活用することは可能である。

2. 「(予)」は、直近の調査時における3か月後の予測。

(作成) 地域区分毎に、日本銀行各支店、調査統計局地域経済調査課が以下の分担で作成。

北海道：札幌支店

東北：仙台支店

北陸：金沢支店

関東甲信越：調査統計局地域経済調査課

東海：調査統計局地域経済調査課(名古屋支店、静岡支店のデータを合算)

近畿：大阪支店

中国：広島支店

四国：高松支店

九州・沖縄：福岡支店

(図表 15)

国内銀行 預金残高

(末残前年同期(月)比、%)

	北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	3.7	0.9	3.1	5.2	2.9	3.1	2.9	2.0	3.1	4.1
2018年	2.2	▲ 0.2	2.1	2.4	1.3	2.3	1.4	0.4	1.7	2.0
2019年	2.7	1.6	3.7	2.5	3.3	2.4	2.6	2.7	3.4	2.6
2018/4Q	2.2	▲ 0.2	2.1	2.4	1.3	2.3	1.4	0.4	1.7	2.0
2019/1Q	2.4	▲ 0.2	2.5	1.9	2.2	1.9	1.7	0.5	1.5	1.8
2Q	2.2	0.5	2.2	0.4	2.0	2.1	1.7	1.7	2.1	1.1
3Q	1.2	▲ 0.1	1.2	2.7	1.8	1.8	1.3	1.4	2.1	2.2
4Q	2.7	1.6	3.7	2.5	3.3	2.4	2.6	2.7	3.4	2.6
2020/1Q	2.4	1.2	2.8	3.8	2.3	2.1	1.9	1.8	2.7	3.0
2019/ 4	3.1	0.4	3.0	0.3	2.1	2.4	1.7	1.2	2.3	1.1
5	2.9	0.2	2.4	0.3	1.8	1.8	1.2	1.5	1.9	0.9
6	2.2	0.5	2.2	0.4	2.0	2.1	1.7	1.7	2.1	1.1
7	2.8	0.5	2.4	1.8	2.2	2.2	1.5	2.0	2.3	1.9
8	3.3	0.9	3.1	1.6	2.6	2.2	2.2	2.1	2.8	2.0
9	1.2	▲ 0.1	1.2	2.7	1.8	1.8	1.3	1.4	2.1	2.2
10	2.7	1.0	3.0	2.7	3.6	2.5	2.1	2.2	2.9	2.6
11	2.4	1.8	4.0	2.7	3.8	2.4	2.8	2.8	3.6	2.8
12	2.7	1.6	3.7	2.5	3.3	2.4	2.6	2.7	3.4	2.6
2020/ 1	2.6	2.0	3.8	3.1	3.7	2.3	2.5	2.7	3.5	3.0
2	2.7	2.5	4.5	3.5	3.9	2.4	3.0	3.5	4.0	3.4
3	2.4	1.2	2.8	3.8	2.3	2.1	1.9	1.8	2.7	3.0
4	3.7	2.0	3.3	5.9	4.3	3.2	3.4	2.5	3.4	4.7
5	8.0	5.8	7.5	9.0	7.8	6.5	6.5	5.2	7.6	8.0

国内銀行 貸出残高

(末残前年同期(月)比、%)

	北海道	東北	北陸	関東甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	全国
2017年	3.4	3.3	2.2	2.7	1.9	1.5	4.4	2.9	3.5	2.6
2018年	1.3	2.5	3.1	3.2	1.1	2.3	4.3	2.7	3.2	2.9
2019年	2.5	0.8	1.9	1.5	1.0	2.3	2.6	3.8	2.5	1.8
2018/4Q	1.3	2.5	3.1	3.2	1.1	2.3	4.3	2.7	3.2	2.9
2019/1Q	2.0	1.7	3.3	3.2	3.1	1.4	3.7	3.1	3.0	2.9
2Q	2.3	1.2	2.4	2.6	1.2	1.7	2.8	2.7	2.8	2.3
3Q	2.8	0.8	1.7	1.9	0.9	1.8	2.2	2.8	2.5	1.9
4Q	2.5	0.8	1.9	1.5	1.0	2.3	2.6	3.8	2.5	1.8
2020/1Q	1.1	0.5	1.7	2.0	1.3	2.8	3.0	2.6	2.8	2.1
2019/ 4	2.0	1.5	3.2	3.5	1.8	1.7	3.8	3.3	3.2	3.0
5	2.8	1.4	2.6	3.1	1.5	1.7	3.2	3.1	3.1	2.7
6	2.3	1.2	2.4	2.6	1.2	1.7	2.8	2.7	2.8	2.3
7	2.4	1.1	2.1	2.4	1.1	1.9	2.6	2.8	2.9	2.2
8	3.0	1.1	2.3	2.2	1.2	2.2	2.7	3.4	2.9	2.2
9	2.8	0.8	1.7	1.9	0.9	1.8	2.2	2.8	2.5	1.9
10	2.7	1.0	2.0	2.1	1.3	2.2	2.5	3.4	2.6	2.1
11	2.7	1.1	2.2	1.8	2.0	2.0	2.6	3.9	2.5	2.0
12	2.5	0.8	1.9	1.5	1.0	2.3	2.6	3.8	2.5	1.8
2020/ 1	2.7	0.9	2.0	2.0	1.9	2.5	2.7	3.5	2.7	2.2
2	2.2	0.8	2.3	2.0	2.2	2.9	2.9	3.7	2.9	2.2
3	1.1	0.5	1.7	2.0	1.3	2.8	3.0	2.6	2.8	2.1
4	1.6	1.1	2.6	3.5	9.9	4.2	3.2	3.1	3.4	3.9
5	3.2	2.3	4.2	5.9	13.3	5.7	5.2	4.4	4.7	6.0

(資料) 日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金」

地域割り一覧表

図表番号	1	2	3	4、5	5	6	図表番号					
標題	百貨店・スーパー 販売額	コンビニエンスストア 販売額	乗用車新車登録台数	新設住宅着工戸数 工場立地件数	民間非居住用建築物 着工床面積	地域別設備投資額	公共工事請負金額	標題				
資料出所 機関	経済産業省 中部経済産業局	経済産業省	日本自動車販売協会連合会 全国軽自動車協会連合会	国土交通省 経済産業省	国土交通省	日本政策投資銀行	北海道建設業信用保証 東日本建設業保証 西日本建設業保証	資料出所 機関				
北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道				
青森	東北	東北	東北	東北	東北	東北	東北	青森				
岩手								岩手				
宮城								宮城				
秋田								秋田				
山形								山形				
福島	北陸	中部	北陸	北陸	北陸4県	北陸	北陸	福島				
富山								富山				
石川	北陸／近畿	近畿						石川				
福井								福井				
東京	関東	関東	関東甲信越	関東甲信越	関東甲信	首都圏	関東甲信越	東京				
神奈川								神奈川				
埼玉								埼玉				
千葉								千葉				
茨城								北関東甲信	茨城			
栃木						栃木						
群馬						北陸4県		東北		群馬		
山梨					山梨							
新潟					関東甲信	北関東甲信		新潟				
長野								長野				
愛知	東海	中部	東海	東海	東海	東海	愛知					
岐阜	関東	関東						岐阜				
静岡								静岡				
三重	東海	中部					三重					
大阪	近畿	近畿	近畿	近畿	近畿	関西	近畿	大阪				
兵庫								兵庫				
京都								京都				
滋賀								滋賀				
奈良								奈良				
和歌山								和歌山				
鳥取	中国	中国	中国	中国	中国	中国	中国	鳥取				
島根								島根				
岡山								岡山				
広島								広島				
山口	四国	四国	四国	四国	四国	四国	四国	山口				
徳島								徳島				
香川								香川				
愛媛								愛媛				
高知	九州・沖縄	九州・沖縄	九州・沖縄	九州・沖縄	九州	九州	九州・沖縄	福岡				
福岡								佐賀				
佐賀								長崎				
熊本								熊本				
大分								大分				
宮崎								宮崎				
鹿児島								鹿児島				
沖縄								沖縄				

図表番号	7	8、9	10	11	12		13、14、15	図表番号			
標題	鉱工業生産指数	鉱工業出荷指数 鉱工業在庫指数	有効求人倍率	完全失業率 雇用者数	消費者物価指数 (除く生鮮食品)	市街地価格指数 (全用途平均)	企業倒産 地域別業況判断DI 国内銀行預金・貸出残高	標題			
資料出所 機関	経済産業省、各経済産業局 中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局		厚生労働省 日本銀行金沢支店	総務省	総務省	日本不動産研究所	東京商工リサーチ 日本銀行各支店、 調査統計局	資料出所 機関			
北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道			
青森	東北	東北	東北	東北	東北	東北	東北	青森			
岩手								岩手			
宮城								宮城			
秋田								秋田			
山形								山形			
福島	北陸	中部	北陸／北陸4県	北陸4県	北陸4県	北陸4県	北陸	福島			
富山								富山			
石川	北陸／近畿	近畿						石川			
福井								福井			
東京	関東	関東	南関東	南関東	関東甲信	関東	関東甲信越	東京			
神奈川								神奈川			
埼玉			北関東・甲信	北関東・甲信				埼玉			
千葉								千葉			
茨城								茨城			
栃木								栃木			
群馬								群馬			
山梨				北陸4県	北陸4県			山梨			
新潟								新潟			
長野			北関東・甲信	北関東・甲信	関東甲信	北陸4県		長野			
愛知								愛知			
岐阜	東海	中部	中部・東海	東海	東海	東海	岐阜				
静岡	関東	関東									
三重	東海	中部									
大阪	近畿	近畿	近畿	近畿	近畿	近畿	近畿	大阪			
兵庫								兵庫			
京都								京都			
滋賀								滋賀			
奈良								奈良			
和歌山								和歌山			
鳥取	中国	中国	中国	中国	中国	中国	中国	鳥取			
島根								島根			
岡山								岡山			
広島								広島			
山口	四国	四国	四国	四国	四国	四国	四国	山口			
徳島								徳島			
香川								香川			
愛媛								愛媛			
高知	九州	九州	九州・沖縄	九州・沖縄	九州	九州・沖縄	九州・沖縄	福岡			
福岡								佐賀			
佐賀								長崎			
熊本								熊本			
大分								大分			
宮崎								宮崎			
鹿児島								鹿児島			
沖縄								沖縄			

(注) 地域割りは、原則として資料作成元の通り。

なお、図表3（乗用車新車登録台数）、同4（新設住宅着工戸数）、同5（工場立地件数）、同6（公共工事請負金額）、同11（完全失業率、雇用者数）、同13（企業倒産）、同15（国内銀行預金・貸出残高）は、都道府県別計数を用いて調査統計局地域経済調査課が集計し直している。その際、数値の単位の違い等により、他の公表、掲載計数とは計数の末尾の値が異なる場合がある。

日本銀行各支店等のホームページアドレス

各支店等では、地域経済報告とは別に各地の地域経済・産業調査等を行っております。

地域名	支店名等	URL
北海道	釧路支店	https://www3.boj.or.jp/kushiro/index.html
	札幌支店	https://www3.boj.or.jp/sapporo/index.html
	函館支店	https://www3.boj.or.jp/hakodate/index.html
東北	青森支店	https://www3.boj.or.jp/aomori/index.html
	秋田支店	https://www3.boj.or.jp/akita/index.html
	仙台支店	https://www3.boj.or.jp/sendai/index.html
	福島支店	https://www3.boj.or.jp/fukushima/index.html
北陸	金沢支店	https://www3.boj.or.jp/kanazawa/index.html
関東甲信越	前橋支店	https://www3.boj.or.jp/maebashi/index.html
	横浜支店	https://www3.boj.or.jp/yokohama/index.html
	新潟支店	https://www3.boj.or.jp/niigata/index.html
	甲府支店	https://www3.boj.or.jp/kofu/index.html
	松本支店	https://www3.boj.or.jp/matsumoto/index.html
	水戸事務所	https://www3.boj.or.jp/mito/index.html
東海	静岡支店	https://www3.boj.or.jp/shizuoka/index.html
	名古屋支店	https://www3.boj.or.jp/nagoya/index.html
近畿	京都支店	https://www3.boj.or.jp/kyoto/index.html
	大阪支店	https://www3.boj.or.jp/osaka/index.html
	神戸支店	https://www3.boj.or.jp/kobe/index.html
中国	岡山支店	https://www3.boj.or.jp/okayama/index.html
	広島支店	https://www3.boj.or.jp/hiroshima/index.html
	松江支店	https://www3.boj.or.jp/matsue/index.html
	下関支店	https://www3.boj.or.jp/shimonoseki/index.html
四国	高松支店	https://www3.boj.or.jp/takamatsu/index.html
	松山支店	https://www3.boj.or.jp/matsuyama/index.html
	高知支店	https://www3.boj.or.jp/kochi/index.html
九州・沖縄	北九州支店	https://www3.boj.or.jp/kitakyushu/index.html
	福岡支店	https://www3.boj.or.jp/fukuoka/index.html
	大分支店	https://www3.boj.or.jp/oita/index.html
	長崎支店	https://www3.boj.or.jp/nagasaki/index.html
	熊本支店	https://www3.boj.or.jp/kumamoto/index.html
	鹿児島支店	https://www3.boj.or.jp/kagoshima/index.html
	那覇支店	https://www3.boj.or.jp/naha/index.html
本店（地域経済報告）		https://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm

労使からの意見聴取 結果について

山梨労働局労働基準部賃金室

【 事 例 1 】

- 会 社 名：A社（匿名希望）
- 事業の概要：食料品製造業(仕出し弁当の製造販売)
- 労働者数：全社386名（男73名、女313名）
正社員48名（男31名、女17名）
パート307名（男41名、女266名）
外国人28名、障がい者3名
職種は、事務、営業、製造、配送

県内に3拠点、東京・
神奈川にそれぞれ1拠点
あり。
神奈川では、学校給食
も行う。

事例 1 - 1

使用者側からの意見聴取

対象者：総務課長

所定労働時間・休日、賃金額

○所定労働時間

正社員：1日8時間00分、週40時間00分

パート：1日5時間15分、週26時間15分 等

所定休日：土・日・祝日（事務系）、製造現場は
ローテーション

○賃金額

正社員の最も低い賃金額：月給182,000円

（職種：営業事務）

パート社員の最も低い賃金額：時給860円 山梨の最高は
時給1,000円

東京・神奈川の事業所は
時給1,020円が最低

（職種：調理補助・盛付等）

近年の労働者数の推移・最近の景況感等

○労働者数の推移等

全社で400名弱で概ね推移しており、大きな増減はない。平均年齢は48歳ぐらい。

○最近の景況感

新型コロナウイルス感染症の拡大により、大口顧客企業（観光関係）の一斉休業、在宅勤務への移行等により産業給食の大幅受注減、休校による学校給食の中止により、業績に大きな影響を受ける。

一部回復が見られるが、先行きは不透明。固定費の削減、業務効率化、助成金（雇用調整助成金・学校等休業助成金）の活用に取り組む。

賃金をどのように決定しているか

○賃金テーブルは作成していない。職種ごとにベースとなる金額を定め、経験年数等に応じて、金額を加算して決める。

○新卒、中途採用及び非正規社員の初任給は、県内の職種別の賃金データや同業他社の求人チラシやハローワークの求人内容を参考に決定。募集しても応募がなければ、賃金額を再考する。

最賃額ぎりぎりでは応募がない。

賃金の改定はどのように行うか

○正社員については、全体的な昇給は行っていない。個人ごとに、役職に就いた際に対応する。

若年層の場合は、基本給のアップに加え、手当を付ける。高年齢層の場合は手当をアップさせる。

○パート社員については、毎年、最低賃金が引き上げられると、その額に応じて、時給額を全体的に底上げしている。

最低賃金に係る認識

○最低賃金が定められていること、毎年改定されていることは知っている。

○パート社員の時給額を見直す必要があるため、山梨県最低賃金額を普段から意識しており、改定額にも注目している。

○山梨県最低賃金額 1 時間 8 3 7 円は妥当な金額

○近年の最低賃金の引上げ状況には理解

○「早期に1000円」の政府方針も理解しているが、一気に上げるのは経営的に厳しいので、段階的な引上げを。

最低賃金が定められていることによる企業経営への影響は

○パート社員の割合が約9割のため、毎年、最低賃金が引き上げられると、約9割の労働者の時給額を見直す必要があり、人件費増加の負担が大きい。毎年、この負担増を吸収するため、価格の改定や人件費以外のコスト削減等の自助努力を行っている。

最低賃金に関する行政及び審議会への意見・要望

○現状のコロナ禍において、雇用の維持が最優先課題であると考えており、固定費の削減や助成金制度の活用等に取り組んでいる。このような厳しい状況下にあることを理解いただいた上での審議をお願いしたい。

○今年は特殊な状況であり、最低賃金は引き上げるべきではない。

○今後、最低賃金を引き上げる際には、企業が引上げに対応するための支援策（社会保険料の軽減、法人税の軽減等）を検討いただきたい。

事例 1 - 2

労働者からの意見聴取

対象者：事務リーダー

（36協定の労働者代表）

勤続24年の月給者（約22万円）
営業事務担当で、受注や配達手配を行っている。
6～7年前にパートから正社員になった。

最低賃金に係る認識

- 最低賃金制度（罰則付きの法律による定め・毎年改定・具体的な金額）については、新聞が好きでよく読んでいるので、承知している（自身が賃金関係の業務を行っているわけではない。）。
- 山梨県最低賃金837円は、適正な金額であると感じる。もちろん、高いに越したことはないが、高すぎると企業経営を圧迫するおそれがある。
- 法律で定められていることは必要。そうしないと、会社の好きな金額に賃金を設定されてしまうおそれがある。

近年の賃金の改定状況及び今後の賃金改定に係る会社への要望

○昇給は、過去6年間で1回のみで、リーダーになった際に手当てが付いたもの。

○定期的な昇給を望んでいる。

（月給者は）最低賃金が引き上げられても、それに連動して自身の給料が上がるわけではない。最低賃金が引き上げられたら、その分、給料が上がるとうい。

最低賃金に関する行政等への意見・要望

○最低賃金は必要であるが、地域によって金額が大きく異なることには疑問。同じ仕事をしていても金額が違ふのはおかしいと感じる。地域ごとにそれほど必要な生活費は変わらないのではないかな。

○一人で最低レベルの生活ができるだけの金額を最低賃金で保障してほしい。

○今年の最低賃金については、気持ちとしては、昨年と同じぐらい上がってほしいが、新型コロナウイルス感染症の影響を考えると、現実的には、今年は最低賃金を上げるのは厳しいのでは。

【 事 例 2 】

- 会 社 名：B 法人（匿名希望）
- 事業の概要：社会福祉施設（特別介護老人ホーム・
デイサービス・居宅介護支援・グループ
ホーム）
- 労 働 者 数：全社 63 名（男 16 名、女 47 名）
正社員 40 名（男 14 名、女 26 名）
パート 23 名（男 2 名、女 21 名）
外国人 0 名、障がい者 0 名
派遣労働者 8 名

事例 2 - 1

使用者側からの意見聴取
対象者：施設長

所定労働時間・休日、賃金額

○所定労働時間

正社員：1日8時間00分、週40時間00分

パート：1日4時間～8時間

所定休日：週休2日（ローテーションによる）

○賃金額

正社員の最も低い賃金額：月給158,000円

（職種：介護職）

パート社員の最も低い賃金額：時給840円

（職種：調理・介護補助）

近年の労働者数の推移

○募集しても応募者が少なく、また、専門学校の入学者も減っており、学卒者の採用も厳しく、人手不足に拍車がかかっている。

○スタッフの高齢化も進んでいる。

○外国人労働者の採用も検討しているが、採用にはそれなりの経費がかかるし、言葉の問題もある。

最近の景況感等

- マスク、消毒液、グローブ等の衛生用品の物品費がかなり経費増となっている（特にグローブは入手困難）。
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、新規のショートステイの受入れを停止している。
- デイサービスの利用者の中には、感染を恐れて、自主的に利用をやめている方もいる。
- 新しい入所の申込みがあった場合、生活歴等の調査に十分に時間をかけざるを得ない。
- 経営的に打撃を受けているが、その全体像は、1年が経ってみないとわからない。

賃金をどのように決定しているか

- 20年ぐらい前の「社協モデル」と言われる賃金テーブル（当時の公務員の俸給表に似たもの）を現在も使用している。そのため、1号棒の金額の幅が数千円と大きい（最近のものは、細分化されており、金額の幅は数百円）。
- 1年勤務継続すると、1号棒昇給する。
- 新卒や中途採用者については、資格と経験を考慮した上で、賃金テーブルに当てはめている。
- 経験年数については、一定の指数（0.7など）を乗じた上で、評価する。

賃金の改定はどのように行うか

- 正規社員の給与改定は、定期昇給以外には、介護福祉士の資格を取得した際に、考慮する程度。
- 「自己評価」を給与に反映させることを導入し始めたところ。
- 非正規職員については、毎年、最低賃金が上がると、時給を引き上げているが、全員一律の引上げにはなっていない。時給が下層の職員の方が上げ幅が大きく、上層と下層の時給額の幅が縮まることとなる。
- 本当は、全員一律の底上げを行いたいですが、経営的に厳しく、できていない。

最低賃金に係る認識 1

- 最低賃金が定められていること、毎年改定されることは承知しており、非正規職員の時給の見直しに連動することから、普段から最低賃金額は意識している。
- 山梨県の最低賃金は850円ぐらいが妥当では。
(現在の最低賃金は837円のため、企業内最低賃金は840円としている。)
- 5年ぐらい前は、毎年、大幅な引上げなど無理だと思っていたが、実際に毎年20数円も上がってみると、これぐらいが妥当かとも思う。

最低賃金に係る認識 2

○最低賃金が4年連続で20数円上がってきていることについては、肯定的にとらえている。

○東京や神奈川では、時給1000円を超えたようだが、隣接県である山梨県としては、160円以上の差をどう解消したらよいのか？

県境近くでは、東京・神奈川や静岡に、県内の労働者が流れてしまう。

最低賃金に関する行政及び 審議会への意見・要望

○行政や審議会には頑張っている。

○本年度は、新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響の全体像が見えていない。感染第2波の懸念もある。

○今後、持ちこたえられるかわからない。

○定期賃金には、影響していないが、今年の冬のボーナスには影響するものと思われる。

○本年度の最低賃金については、引上げを見送るべきである。

事例 2 - 2

労働者からの意見聴取

対象者：事務リーダー

（前年度の36協定の労働者代表）

勤続18年の介護職副主任（月給30万円弱）
介護全般、ショートステイの受入れ、家族や
ケアマネとともにケアプランの見直しを行う。
昨年度の36協定の労働者代表

最低賃金に係る認識 1

- 最低賃金が定められていることは知っている。
- 罰則付きの法律で定められていることや、毎年見直されていることは知らなかった。
- 現在の山梨県の最低賃金額は知っている。
（テレビで東京の最低賃金について報じていたため、気になって、山梨県の最低賃金をインターネットで調べたことがあった。）

最低賃金に係る認識 2

○職種や能力にもよるであろうが、1時間837円では、1日8時間、月20日働いても13万円ちょっとにしかならず、そこから税金等が引かれると生活できないのでは。高校生のアルバイトならよいかもしれないが、社会人には厳しい。

○政治家はたくさんお金をもらっている。真面目に働いている労働者の賃金をもっと引き上げるべき。そうすれば、仕事のモチベーションも高まる。

○ただ、労働者自身も自らの能力を高める努力をすべきであり、何も努力していない労働者の賃金も一律に上げるのはどうかと思う。

○法律で定められていることは、ブラック企業も規制できるのでよい。

近年の賃金の改定状況及び今後の賃金改定に係る会社への要望

○賃金テーブルが定められており、それに基づき、毎年1号棒昇給している。将来の自分の給料の額を予想することができ、生活設計ができるのでよい。

○職場では、新型コロナウイルス感染症の影響が出ている。院内感染、クラスターの発生を警戒して、ショートステイなど外部からの受入を停止しており、空きベッドが16床ある。派遣労働者も削減した。

○冬のボーナスには影響があると思うし、今後、昇給がどうなるかもわからない(賃金の引上げを求めるのは厳しい状況)。

最低賃金に関する行政等への意見・要望

○もう少し、一般庶民の立場になって考えてもらいたい。

○本年度の最低賃金の見直しについては、働く側としては、もちろん上げてほしいが、経営者の立場に立って考えてみると、経営が苦しく、雇用の維持を最優先に考えると思うので、正直言って、上げるべきなのかどうか、自分はわからない。

最低賃金に関するアンケート（使用者用）

1 会社概要

（１）事業の概要

（２）労働者数

全社_____名（男_____名・女_____名）

内 正社員_____名（男_____名・女_____名）

パート_____名（男_____名・女_____名）

外国人_____名、障がい者_____名

（３）賃金額

正社員の最も低い賃金額 月給 ・ 日給 ・ 時給_____円

職種（ _____ ）

パート社員の最も低い賃金額 月給 ・ 日給 ・ 時給_____円

職種（ _____ ）

（４）労働時間・休日

所定労働時間

正社員：１日_____時間_____分、 週_____時間_____分

パート：１日_____時間_____分、 週_____時間_____分

所定休日

2 最近の景況感（新型コロナウイルスの影響含む）及び今後の見込み

3 近年の労働者数の推移（全体数の変化、年齢構成の変化、正規・非正規の比率の変化等）

4 新卒、中途採用及び非正規社員等の初任給を決定する際に参考とする事項

最低賃金に関するアンケート（労働者用）

- 1 最低賃金が定められていることを知っていますか？
 - a 知っている
 - b 知らない →（以下5の質問へ）
- 2 最低賃金は罰則付きの法律（最低賃金法）で定められていることを知っていますか？
 - a 知っている
 - b 知らない
- 3 山梨県における最低賃金がいくらか、具体的な金額を知っていますか？
 - a 知っている
 - b 知らない
- 4 最低賃金は毎年見直しが行われていることを知っていますか？
 - a 知っている
 - b 知らない
- 5 山梨県最低賃金は、現在、1時間837円ですが、この金額についてどのように感じますか？
 - a 安い
 - b 高い
 - c 適正である
- 6 最低賃金が法律で定められていることについて、どのように思いますか？
（例 賃金が安くなりすぎないのでよい、賃金は採用時に労使で自由に決めればよいので不要である 等）
- 7 近年の給料の改定状況及び今後の給料改定に関する要望
- 8 最低賃金に関する行政等への意見・要望

